UNIVERSITY CATALOGUE

学生要覧

東京電機大学大学院未来科学研究科

2013 修士課程

TOKYO DENKI UNIVERSITY
Graduate School of Science
and Technology for Future Life
Master's Program.

TDU

2013年度　年間行事予定

主 要 行 事	平 成 25 年 度
・入学式	4 月 2 日（火）
・新入生ガイダンス	4 月 4 日（木）
・健康診断	4 月 6 日（土）（予定）
・前期授業開始	4 月 8 日（月）
・授業日（「昭和の日」であるが、授業実施日とする日）	4 月29日（月）
・振替休講日	5 月 2 日（木）
・授業日（「海の日」であるが、授業実施日とする日）	7 月15日（月）
・授業予備日	7 月16日（火）、17日（水）
・前期授業終了	7 月27日（土）
・夏季休業	7 月28日（日）～ 9 月 8 日（日）
・振替休講日	8 月 2 日（金）
・後期授業開始	9 月 9 日（月）
・授業日（「創立記念日」であるが、授業実施日とする日）	9 月11日（水）
・授業日（「敬老の日」であるが、授業実施日とする日）	9 月16日（月）
・授業日（「秋分の日」であるが、授業実施日とする日）	9 月23日（月）
・授業日（「体育の日」であるが、授業実施日とする日）	10月14日（月）
・振替休講日	10月30日（水）、31日（木）
・学園祭（旭祭）による休講期間	11月 1 日（金）～ 5 日（火）
・学園祭（旭祭）	11月 3 日（日）、4 日（月）
・授業日（「勤労感謝の日」であるが、授業実施日とする日）	11月23日（土）
・授業日（「天皇誕生日」であるが、授業実施日とする日）	12月23日（月）
・授業終了（年内）	12月23日（月）
・授業予備日	12月24日（火）、25日（水）
・振替休講日	12月26日（木）
・冬季休業	12月27日（金）～ 1 月 6 日（月）
・後期授業再開	1 月 7 日（火）
・後期授業終了	1 月11日（土）
・振替休講日	1 月14日（火）、15日（水）、16日（木）
・大学入試センター試験および準備に伴う２号館閉館	1 月17日（木）～19日（日）
・授業予備日	1 月20日（月）
・【修士論文予稿受付期間】	1 月24日（金）～27日（月）
・【修士論文締切（審査用）】	1 月31日（金）
・【修士論文試問期間】	2 月 1 日（土）～14日（金）
・【修士論文及び研究成果発表会（専攻ごと：口頭発表会）】	2 月 6 日（水）～15日（土）
・【修士論文及び研究成果発表会 （研究科合同：ポスターセッション方式）】	2 月15日（土）（予定）
・【修士論文最終締切（保存用）】	2 月28日（金）
・【修了式】	3 月18日（火）

※【　】内は参考として平成 25 年度修了年次生の予定を掲載

UNIVERSITY CATALOG

学生要覧　2013　大学院編

東京電機大学大学院未来科学研究科

目　　次

学修案内

大学院への期待（学長 古田勝久）…… 2
専門性と指導力（未来科学研究科委員長 安田　浩）…… 3
1　東京電機大学大学院の建学の精神…… 4
2　東京電機大学大学院の教育・研究理念…… 4
3　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的…… 4
　未来科学研究科
　建築学専攻
　情報メディア学専攻
　ロボット・メカトロニクス学専攻
4　㈶大学基準協会による認証評価（大学評価）の受審について…… 5

履修案内

1　皆さんへの情報伝達・連絡の方法…… 8
2　履修登録…… 9
3　履修することができる授業科目…… 9
4　他大学院との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い…… 10
5　昼夜開講制の実施…… 10
6　授業…… 11
7　シラバス（講義要目）…… 12
8　試験及び成績評価…… 13
9　修了要件…… 13
10　学位 …… 16
11　修士論文等の取扱い …… 16
12　教育職員免許状 …… 20
13　一級建築士受験資格要件（実務経験）…… 22
14　先端科学技術研究科博士課程（後期）進学 …… 24
15　留学・海外語学研修 …… 25
16　連携大学院協定研究所 …… 26
学生ポータルサイト「ＤＥＮＤＡＩ－ＵＮＩＰＡ」操作マニュアル … 27

授業科目配当表及び研究指導教員等（専門分野と指導研究テーマ）

建築学専攻…… 63
情報メディア学専攻…… 71
ロボット・メカトロニクス学専攻…… 77

学生生活

1　窓口取扱い…… 84
2　証明書関係…… 84
3　正課授業による閉館時間中の施設利用…… 85
4　大学院研究費による補助取扱い…… 85

5　学籍…… 86
6　学生証…… 87
7　学費…… 89
8　奨学金制度…… 90
9　副手制度…… 93
10　保険制度 …… 94
11　教育訓練給付制度 …… 98
12　その他 …… 98
13　校友会 …… 99

各種施設の利用

総合メディアセンター…… 102

STOP! HARASSMENT …… 111

学則および諸規程

東京電機大学大学院学則…… 116
東京電機大学大学院未来科学研究科規則…… 126
東京電機大学学位規程（抄）…… 128
東京電機大学学生救済奨学金貸与規程…… 131
東京電機大学学生支援奨学金貸与規程…… 133

沿革 …… 136

東京電機大学校歌・学生歌…… 142

キャンパス案内

東京千住キャンパス案内について…… 146
東京千住キャンパス配置図…… 147
千葉ニュータウンキャンパス案内図…… 171

ＴＤＵプライバシーポリシー
学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集
   個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。
2. 個人情報の利用
   個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。
3. 個人情報の提供
   個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。
4. 個人情報の管理
   個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。
5. 個人情報に関する請求への対応
   個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。
6. 個人情報保護の推進等
   個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

東京電機大学工学部･未来科学部事務部及び学生支援センター
セキュリティポリシー

東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センターでは、業務を滞りなく遂行する上で、収集及び知り得る「個人情報」（氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができる情報）について、情報基盤の整備、管理、活用することの責務を認識し、厳重な管理体制のもとで情報資産の管理、保管を行い、情報の機密性、安全性を維持することにより、「個人情報」保護の促進に努めます。

また、本来の目的以外で「個人情報」を第三者等に漏洩することのないよう、「東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センター個人情報保護に関するガイドライン」を遵守し、合理的な範囲内でセキュリティの強化に努めます。

以上

学　修　案　内

大学院への期待

学長　古田勝久

東京電機大学の大学院は、修士課程には、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科があり、博士課程（後期）は、先端科学技術研究科となります。

20 世紀後半から 21 世紀にかけて、科学技術は目覚ましい発展をし、世界的に経済成長とグローバル化をもたらし、政治、経済、文化等の社会活動の基盤となってきました。そして、現代は、知識・情報・技術が、これまでにない価値を持つ知識基盤社会になってきました。

大学院修士課程は、研究者養成のためと言うより、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成、高度専門職業人となるための幅広い学識の涵養を図り、研究能力又はこれに加えて高度で専門的な職業を担うための卓越した能力を培う課程であると考えられるようになって来ました。また博士課程（後期）も、高度な専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る高度な研究能力とその基盤となる豊かな学識を養い、修了者が研究・教育機関に限らず、社会の多様な場で中核的な人材として活躍することが求められています。

産業界を取り巻く環境も、生産・販売を単に海外に移すというより、株主、管理運営、製造販売のグローバル化が進み、企業自体が国際企業になって来ました。そして、社会・技術の変化に大きく影響されるようになりました。最近の電機業界の状況を見てもわかる通り、新しい技術の導入、開発製造のサイクルが年々短縮化しました。そして、技術者には、新しい技術に対応し、さまざまな分野の人と協力して問題解決にあたることの出来るコミュニケーション能力が益々要求されてきています。このような社会環境の中で、コースワークの充実による実質化、国際的に活躍できる能力を養成する大学院教育に、ますます大きな期待が寄せられて来ています。

理工系の学部生の約４０％が大学院に進学していますが、諸外国と比べて日本の大学院の修了の若者の比率は低くなっております。大学院での教育・研究を通じて、これからの科学技術の発展にも十分適応できるような基盤技術を身に付けた科学技術者の活躍が必要になっています。

本学は、「実学尊重」を建学の精神、「技術で社会に貢献する人材の育成」を使命とし、初代学長の丹羽保次郎先生の名言「技術は人なり」を教育・研究の理念としてきました。大学院で研究を通じて教育を受ける学生の皆さんは、本学の使命である、社会に貢献する技術を生み出す、あるいは社会のいろいろな問題を技術により解決する人材になるべく、自分の専門だけでなく、関連する様々な分野にも興味を持ってください。これからの国際化、先端化、融合化の社会で活躍するための技術基盤と研究能力、豊かな学識と国際的なコミュニケーション能力を東京電機大学の大学院で養ってください。

専門性と指導力

未来科学研究科委員長　安田　浩

未来科学研究科があなた方に提供する教育の特徴を一言でいえば、それは未来科学部における教育との連続性を失わず、かつ専門性と指導力を高めるように注意深く組み立てられているということです。したがって未来科学研究科の教育のモットーは学部と同じく「プロの能力、豊かな教養」です。

未来科学研究科や未来科学部の教育・研究の対象として、私たち教職員が考えているのは、２１世紀における未来型生活空間の創生に必要な科学技術です。技術領域の観点から考えると、未来型生活空間の創生に必要な科学技術は、「人が住む生活の場を構成する建築学」、「人が住む生活の場へ知識をもたらす情報メディア学」及び「人が住む生活の場で交流を促すロボット・メカトロニクス学」の、三つの技術領域からなると私たちは考えています。未来科学研究科の三つの専攻はそれぞれの技術領域に対応しています。科学技術の使命は「人類の豊かな未来を創造すること」でありますから、未来科学研究科の教育・研究はその使命の実現そのものであるということができます。

未来科学研究科では、特に「豊かな教養科目」を設けて、３専攻の学生諸君が共通して受講することを期待しています。これは私たちが、技術領域ごとに異なる技術に対する考え方、いわば領域固有の技術思想について、自分の専攻とは異なる領域の人たちの考え方を理解する心を、あなた方が身につけることを期待してのことです。社会に出て、他分野の人と一緒に仕事をするとき、この心は必ずやあなた方を豊かな交流の場に導いてくれるでしょう。

この要覧は、未来科学研究科で生活するときに、また学園生活を有意義なものにするために必要ないろいろな規則や情報をまとめたもので、言わば学園生活におけるバイブルというべきものです。折にふれてこの要覧を活用され、何か困ったことがあったら、まずこの要覧を参照されることを勧めます。きっと困難を解決することが出来ます。それでも問題が残るときは、２号館３階の事務部を訪ね事務の人に相談してください。

私たち未来科学研究科の教職員は、あなた方が学部生として４年間で学んだいろいろな知識の上に、さらに大学院修士課程の２年間の学習経験を積み重ねることによって、人から信頼される確かな仕事ができる「プロの能力」と、自己の立場を理解し、周囲と調和した行動ができる「豊かな教養」を併せ持つだけでなく、より高度な専門性を持ち、集団を率いる指導力を持った技術者に成長されることを衷心より願うものです。

1　東京電機大学大学院の建学の精神

「実学尊重」

1907 年（明治 40 年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げました。

2　東京電機大学大学院の教育・研究理念

「技術は人なり」

1949 年（昭和 24 年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げました。

3　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【未来科学研究科】

未来科学研究科は、学部教育で培った科学技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的生産活動を促進する生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）を創生する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、人の生活空間環境の発展と維持に、科学技術を適用しかつ共生させることができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性と創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

【建築学専攻】

建築学専攻は、学部教育で培った建築技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的住空間を創生する建築学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、建築学の「建築計画・意匠」「建築構造・情報」「建築環境・設備」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

【情報メディア学専攻】

情報メディア学専攻は、学部教育で培った情報メディア技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的情報空間を創生する情報メディア工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワークコンピューティング」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

【ロボット・メカトロニクス学専攻】

ロボット・メカトロニクス学専攻は、学部教育で培ったメカトロニクス技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的行動空間を創生するロボット・メカトロニクス工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、ロボット・メカトロニクス学の「電気電子工学」「機械工学」「情報工学」「コンピュータ工学」「制御工学」部門の基盤技術を相乗的に統合する創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

4　㈶大学基準協会による認証評価（大学評価）の受審について

認証評価制度は、2002（平成 14）年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間（7年以内）ごとに文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受審することとなり、2004（平成 16）年に導入されました。

本学は、2009（平成 21）年度に㈶大学基準協会（認証評価機関）において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定（認証期間 :2010（平成 22）年 4 月 1 日～ 2017（平成 29）年 3 月 31 日）されました。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

履　修　案　内

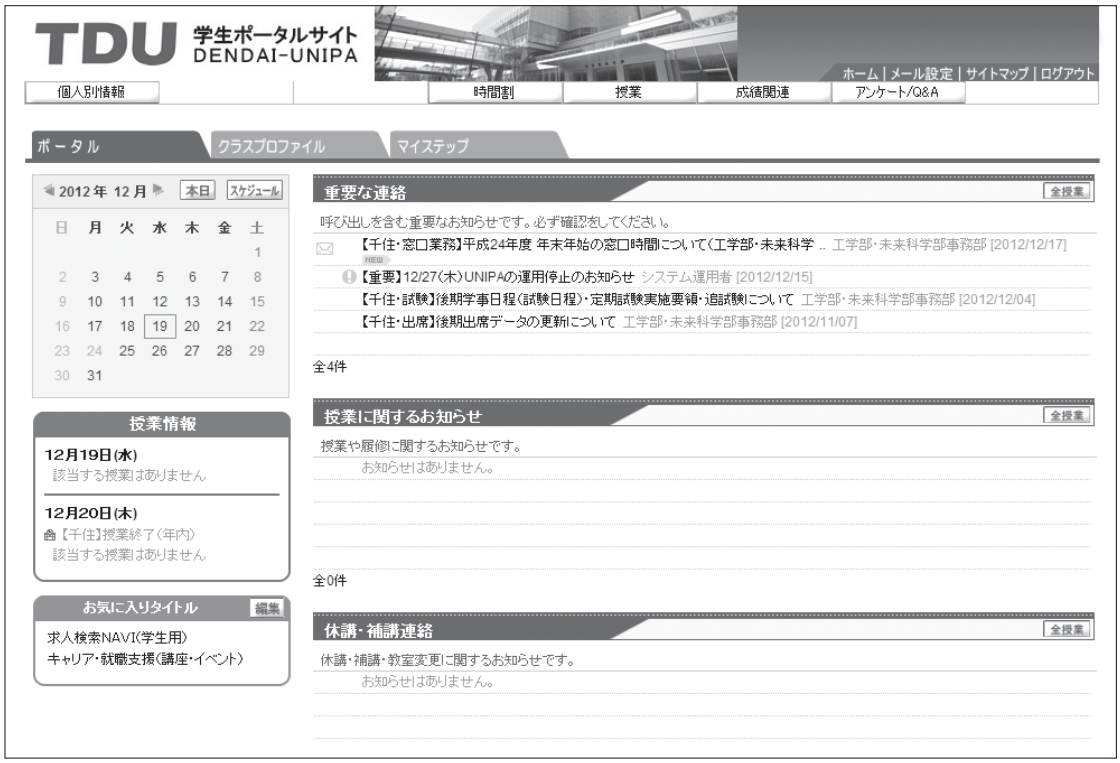
1　皆さんへの情報伝達・連絡の方法

みなさんへの告示、通知、呼出しなどは、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA（以下、UNIPA（ユニパ））で「掲示」します。本文中に記載されている「掲示」とは、主に UNIPA に届く通知・連絡を指します。

講義の休講・補講、教室の臨時変更などの連絡をはじめ、履修登録（受講する科目の選択）や成績の発表、学生生活に必要な情報など、あらゆる連絡・手続きの手段として UNIPA を利用します。

自分で責任を持って、必ず毎日複数回 UNIPA を確認し、見落としや手続きモレが生じないよう注意して、充実した学生生活を送ってください。

UNIPA に関しては、P.27「学生ポータルサイト「DENDAI-UNIPA」操作マニュアル」で詳しくご案内していますので確認してください。



UNIPA 画面

2　履修登録

授業科目配当表、時間割表をもとに研究指導教員に確認のうえ、指示された形式に従い、履修登録を行ってください。履修登録をしていない科目（無届科目）の受講・受験は許されません。また、単位の認定も行われません。

履修登録の変更、追加は履修登録期間中、履修登録確認および修正期間中に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA で行って下さい。履修登録の詳細（方法や期間）は、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等で案内します。

3　履修することができる授業科目

履修登録をすることにより、次の授業科目を履修することができます。

①　自分の所属する専攻の授業科目

②　他の専攻の授業科目

研究指導教員が教育研究の指導上必要と認めたときは、自分の所属専攻に配当されていない本学大学院の他専攻（工学研究科・理工学研究科・情報環境学研究科の専攻も含む）の授業科目を履修することができます。

科目数の制限はありませんが、修了要件単位に算入することのできる単位は 10 単位までです。

③　豊かな教養科目

未来科学研究科では以下の科目を３専攻共通の「豊かな教養科目」として開講しています。

- 建築学専攻…「デジタル放送論」「情報セキュリティ実践概論」「IT とビジネスモデル A と同B」
- 情報メディア学専攻…「安全都市システム論」「IT とビジネスモデル A と同B」
- ロボット･メカトロニクス学専攻…「安全都市システム論」「デジタル放送論」「情報セキュリティ実践概論」

なお、ロボット・メカトロニクス学専攻においては「豊かな教養科目」より２単位以上修得することが修了要件の１つとなっていますので、注意してください。

④　学部の授業科目（履修登録時に手続きのこと）

研究指導教員が教育研究の指導上必要と認めた場合は、学部の授業科目を履修することができます。ただし、専攻主任ならびに学部授業科目の担当教員の承認を受けるとともに、工学部・未来科学部事務部で所定の履修登録手続きを行い、未来科学研究科委員長の承認を得る必要があります。

⑤　**特例扱い**

以下のものについては、所定の要件を充たせば本学で履修したものと同様に扱われます。10 単位を上限として、修了要件に算入できます。研究指導教員と相談のうえ、工学部・未来科学部事務部で手続きを行い、未来科学研究科委員長の承認を得る必要があります。詳細は大学院学則第 15 条～第 17 条をお読み下さい。

（1）他大学の大学院（東京理工系４大学・首都大学院コンソーシアム）または外国の大学院において履修した授業科目

（2）入学前の既修得単位

（3）他の大学院または研究所等における研究指導

４　他大学院との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い

未来科学研究科では、大学間の学術交流を通じて大学院における教育・研究活動のより一層の充実を図るため、首都大学院コンソーシアム、東京理工系４大学と単位互換協定を結んでいます。

本協定により、希望者は所定の手続きをとることにより、各大学院の授業科目を受講することができます。これにより取得した単位は、本学未来科学研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その取得した単位のうち 10 単位を超えない範囲で、未来科学研究科における授業科目の履修により取得したものとしてみなされます（大学院学則第 15 条）。この協定に基づく履修手続きの詳細は掲示によりお知らせします。科目によっては、有料となる場合があります。

協定大学

・　首都大学院コンソーシアム大学
　共立女子大学、順天堂大学、専修大学、玉川大学、中央大学、東京理科大学、
　東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学

・　東京理工系４大学
　東京都市大学（旧：武蔵工業大学）、工学院大学、芝浦工業大学

５　昼夜開講制の実施

未来科学研究科では「昼夜開講制」を実施しております。具体的には、授業科目によっては昼間５時限制の時間帯に加え夜間６時限（18：10 ～ 19：40）７時限（19：50 ～ 21：20）の時間帯を設けています。

６　授業

①　授業科目・単位等

各専攻に開講されている授業科目および単位数は「授業科目配当表」に掲載されている通りです。

②　学　期

前　期　４月１日～９月１０日まで
後　期　９月１１日～翌年３月３１日まで

③　授業時間

時　限	時　間
１時限	９：00 ～ 10：30
２時限	10：40 ～ 12：10
３時限	13：10 ～ 14：40
４時限	14：50 ～ 16：20
５時限	16：30 ～ 18：00
６時限	18：10 ～ 19：40
７時限	19：50 ～ 21：20

④　休講・補講・集中講義

（１）休講

学校行事を行う場合、科目担当教員の都合等で授業が休講になる場合は、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等で知らせます。

（２）補講

授業回数が不足した場合には、補講を行います。補講の有無は科目担当教員によって指示され、日程は授業や学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等により連絡します。

（３）集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。

なお、詳細な日程については、決まり次第、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等で連絡します。

⑤　交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏ＪＲ各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取り扱いは、次のとおりです。

①午前 6 時において運休が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
②午前 6 時において運休の場合は、午前中の授業は休講となります。
③午前 9 時において運休の場合は、終日休講となります。

その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

台風等による暴風警報が発令された場合

東京 23 区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

①午前 6 時において暴風警報が解除された場合は、平常通りの授業を行います。
②午前 9 時において暴風警報が解除された場合は、午前中の授業は休講とし、午後は平常通りの授業を行います。
③午前 9 時において暴風警報が解除されない場合は、終日休講となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及びポータルサイトで授業措置の情報を発信します。

その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。

上記の措置を行う場合、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自確認してください。

7　シラバス（講義要目）

シラバスには、科目名、配当学年、配当期、単位数、必選区分、担当者名、目的概要、達成目標、関連科目、教科書名、評価方法、テーマ・内容、オフィスアワー、履修上の注意等の授業科目に関する情報が掲載されています。

しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成すると共に、常時確認することにより確実に知識を積み重ねていってください。

なお、シラバスは学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA にて閲覧できます。

8　試験及び成績評価

①　試験

試験は、原則としてその授業の終了する学期末あるいは、学年末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって試験に代えることがあります。

なお、試験は履修登録した授業科目以外受験することはできません。

②　成績評価

成績はＳ・Ａ・Ｂ・ＣおよびＤの評価で表記されます。

成績評価は次の評点に対応します。

合否	評点	成績評価	GPA ポイント
合格	90 ～ 100	S	4
	80 ～ 89	A	3
	70 ～ 79	B	2
	60 ～ 69	C	1
不合格	0～ 59	D	0
	放棄	―	0

※ R…認定された科目。ＧＰＡ計算には含まれません。

※ 成績証明書にはＤ・－は表記されません。

$$※\ \text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（各科目の単位数×当該科目で得た GPA ポイント）の合計}}{\text{履修した科目の単位数の合計}}$$

※ ＧＰＡは小数点第４位を四捨五入した値で、履修中の科目は含めません。

③　成績通知

前年度末までの成績通知は３月頃に、前期末までの成績通知は後期開始前９月に行います。

成績通知の方法、期間は学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA にて知らせます。

9　修了要件

①　修了単位

修士課程に２年以上在学し、各専攻が定める次の要件を満たす所要科目 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければなりません。

また、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果（研究成果報告書）の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。

在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、１年以上の在学で修了を認めることができます。

【建築学専攻】

以下のプログラムから択一必修とし、入学時に研究指導教員との相談により決める。入学時に決定したプログラムは、在学中変更できない。

（1）　高度専門プログラム（研究コース）・職能教育プログラム（スタジオコース）共通科目
　　建築技術・知識演習Ⅱ（必修）　２単位

（2）　高度専門プログラム（研究コース）
　　上記（1）の共通科目に加えて、
　　建築学特別研究Ⅰ（必修）　４単位
　　建築学特別研究Ⅱ（必修）　４単位
　　その他の専門科目　20 単位以上
　　（※インターンシップⅤ～Ⅹ、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから２科目以上修得（選択必修）することを含む）

（3）　職能教育プログラム（スタジオコース）
　　上記（1）の共通科目に加えて、
　　建築学特別設計Ⅰ　２単位
　　建築学特別設計Ⅱ　２単位
　　建築学実習Ⅰ　２単位
　　建築学実習Ⅱ　２単位
　　建築学実習Ⅲ　２単位
　　その他の専門科目　18 単位以上
　　（※インターンシップⅤ～Ⅹ、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから２科目以上修得（選択必修）することを含む）

【情報メディア学専攻】

（1）　高度専門プログラム・職能教育プログラム共通科目
　　情報メディア学特別演習ⅠＡ（必修）　２単位
　　情報メディア学特別演習ⅠＢ（必修）　２単位
　　情報メディア学特別演習ⅡＡ（必修）　２単位
　　情報メディア学特別演習ⅡＢ（必修）　２単位
　　情報メディア学特別研究ⅠＡ（必修）　２単位
　　情報メディア学特別研究ⅠＢ（必修）　２単位

（2）　高度専門プログラム
　　上記（1）の共通科目に加えて、
　　情報メディア学特別研究ⅡＡ（必修）　２単位
　　情報メディア学特別研究ⅡＢ（必修）　２単位
　　その他の専門科目　14 単位以上

（3）　職能教育プログラム
　　上記（1）の共通科目に加えて、
　　情報メディア学特別制作Ａ（必修）　２単位
　　情報メディア学特別制作Ｂ（必修）　２単位
　　その他の専門科目　14 単位以上

【ロボット・メカトロニクス学専攻】

（1）	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ（必修）	4 単位
（2）	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ（必修）	4 単位
（3）	特別輪講ⅠA、特別輪講ⅠB、特別輪講ⅡA、特別輪講ⅡB（必修）	各 1 単位
（4）	専門科目 （情報駆動システム部門、メカトロニクス部門、ロボット・デザイン部門）	8 単位以上
（5）	専攻共通科目	2 単位以上
（6）	「豊かな教養」科目	2 単位以上

② 修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準

修士論文または特定課題の研究成果は、公表されている本研究科の『人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的』に即し、当該研究領域における修士としての確かな基礎学力を有し、独創性、創造性のある研究能力、実践的問題解決能力等を中心に、次の基準に基づき審査されます。

なお、論文審査及び学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は、公聴会形式で行うとともに、最終試験として、研究指導教員を含む審査員による口答試問が行われます。

（1） 当該研究領域において修士としての確かな基礎学力を修得しているか。
（2） 研究課題の設定が修士として妥当なものであり、研究遂行および論文作成または論文に代わる作品等の制作にあたっての問題意識が明確であるか。
（3） 設定した研究課題の研究に際し、適切な研究方法、調査・実験を行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされているか。
（4） 当該研究領域において、独自の価値、新規性、有用性、信頼性を有するものとなっているか。
（5） 問題点の的確な整理、把握、判断、解決までの実践的問題解決能力が身についているか。
（6） 論文または研究成果物の報告書に関しては、記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、序文・本文・結論までが首尾一貫した論理構成となっているか。

③ 早期修了条件について

「優れた業績をあげた者」については、１年間もしくは 1.5 年間の在学期間での修了を認めます。全専攻において修了希望時期の半年前に手続きを行ない、以下の条件を充足した学生について早期修了を認めます。

（1） １年間終了時、もしくは 1.5 年間終了時に修了することを希望していること。
（2） 入学後の１年間もしくは 1.5 年間で、各専攻が定める要件を満たす所要科目 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査及び最終試験に合格すること。

（3）　修士論文またはこれに代わる研究成果物関連科目の成績評価が「A」以上であること。また、学術論文誌、学会誌等に１編以上の学術論文（査読付）の採録が確定していること。ただし、建築学専攻及び情報メディア学専攻においては、研究成果物を当該分野において公表し、権威ある賞を受けるなど高い評価を得た業績をもって学術論文（査読付）に代えることができます。この場合は、当該専攻主任により、学術論文（査読付）と同等とみなし、それに代えることができると認められる旨の文書提出が必要です。
（4）　研究指導教員、専攻主任および研究科委員長が早期修了に相応しいと判断した者。

10　学位

未来科学研究科を修了した者については、大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類およびそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

建　築　学　専　攻	修士　（工学）
情報メディア学専攻	修士　（工学）
ロボット・メカトロニクス学専攻	修士　（工学）

11　修士論文等の取扱い

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出および審査手順については**「東京電機大学学位規程」**（後掲）およびそれに基づく手順内規等があるので、未来科学研究科委員長、研究指導教員等の指示に従って下さい。

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出スケジュール等については、修了年次に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 等で確認して下さい。

①　修士論文

論文作成上の注意事項

（1）　原稿は A ４判とし、Word 等で作成します。
（2）　１ページ目は、表紙とし、19 ページの表紙見本のように作成します。
（3）　本文、資料は通しページにします。
（4）　行数、文字数の指定はありませんが左右２センチの余白をとります。
（5）　作成した論文を PDF ファイル化し、元のデータとともに CD-ROM 等で提出します。PDF ファイル化に関する注意事項は 12 月初旬に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 等で案内します。
（6）　提出された論文の PDF ファイルはそのまま CD-ROM にまとめるので、丁寧に作成して下さい。

論文予稿の提出（参考：平成 25 年度の場合　平成 26 年 1 月 24 日（金）～ 27（月）まで）

① 原稿はＡ４判４枚とし、紙媒体で提出します。（提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入して下さい。）

② レイアウトについては「修士論文予稿見本」を参照して下さい。

※予稿は、専攻毎に製本して修士論文および研究成果発表会前に配布します。

論文の提出（審査用）（参考：平成 25 年度の場合　平成 26 年 1 月 31 日（金）まで）

① 研究指導教員、審査員に１部ずつ直接提出して下さい。

② 表紙は「修士論文表紙見本」を参照して下さい。

論文の提出（大学保存用）（参考：平成 25 年度の場合　平成 26 年 2 月 28 日（金）まで）

最終版１部を PDF ファイル化し、CD-ROM 等で工学部・未来科学部事務部に提出して下さい。

※CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

論文審査

論文（審査用）提出後、研究指導教員、審査員による論文審査（通常口頭又は文書）が行われます。試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けて下さい。

修士論文および研究成果発表会（参考:平成 25 年度の場合　平成 26 年 2 月 15 日（土）予定）

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は１月より準備を開始して下さい。

発表方法等は、１月初旬に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA にて発表者へ詳細を連絡します。

② 修士論文に代わる研究成果

研究成果報告書作成上の注意事項

研究成果物や研究成果報告書の提出形態は、研究テーマごとに異なりますので、研究指導教員の指示に従って下さい。

なお、研究成果報告書作成に係わる注意事項は、次のとおりとなります。

（1） 原稿はＡ４判とし、Word 等で作成します。

（2） １ページ目は、表紙とし、19 ページの表紙見本のように作成します。

（3） 本文、資料は通しページにします。

（4） 行数、文字数の指定はありませんが左右２センチの余白をとります。

（5） 作成した研究成果報告書を PDF ファイル化し、元データとともに CD-ROM 等で提出します。PDF ファイル化に関する注意事項は 12 月初旬に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 等で案内します。

（6） 提出された研究成果報告書の PDF ファイルはそのまま CD-ROM にまとめるので、丁寧に作成して下さい。

研究成果報告書予稿の提出（参考：平成 25 年度の場合　平成 26 年 1 月 24 日（金）～ 27 日（月）まで）

① 原稿はＡ４判４枚とし、紙媒体で提出します。（提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入して下さい。）

② レイアウトについては「研究成果報告書予稿見本」を参照して下さい。

※予稿は、専攻ごとに製本して修士論文および研究成果発表会前に配布します。

研究成果報告書の提出（審査用）（参考：平成 25 年度の場合　平成 26 年 1 月 31 日（金）まで）

① 研究指導教員、審査員に１部ずつ直接提出して下さい。

② 表紙は「研究成果報告書表紙見本」を参照して下さい。

研究成果報告書の提出（大学保存用）（参考：平成 25 年度の場合　平成 26 年 2 月 28 日（金）まで）

最終版１部を PDF ファイル化し、CD-ROM 等で工学部・未来科学部事務部に提出して下さい。

※ CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

研究成果審査

研究成果報告書（審査用）提出後、研究指導教員、審査員による審査（通常、口頭または文書）が行われます。

試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けて下さい。

修士論文および研究成果発表会（参考：平成 25 年度の場合　平成 26 年 2 月 15 日（土）予定）

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は１月より準備を開始して下さい。

発表方法等は、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA にて 1 月初旬に発表者へ連絡します。

【修士論文予稿見本】
【研究成果報告書予稿見本】

論　文　題　目
（　英　文　名　）

学籍番号　　氏名
研究指導教員　　教授　氏名

本　　文

【修士論文表紙見本】
【研究成果報告書表紙見本】

修　士　論　文　※
論　文　題　目
（　英　文　名　）

東京電機大学大学院未来科学研究科
○○○専攻修士課程
学籍番号　　氏名
研究指導教員　　教授　○○　○○

※研究成果報告書の場合は、「修士論文」を「研究成果報告書」として下さい。

12　教育職員免許状

①　取得することのできる教育職員免許状

教育職員免許状には学部卒業を基礎資格とする「１種免許状」と大学院修士課程を基礎資格とする「専修免許状」があります。本研究科修士課程の専攻を修了することにより次の免許教科の専修免許を取得することができます。

専　攻	取得できる免許状の種類および教科
建築学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」
情報メディア学専攻	高等学校教諭専修免許状「情報」
ロボット・メカトロニクス学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」

②　専修免許状取得に必要な資格・条件等

次の２つの条件を満たさなくてはなりません。

（１）修士課程修了者または修士課程に１年以上在学し修士課程修了見込みの資格を有する者。

（２）すでに、同一教科の「高等学校教諭１種免許状」を取得しているか、または免許状を取得してはいないが取得に必要な単位を取得済みであること。
高等学校教諭１種免許状については、学部の学生要覧を参照して下さい。
※１種免許状に必要な単位を取得していない場合は以下の⑤を参照

③　専修免許状取得に必要な単位

それぞれの免許教科に係わる自専攻科目の単位が 24 単位以上必要です。
どの授業科目が教科科目の単位として認定されるかは次によります。

（１）「工業」の専修免許取得に必要な単位
建築学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「工業」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「工業」を取得するために必要な 24 単位の中に算入されます。

（２）「情報」の専修免許取得に必要な単位
情報メディア学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「情報」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「情報」を取得するために必要な 24 単位の中に算入されます。

④　免許状申請手続

（１）一括申請 (修士課程修了時に専修免許状を取得)

大学で免許取得希望者の手続きを一括して東京都教育委員会に申請し、修了式の当日に各自へ教育職員免許状を交付します。手続き等の詳細については、教職掲示板の指示に従って下さい。

（2）個人申請

修士課程修了後に個人で教育職員免許状を取得することもできます。住所地の都道府県教育委員会に問い合わせ、必要な手続きを行って下さい。

⑤　学部で 1 種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者、又は学部で 1 種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していても免許状をもっていない者

学部段階で 1 種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者であっても、修士課程で教育職員免許状を取得する道があります。いろいろなケースがありますので、学年始めに必ず工学部・未来科学部事務部窓口にて個別に相談して下さい。

また、学部在学中に適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わることがあります。その場合は取得しなければならない科目が増えたりすることもありますので注意して下さい。

13　一級建築士受験資格要件（実務経験）

実務要件に関連する科目は下表の「①インターンシップ科目」、「②インターンシップ関連演習科目」、「③インターンシップ関連講義科目」に分類されます。①と②については、「設計・計画・意匠コース」、「構造コース」、「設備コース」の分野別に業務（実務）・演習の内容が変わります。また③については分野別に取得科目が決められています。

各コース（分野）を統一して取得する必要があり、コース（分野）を横断したインターンシップは、一級建築士の受験資格としては認定されないので注意する必要があります。

実務要件年数別単位取得及び在学期間の条件（制限）	
実務要件 2年	①14単位以上、②8単位以下、③8単位以下の条件で、①～③の合計30単位以上修得。 在学2年以上。
実務要件 1年	①4単位以上、②8単位以下、③8単位以下の条件で、①～③の合計15単位以上修得。 在学1年以上。

実務要件に関連する科目		※（　）内は単位数
①の科目 何単位でも実務要件単位に認定可能	＜学外インターンシップ＞ インターンシップⅤ(2)、インターンシップⅥ(2)、インターンシップⅦ(4)、 インターンシップⅧ(4)、インターンシップⅨ(4)、インターンシップⅩ(4) ＜学内インターンシップ＞ 建築学実習Ⅰ(2)、建築学実習Ⅱ(2)、建築学実習Ⅲ(2)、建築学実習Ⅳ(2) ※職能教育プログラム履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅲ」が必修。また「建築学実習Ⅳ」は履修できない ※高度専門プログラム履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」を履修できます	
②の科目 実務要件単位数は最大8単位が上限	建築学特別設計Ⅰ(2)、建築学特別設計Ⅱ(2) ※職能教育プログラム履修者のみ「建築学特別設計ⅠとⅡ」を履修可能でかつ必修科目 建築技術・知識演習Ⅰ(2)、建築技術・知識演習Ⅲ(2) ※「建築技術・知識演習ⅠとⅢ」は選択科目 建築技術・知識演習Ⅱ(2) ※「建築技術・知識演習Ⅱ」はプログラムを問わず必修科目。在学中に2級建築士を取得した場合は単位を認定します	
③の科目 実務要件単位数は最大8単位が上限	設計・計画・意匠コース(8科目)	都市デザイン論(2)、建築形態論(2)、建築空間デザイン論(2) 近代建築論(2)、地域施設計画論(2)、環境情報デザイン論(2)、 建築環境心理生理(2)、建築生産論(2)
	構造コース (10科目)	安全都市システム論(2)、空間構造創成論(2)、建築構造設計論(2) 構造デザイン認識論(2)、建築鋼構造論(2)、建築生産論(2) 建築ハイブリット構造論(2)、コンピューターデザイン論(2) コンピューターによる骨組解析論(2)、建築防災工学論(2)
	設備コース (6科目)	建築空間デザイン論(2)、環境情報デザイン論(2)、 建築環境形成技術論(2)、建築環境形成論(2)、 建築環境心理生理(2)、安全都市システム論(2)、 ※職能教育プログラム（スタジオコース）履修者は設備分野を選択することはできません

（1）実務２年を目指す場合の履修例

＜高度専門プログラムの例＞

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ（2）＋建築学実習Ⅱ（2）＋建築学実習Ⅲ（2）＋建築学実習Ⅳ（2）＋インターンシップⅦ（4）＋Ⅹ（4）＝ **16 単位**

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ（2）＋建築技術・知識演習Ⅱ（必 2）＋建築技術・知識演習Ⅲ（2）＝ **6 単位**

③インターンシップ関連講義科目

・意匠コース：都市デザイン論（2）＋建築形態論（2）＋建築空間デザイン論（2）＋近代建築論（2）＝ **8 単位**

・構造コース：安全都市システム論（2）＋空間構造創成論（2）＋建築構造設計論（2）＋構造デザイン認識論（2）＝ **8 単位**

・設備コース：建築空間デザイン論（2）＋環境情報デザイン論（2）＋建築環境形成技術論（2）＋建築環境形成論（2）＝ **8 単位**

① 16 単位＋② 6 単位＋③ 8 単位＝ 30 単位（>=30 単位）

＜職能教育プログラムの例＞

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ（2）＋建築学実習Ⅱ（2）＋建築学実習Ⅲ（2）＋インターンシップⅦ（4）＋Ⅷ（4）＝ **14 単位**

②インターンシップ関連演習科目

建築学特別設計Ⅰ（2）＋建築学特別設計Ⅱ（2）＋建築技術･知識演習Ⅰ（2）＋建築技術･知識演習Ⅱ（必 2）＝ **8 単位**

③インターンシップ関連講義科目

・意匠コース：都市デザイン論（2）＋建築形態論（2）＋建築空間デザイン論（2）＋近代建築論（2）＝ **8 単位**

・構造コース：安全都市システム論（2）＋空間構造創成論（2）＋建築構造設計論（2）＋構造デザイン認識論（2）＝ **8 単位**

＊職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

① 14 単位＋② 8 単位＋③ 8 単位＝ 30 単位（>=30 単位）

（2）実務 1 年を目指す場合の履修例

＜高度専門プログラムの例＞

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ（2）＋インターンシップⅤ（2）＝ **4 単位**

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ（2）＋建築技術・知識演習Ⅱ（必 2）＝ **4 単位**

③インターンシップ関連講義科目

・意匠コース：都市デザイン論 (2) ＋建築形態論 (2) ＋建築空間デザイン論 (2) ＋近代建築論 (2) ＝ **8 単位**

・構造コース：安全都市システム論 (2) ＋空間構造創成論 (2) ＋建築構造設計論 (2) ＋構造デザイン認識論 (2) ＝ **8 単位**

・設備コース：建築空間デザイン論 (2) ＋環境情報デザイン論 (2) ＋建築環境形成技術論 (2) ＋建築環境形成論 (2) ＝ **8 単位**

① 4 単位＋② 4 単位＋③ 8 単位＝ 16 単位（＞ 15 単位）

＜職能教育プログラムの例＞

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ (2) ＋建築学実習Ⅱ (2) ＋建築学実習Ⅲ (2) ＝ **6 単位**

②インターンシップ関連演習科目

建築学特別設計Ⅰ (2) ＋建築学特別設計Ⅱ (2) ＋建築技術・知識演習Ⅱ（必 2）＝ **6 単位**

③インターンシップ関連講義科目

・意匠コース：都市デザイン論 (2) ＋建築形態論 (2) ＝ **4 単位**

・構造コース：安全都市システム論 (2) ＋構造デザイン認識論 (2) ＝ **4 単位**

＊職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

① 6 単位＋② 6 単位＋③ 4 単位＝ 16 単位（＞ 15 単位）

14　先端科学技術研究科博士課程（後期）進学

先端科学技術研究科博士課程（後期）に進学を希望する者は、できるだけ多くの科目を幅広く履修しておくことが望まれます。

なお、被推薦資格等については、先端科学技術研究科博士課程（後期）学内推薦入試募集要項を参照して下さい。

15　留学・海外語学研修

本学では、海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3 週間程度の語学研修から 1 年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等も含めて計画的に検討するようにしてください。

（1）留学・海外語学研修の種類

①英語短期研修

海外協定校にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば「科学英語Ⅰ」の単位として認定されます。

1）コロラド大学ボールダー校（米国）：8 月に実施（約 3 週間）、募集は 5 月頃

②その他の海外語学研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修を実施しています。

（いずれも主に学部生を対象としていますが、応募者数等により大学院生の派遣も検討しますので、国際センターに問い合わせをしてください）

1）韓国語研修：大邱大学（韓国）にて、8 月に実施（約 3 週間）、募集は 5 月頃

2）中国語研修：中原大学（台湾）にて、3 月に実施（約 3 週間）、募集は 10 月頃

③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

※本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないので注意すること。

（2）留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

①海外語学短期研修

これまでに語学研修の募集要項や参加した学生の報告を国際センターで閲覧できるので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、TOEFL（Test of English as a Foreign Language）の受験とそのスコアカードが必要です。留学先により基準となる点数があり、

それを満たすためには通常半年から１年の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学科および工学部・未来科学部事務部（教務担当）の履修指導を受けてください。

（３）国際センターについて

国際センター（千住キャンパス２号館３階　９時～ 17 時）

「国際センター」では TDU の特色を活かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流を進めるために、あるときは留学生の日常的な相談相手として、またあるときは日本人学生の海外留学のお手伝い役として、さまざまな支援を行っています。

国際センター千住ラウンジ（千住キャンパス１号館４階　10 時～ 17 時）

「国際センター千住ラウンジ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活について相談できるだけでなく、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。また、留学生による語学講座（中国語・韓国語）も開催しています。

16　連携大学院協定研究所

本学大学院では、教育研究の充実を図るとともに、学術及び科学技術の発展に寄与することを目的とし、大学院生の研究指導を以下の研究機関と連携して行っています。

研究機関名
独立行政法人　理化学研究所
独立行政法人　産業技術総合研究所
財団法人　電力中央研究所
財団法人　国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研究所
独立行政法人　宇宙航空研究開発機構
独立行政法人　海上技術安全研究所
独立行政法人　情報通信研究機構
独立行政法人　物質・材料研究機構
日本放送協会放送技術研究所
独立行政法人　労働安全衛生総合研究所

学生ポータルサイト
「DENDAI − UNIPA」

操作マニュアル

（「シラバス閲覧」「履修登録」
「授業資料のアップ・ダウンロード」「成績確認」等）

2013年4月版

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」

目次

■ 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」
1. 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」について …… 29
2. 「DENDAI − UNIPA」閲覧可能パソコンについて …… 29

■ DENDAI − UNIPA へのアクセス・ログイン
1. DENDAI − UNIPA へのアクセス・ログイン方法…… 30
2. DENDAI − UNIPA の画面構成…… 32
3. 注意事項 …… 33

■ 掲示情報の確認
1. 掲示について …… 35

■ シラバスの閲覧
1. オンラインシラバスについて …… 36
2. シラバスの閲覧方法 …… 37
3. 他画面からのシラバス参照 …… 39

■ Ｗｅｂによる履修登録方法
0. 全体の流れ …… 40
1. DENDAI − UNIPA へのログイン…… 41
2. 履修希望科目の選択 …… 42
3. エラーチェック …… 44
4. 履修登録の確定 …… 46
5. 卒業見込判定 …… 47
6. 履修登録科目の確認方法 …… 48
7. 履修登録に関する FAQ …… 49

■ クラスプロファイル
1. クラスプロファイルについて …… 50
2. 授業資料のダウンロード方法 …… 52
3. 授業課題の提出方法 …… 53

■ 出席確認
1. 出席情報の確認について …… 55

■ 成績確認
1. 成績の確認について …… 57

■ その他の主な機能
1. 個人別情報について …… 58
2. メール設定について …… 59
3. 時間割について …… 60

学生ポータルサイト　「DENDAI − UNIPA」

1．学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」について

学生ポータルサイト DENDAI − UNIPA は、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・成績照会・課題提出など、様々な機能を使用することができるシステムです。

本学で学生生活を送る上で必ず使用することになります。

また、個別の学生呼出しなども「DENDAI − UNIPA」上で行いますので、1 日に複数回、確認するよう心がけてください。

2．「DENDAI − UNIPA」閲覧可能パソコンについて

「DENDAI − UNIPA」は、インターネットに接続可能なパソコンであれば、学内の PC やキヨスク端末はもとより自宅や下宿などからも自由に閲覧することができます。

動作環境について

「DENDAI − UNIPA」を使用するには、Internet Explorer7 以降、Firefox3.6 以降の WWW ブラウザが必要となります。

本文中に記載の「画面のデザイン」や「メニュー（機能）構成」等は今後変更等になる場合があります。

DENDAI − UNIPA へのアクセス・ログイン

1. DENDAI − UNIPA へのアクセス・ログイン方法

1 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」へアクセスします。
https://portal.sa.dendai.ac.jp

2 ログイン画面が開きます。

3 User ID に「学籍番号」を入力、PassWord に「パスワード」を入力し、ログイン をクリックします。（図 1）

※ ログインには本学のネットワークを利用するための ID（学籍番号）およびパスワードが必要です（例：13ee999　※学籍番号の英字部分は小文字で入力してください。）。
※ 新入生への初期パスワードは入学時にお知らせいたします。
※ 「パスワード」は定期的な変更が義務づけられています。変更しないままにしておくと履修登録などの重要な手続きに支障をきたす可能性がありますので十分に注意してください。

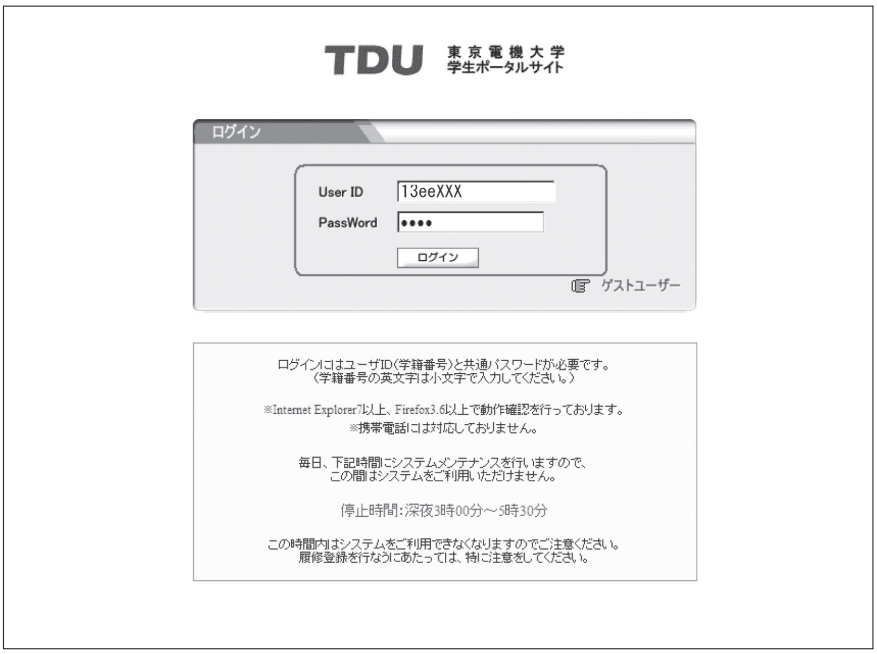


図 1　ログイン画面

4 **入力した学籍番号やパスワードに誤りがある場合は、エラーメッセージが表示されます。（図 2）**

正しく入力しているにもかかわらず、エラーメッセージが出る場合は総合メディアセンターまたは工学部・未来科学部事務部に申し出てください。

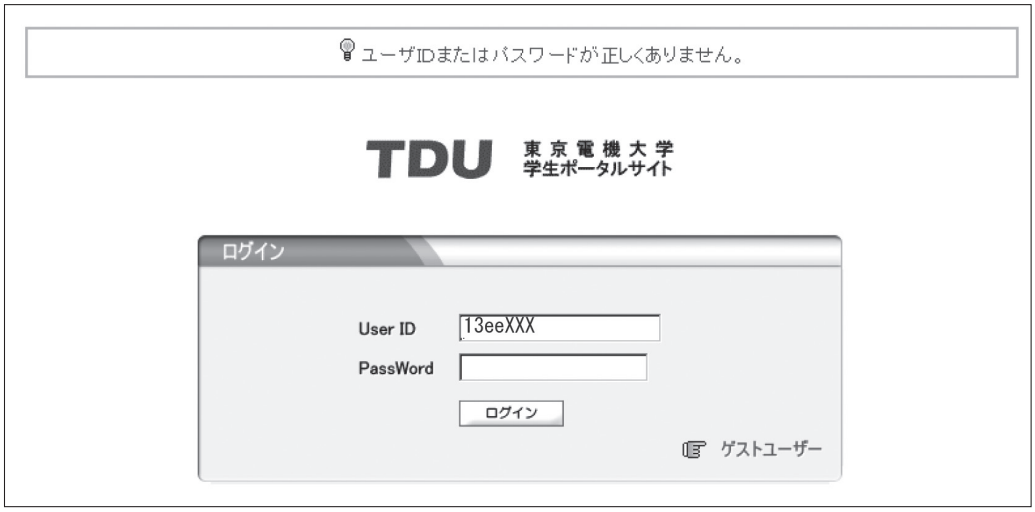


図 2　ログインエラー表示

2. DENDAI − UNIPA の画面構成

① メニュー

各種機能のメニューです。項目は変更する場合があります。

② トップページ切り替えタブ

トップページの画面を切り替えることができます。

ポータル お知らせ・スケジュール・授業情報などが表示される画面です。

クラスプロファイル 授業ごとに様々な機能を使用することができます。

マイステップ 自分自身の学習記録を記録することができます。（教職カルテなど）

③ お知らせ

各種掲示情報や学生呼出、授業の休講・補講・教室変更、ガイダンス情報、履修に関する連絡等、大切な情報が表示されます。

④ スケジュール・授業情報

大学側があらかじめ登録した学内のイベント・授業情報等のスケジュールが確認できます。

また、**スケジュール** ボタンから自分の予定を登録することもできます。

⑤ お気に入り

大学側があらかじめ設定したリンクのほか、**編集** ボタンから自分のお気に入りの Web サイトの登録ができます。

図 3　トップページ（ポータル画面）

3. 注意事項

(1) セッションタイムアウト

ログインしてから 30 分操作がない場合、自動的に接続が切断され、再度ログインが必要になります。履修登録の際は特にご注意ください。

図 4　セッションタイムアウト

(2) システムメンテナンスによる停止

毎日午前 3：00 から 5：30 に、システムメンテナンスを行います。
この時間帯は「DENDAI − UNIPA」を使用することはできません。
その他、臨時メンテナンスを行う場合があります。

(3) 前の画面に戻る

前の画面に戻る場合、必ず「DENDAI − UNIPA」の画面内の 戻る ボタンを使用してください。

画面内に 戻る ボタンがない場合は、画面上部の ホーム タブや、各種メニュータブから元の機能に戻ってください。

ブラウザの「戻る」機能では、ブラウザによっては「Web ページの有効期限が切れています」などが表示される場合があります。

（4）ポップアップブロック

DENDAI − UNIPA では、ポップアップ画面として表示される画面がいくつかあります。操作方法どおりに操作しても次の画面が表示されない場合、ブラウザのポップアップブロック機能が働いている可能性が考えられます。

そのような場合、ポップアップブロック機能を解除する必要があります。お使いのブラウザによって設定方法が異なりますので、ログイン画面下部の「ポップアップブロックについて」を参照してください。

掲示情報の確認

1．掲示について

1．掲示について

東京千住キャンパスでは、皆さんへの連絡事項を行う「掲示」をUNIPA上で行います。掲示には、学生個人宛のもの、該当する学年・学科宛のもの、対象科目を限定したものなどの種類がありますが、全てあなたに関係のあるものが配信されますので、一日に複数回UNIPAを確認してください。

掲示情報画面

※　各種手続き等の方法や期間などが掲示されますので、毎日必ず確認してください。
※　大学からメールや電話で連絡が届く場合もありますが、原則的にはUNIPAでの掲示にて各種連絡を行います。

シラバスの閲覧

1．オンラインシラバスについて

1．オンラインシラバスについて

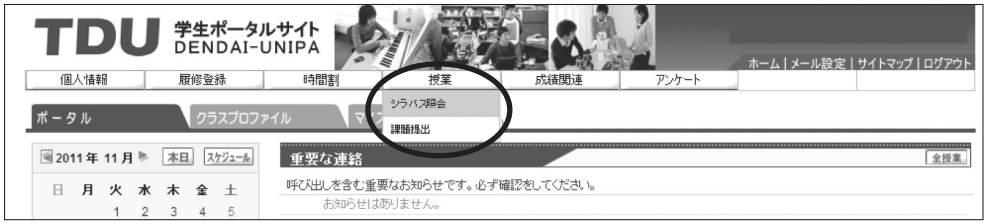
オンラインシラバスとは、担当教員が作成する講義要目（シラバス）を、インターネットを介して閲覧することができるシステムです。

シラバスには、科目名、単位数、担当教員名、目的概要、テーマ・内容、評価方法、教科書名、質問への対応（オフィスアワー）、クラス分け情報、ガイダンス情報 等が掲載されています。授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成するためによく確認してください。授業の進度に応じて、シラバス内容を更新する場合もあるので、常時確認してください。

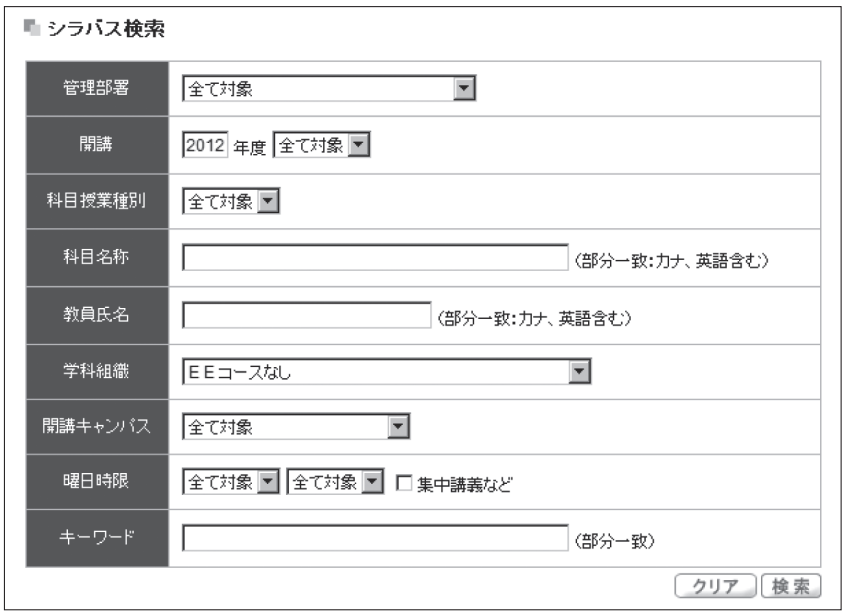
2. シラバスの閲覧方法

1 学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」へアクセス、ログインします。
https://portal.sa.dendai.ac.jp

2 画面上部のメニューから 授業 ⇒ シラバス照会 をクリックしてください。



3 シラバス検索画面が開きます。
科目名称／教員氏名／曜日時限／キーワード（シラバスの全文検索ができます）の一部または全部を入力し、 検索 をクリックしてください。



※ シラバス検索画面の【学科組織】欄にはログインしている学生の所属が自動的に選択されます。
学部や他研究科・他専攻などのシラバスを検索したい場合などは、【学科組織】欄を変更してから検索してください。

※ うまく検索結果が表示されない場合、【教員氏名】などの語句を全角カタカナで入力することを推奨します（漢字の字体の違いによる検索漏れを回避できます）。

4 検索結果画面に科目が表示されますので、目的の科目名をクリックしてください。

シラバス検索＞**検索結果**　戻る

検索条件　開講：2012年度
教員氏名：フジタ　サトシ

開講曜日	科目名	教員氏名	開講区分	学年	開講学期	単位数
水3	1102861001　機械系入門	藤田　聡	週間授業		2012前期	2.0単位
水6	11N1281001　振動工学II	藤田　聡	週間授業		2012前期	2.0単位
木3	1102831002　機械・構造物のダイナミクス	藤田　聡	週間授業		2012前期	2.0単位
木3 木4	1104451001　振動学および演習	藤田　聡	隔週偶数週間授業		2012前期	3.0単位
土5	11N2031001　東京電機大学で学ぶ	藤田　聡	週間授業		2012前期	2.0単位
	12M082H012　機械工学グループ輪講I	藤田　聡	集中講義		2012前期 2012後期	2.0単位
	12M085C001　機械工学特別演習II	藤田　聡	集中講義		2012前期	2.0単位
	12M086H012　機械工学特別研究I	藤田　聡	集中講義		2012前期 2012後期	6.0単位
月4	12M1622001　振動工学特論	藤田　聡	週間授業		2012後期	2.0単位
月6 金7	11N1272001　振動工学Iおよび演習	藤田　聡	週間授業		2012後期	3.0単位
木3	1102062001　応用振動学	藤田　聡	週間授業		2012後期	2.0単位
木4	1102922002　機械工学輪講	藤田　聡	週間授業		2012後期	2.0単位
	110489C009　卒業研究	藤田　聡	集中講義		2012後期	6.0単位
	11N1403002　卒業研究B	藤田　聡	集中講義		2012後期	6.0単位

14件　|<　<　1/1 ページ　>　>|　1

5 選択した科目のシラバスが表示されます。

シラバス検索＞＞検索結果＞**シラバス照会**　戻る

印刷

画面下へ

授業コード	1102062001
授業名	応用振動学
英文名	Application of Vibration
開講年度学期	2012年度 後期
単位数	2.0
主担当教員	藤田　聡
副担当教員	

目的概要	振動学の講義に引続き、線形2自由度系の振動、線形多自由度系の振動、モード解析の基本、能動的制御手法等について講義する。講義では、可能な限り実際の耐震設計の様子や、振動工学の現実への適用例をビデオやOHPを用いて紹介する。また、非線形系の応答解析を含めて、数値計算法についても講義する予定である。

※　クラス分け情報、ガイダンス情報（シラバス下部）に指示が記載されている場合がありますので、学期開始前から履修登録期間の間は、よく確認してください。

3. 他画面からのシラバス参照

オンラインシラバスは、「履修登録画面」「学生時間割画面」「クラスプロファイル」からも参照することができます。科目名をクリックすると、シラバス画面が開きます。

履修登録中／履修登録後に自分の履修予定／履修済の授業内容を確認したい場合は、上記各メニューの画面から閲覧すると便利です。

Web による履修登録方法

0. 全体の流れ

履修登録は、原則として学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」上で行うことになります。履修登録は以下のような手順で行います。

1 DENDAI − UNIPA へのログイン

2 履修希望科目の選択

3 エラーチェック

4 履修登録の確定

5 卒業見込判定

6 履修登録科目の確認方法

7 履修登録に関する FAQ

1. DENDAI − UNIPA へのログイン

学生ポータルサイト「DENDAI − UNIPA」へアクセス、ログインします。

https://portal.sa.dendai.ac.jp

※ DENDAI − UNIPA は、ログイン後 30 分間操作がないとタイムアウトになり、再度ログインが必要になります。
確定前の履修登録情報が消えてしまう可能性がありますので、あらかじめ紙に履修計画を書くなどしてから履修登録を行ってください。

2. 履修希望科目の選択

1 「履修登録」画面の選択

画面上部のメニューから 履修登録 をクリックします。（図 1）

図 1　メニュー

2 授業時限の選択

編集したい授業時限のコマの中の選択ボタンをクリックします。（図 2）

※集中講義は画面左下の 集中講義 にある選択ボタンから履修できます。

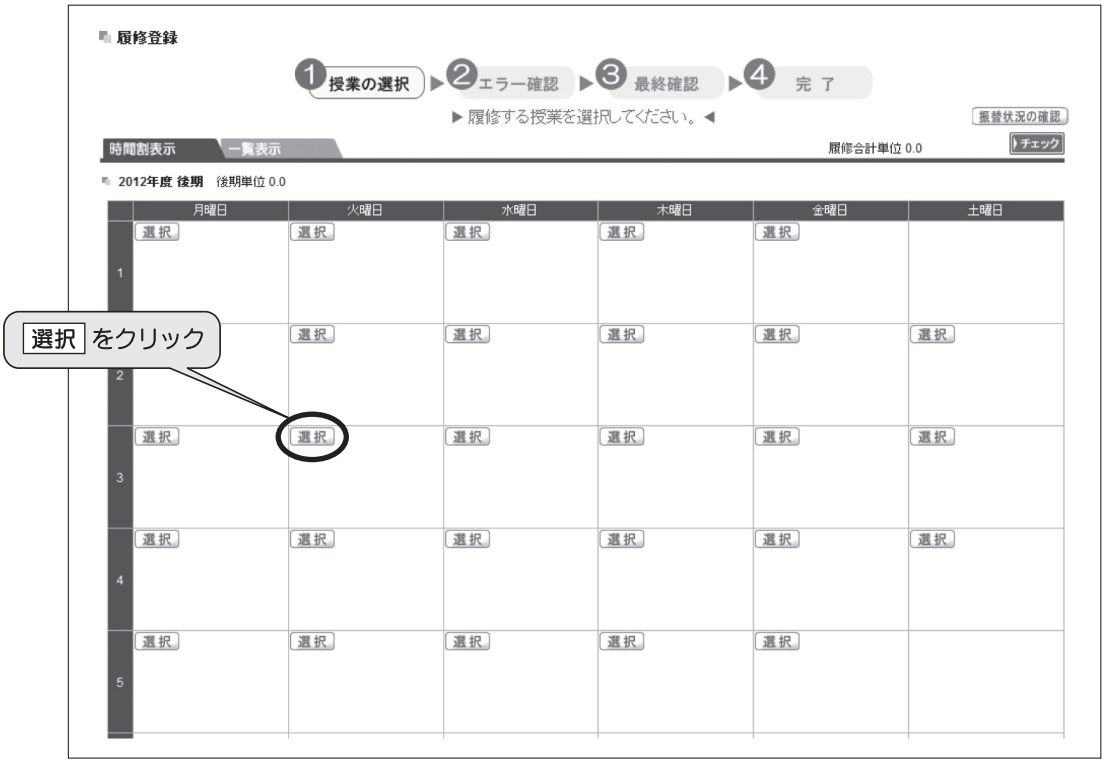


図 2　履修登録画面

3　履修可能科目から科目を選択

「授業の追加」画面に開講科目が表示されますので、履修したい科目にチェックを入れて 確定 をクリックします。（図 3）

※　同じ科目名が複数ある場合は、ガイダンスの指示やシラバスのクラス分け情報、掲示などで教員氏名をよく確認してから選択してください。
※「授業の追加」画面では、科目名をクリックすることでシラバスを確認できます。

図 3　授業の追加画面

4　選択した科目の確認および取消方法

「授業の追加」画面で追加した科目が、履修登録画面に表示されているか確認します。（図 4）

科目を取り消す場合は 削除 をクリックします。

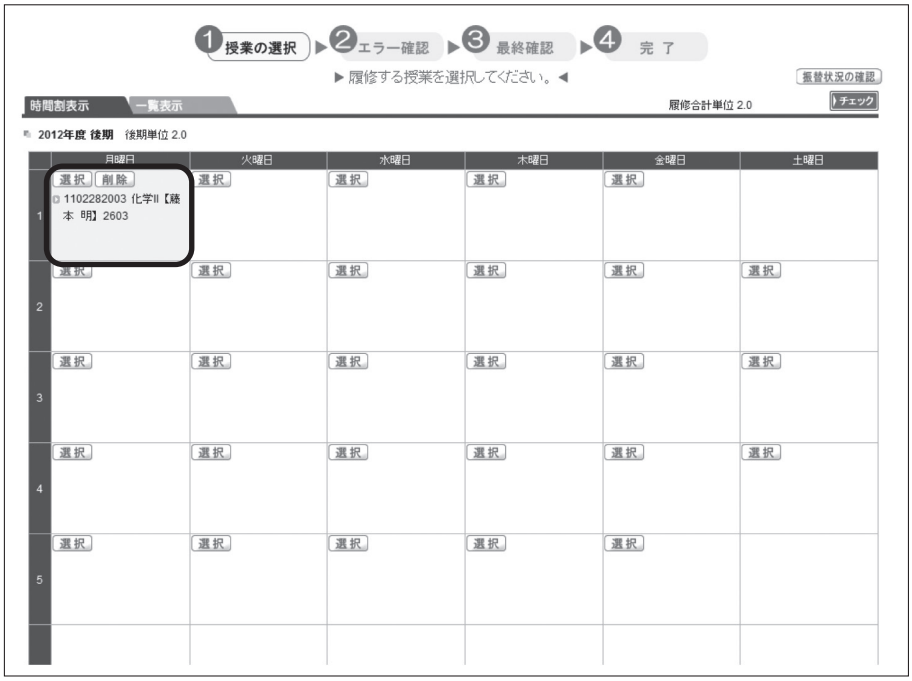


図 4　履修した科目の確認

3. エラーチェック

1　履修希望科目を全て選択したら、チェック ボタンをクリックします。

何らかの条件で履修することができない科目が選択された場合、履修時間割の曜日時限コマがピンク色に表示されます。（図 5）

2　エラーメッセージが出た場合は、画面上部の［登録内容にエラーがあります］のメッセージをクリックし、「エラー内容の確認」画面でエラー内容を確認の上、修正をしてください。（図 6）

3　エラーがなくなるまでチェックを繰り返します。

※エラー内容について不明な点がある場合は、速やかに工学部・未来科学部事務部に申し出てください。

4　エラーが全てなくなると最終確認に進みます。

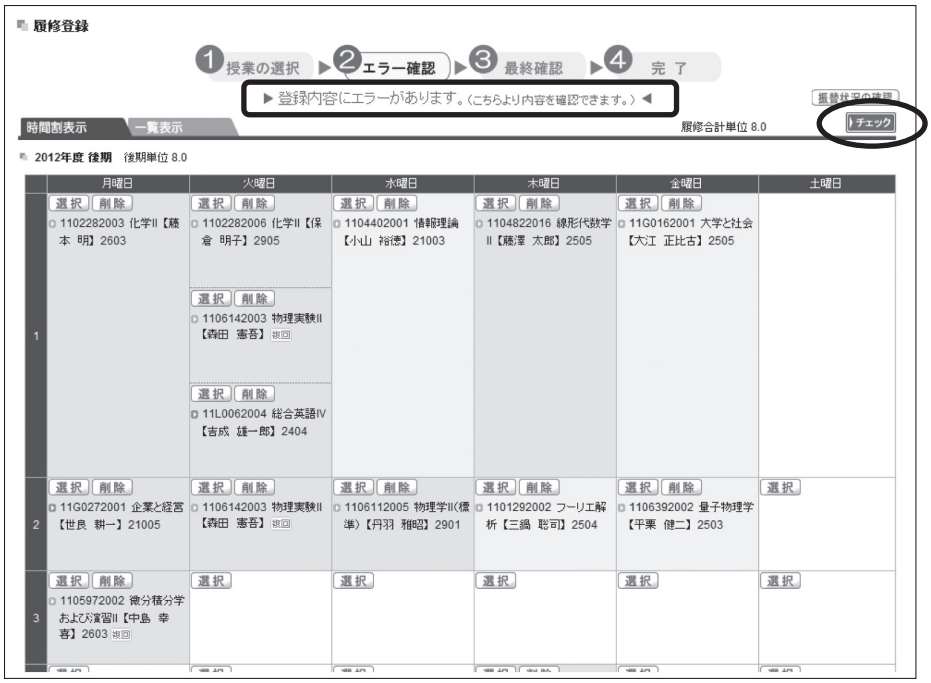


図 5　チェック後の画面（エラーあり）

※　エラーが出ている場合は、登録が未完了です。必ずエラーは修正してください。
※　エラーの修正を試みてもエラーが消えない場合には放置せず、履修登録期間内に工学部・未来科学部事務部窓口まで申し出てください。

主なエラーメッセージの例

【同名科目（または同一科目）を複数履修している場合】

⇒「既修得。」

⇒「科目重複。同じ科目がすでに登録されています。」

⇒「複数回修得不可の科目を複数回履修しています。」

⇒「同じ振替科目を複数履修することは出来ません。」

【同じ曜日時限に履修することが出来ない複数の科目を選択している場合】

⇒「時間割重複。」

【履修上限単位数を超えて履修登録をした場合】

⇒「時間帯で指定された上限授業数を超えています。」

エラー内容の確認　閉じる

基本、条件エラー

授業コード	開講学期	開講曜日	科目名	単位	メッセージ
1102512002	2012年度 後期	金4	回路理論II【西方　正司】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1102512004	2012年度 後期	火4	回路理論II【飯田　祥二】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1102512003	2012年度 後期	金4	回路理論II【大内　幹夫】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1104822016	2012年度 後期	木1	線形代数学II【藤澤　太郎】	2.0	既修得。
1106112012	2012年度 後期	金3	物理学II(標準)【桃沢　信幸】	2.0	既修得。
1105972002	2012年度 後期	月3 木4	微分積分学および演習II	4.0	既修得。

制限エラー

制限エラーはありません。

図６　「エラー内容の確認」画面

4. 履修登録の確定

エラーチェックの結果、エラーがなければ チェック ボタンが 確 定 ボタンに変わり、画面上部には［エラーはありません。］のメッセージが表示されます。（図 7）

履修登録画面に表示されている科目・担当教員氏名に間違いがないかどうか再度確認し、修正したい場合は「授業の選択へ戻る」ボタンを、修正が必要ない場合は 確 定 ボタンをクリックします。

履修を一度確定した後も、履修登録期間内であれば履修内容の変更は可能です。

図 7　チェック後の画面（エラーなし）

※ 「確定」をクリックする前に、登録モレがないかを確認してください。

5. 卒業見込判定

2 年次生は［卒業見込判定］を行うことができます。

1 **画面上部のメニューから 成績関連 → 卒業見込判定 を選択してください。（図 8）**

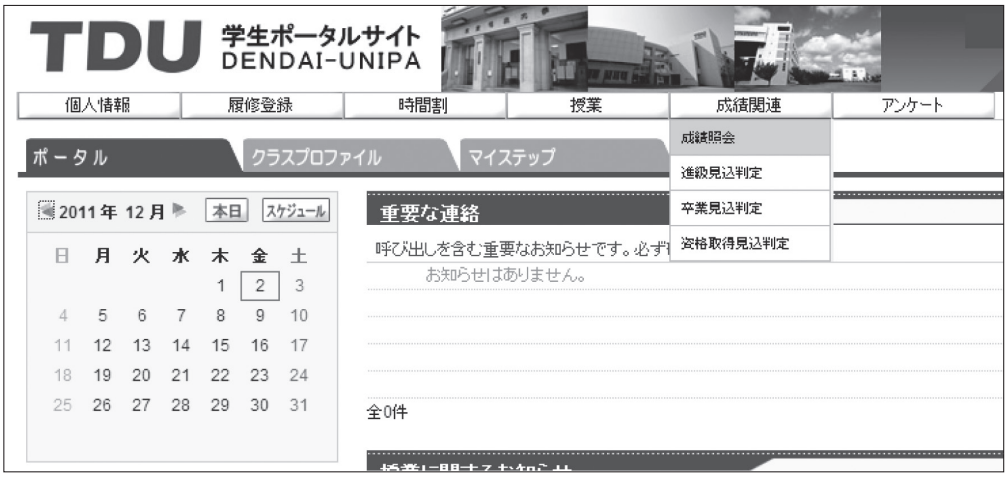
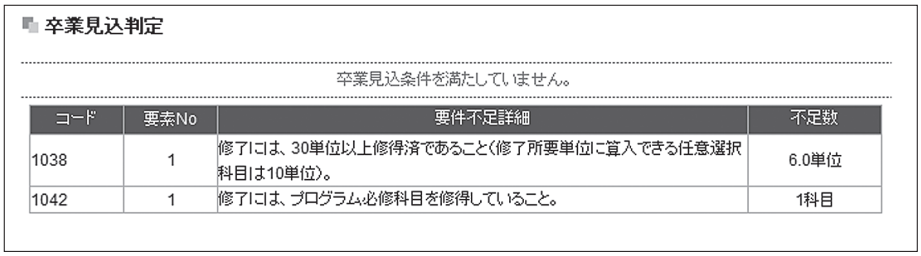


図 8　卒業見込判定選択

2 **判定結果が表示されます。（図 9）**

単位数や科目数の不足が表示された場合は、不足を補うよう履修計画を立ててください。



卒業見込判定

卒業見込条件を満たしていません。

コード	要素No	要件不足詳細	不足数
1038	1	修了には、30単位以上修得済であること(修了所要単位に算入できる任意選択科目は10単位)。	6.0単位
1042	1	修了には、プログラム必修科目を修得していること。	1科目

図 9　卒業見込判定結果

※　卒業見込判定は何度でも行うことができます。履修登録内容を変更するたびに見込判定画面を確認することをお勧めします。

※　判定は、履修登録した科目を全て修得した場合に、各判定の要件を満たすか否かを表示する機能です。

6. 履修登録科目の確認方法

履修登録を確定すると、［履修登録が完了しました。］のメッセージと **時間割の印刷** ボタンが出現します。（図 10）

履修内容の確認のために、必ず「時間割表の印刷」ボタンでプリントアウトを行い、各自保管してください。

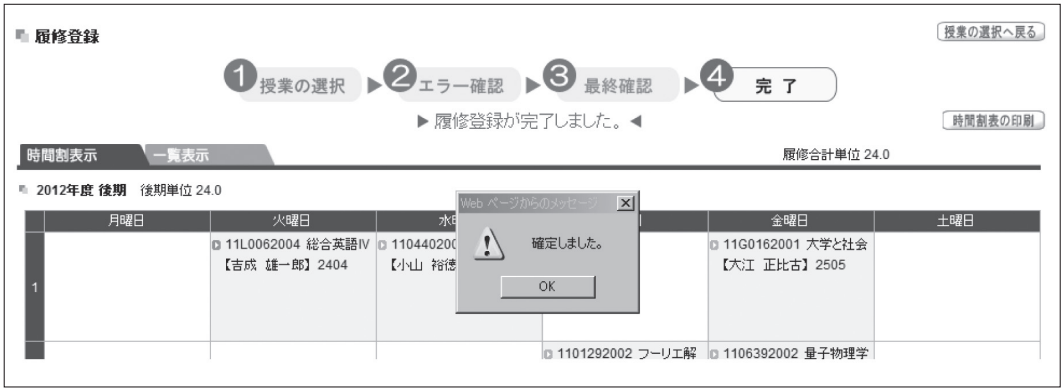


図 10　履修完了画面

※　履修する科目全てについて、科目名・曜日時限・担当教員名、クラス等に誤りがないかを確認してください。履修登録していない科目は採点の対象とならないため、単位を修得することはできません。

7. 履修登録に関するFAQ

Q　パスワードがわからない（忘れた）。
A　総合メディアセンターにお問合せください。再発行となる場合もありますので、履修登録前にパスワードの確認を事前に行ってください。

Q　ログインできない。
A　学籍番号を半角小文字で入力していない、もしくはパスワードが間違っている可能性があります。再度、入力してみてください。

Q　携帯電話等から履修登録できますか？
A　動作確認されていません。動作確認済みの環境で履修登録してください。

Q　履修登録できない科目がある。
A　すでに修得している、時間割上重複している、カリキュラム年度が異なる等、さまざまな理由が考えられます。工学部・未来科学部事務部窓口に申し出てください。

Q　何度修正してもエラーメッセージが消えない。
A　そのまま放置せずに、速やかに工学部・未来科学部事務部窓口に申し出てください。

Q　午前3時～5時30分の間は履修登録期間であっても履修登録ができないのですか？
A　システムメンテナンスを行っていますので、履修登録はできません。

Q　再履修はどのように履修登録するのか？
A　新規履修と同様に履修登録を行ってください。また授業内・シラバス・掲示などで指示がある場合はそれに従ってください。

Q　履修登録したはずなのに、確認画面に載っていないのはなぜか？
A　履修登録の「最終確認」で「確定」をクリックしていない可能性があります。「確定」をクリックしないと、選択内容は登録されません。

Q　履修登録後に登録間違いに気がついた
A　一度履修確定した後も、履修登録（履修登録修正）期間内であれば、履修内容の変更は可能です（一部科目を除く）。期間終了後は変更が不可能ですので、ご注意ください。

Q　Ｗｅｂ履修登録中（ログイン中）に履修登録受付終了時間となったが、履修登録は可能なのか？
A　ログイン中であっても、履修登録受付終了時間を過ぎると、履修登録は不可能となります。時間の余裕をもって履修登録をしてください。

Q　担当教員が履修登録を許可しているのに、履修登録できない科目がある。
A　工学部・未来科学部事務部窓口に申し出てください。

クラスプロファイル

1. クラスプロファイルについて

クラスプロファイルでは、履修している授業について、授業資料のダウンロードや課題の提出などを「DENDAI − UNIPA」上で行うことができます。

教員からの指示等に応じて、クラスプロファイルの各機能を使用してください。

※　履修登録を行っていない授業科目については、クラスプロファイル機能を使用することができませんのでご注意ください。

※　クラスプロファイルの各機能は、追加・削除を行う場合があります。

※　クラスプロファイルの閲覧、データのダウンロードなどは当該科目の学期最終週後に使用できなくなります。必要な資料は各自の環境に保存してください。

（1）画面構成

①曜日リスト

曜日をクリックすると時限ごとに履修している授業名が表示されます。

［課題管理］に新着情報がある場合は授業名の右に★が表示されます。

②授業表示欄

曜日リストで選択した授業の情報が表示されます。

③アプリケーションエリア

②の授業表示欄に表示されている授業に対し、使用可能な機能の一覧です。

（2）クラスプロファイルの基本操作

1 「DENDAI-UNIPA」にログインし、トップページから クラスプロファイル をクリックします。

2 画面左の①曜日リストから曜日を選択すると、その曜日に履修している授業科目が表示されます。

科目名をクリックすると、②授業表示欄に表示されます。

3 画面中央の③アプリケーションエリアから、使用したい機能のボタンをクリックします。

2. 授業資料のダウンロード方法

教員が「DENDAI − UNIPA」上にアップロードした授業資料をダウンロードすることができます。（履修登録した学生のみ）

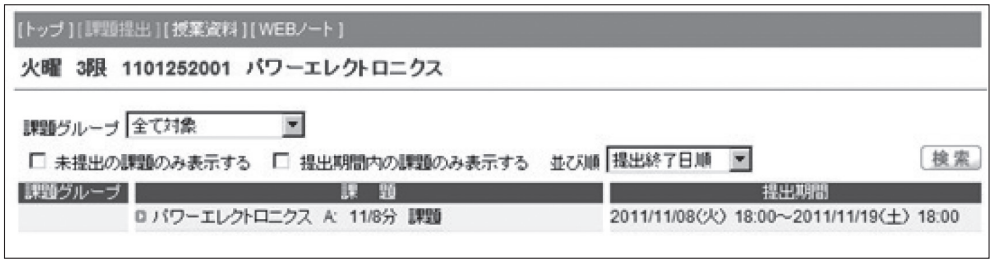
1 曜日リストから授業を選択し、アプリケーションエリアから 授業資料 をクリックすると、選択した授業の資料が一覧で表示されます。

2 授業資料一覧画面でタイトルをクリックすると、下に詳細情報が表示されます。ファイル名の右の ⬇ をクリックすると資料をダウンロードできます。

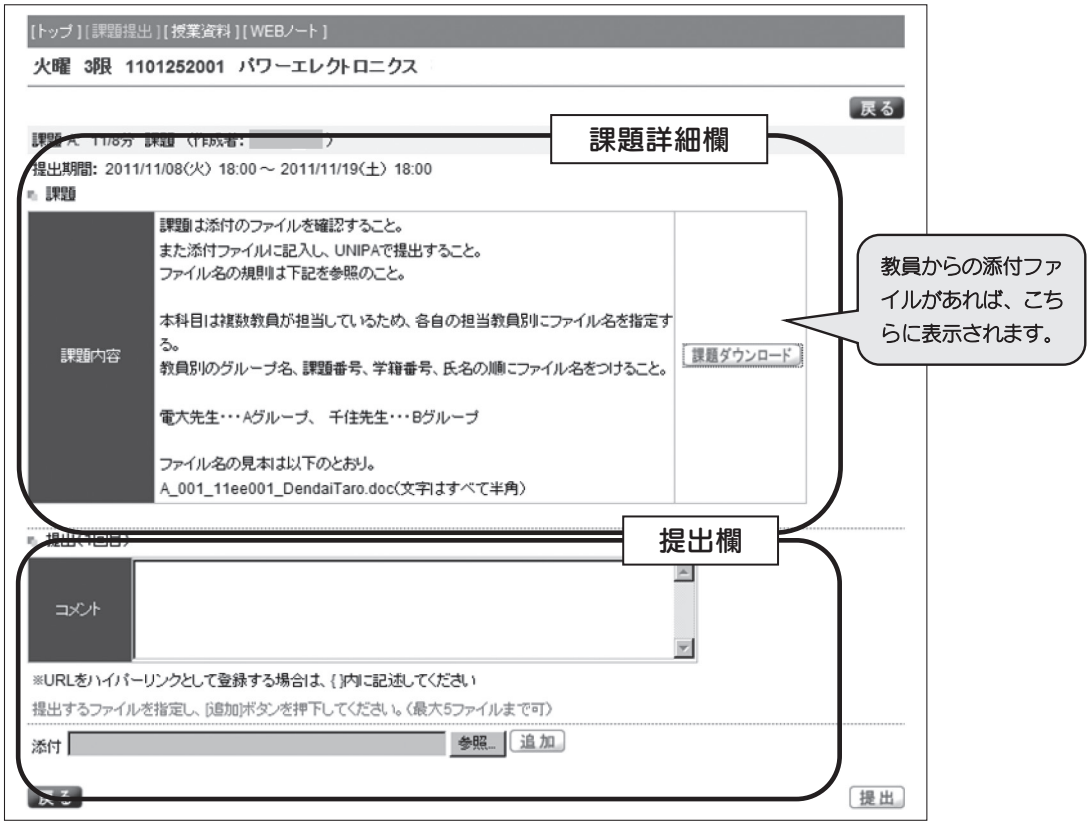
3. 授業課題の提出方法

教員から出された課題を「DENDAI − UNIPA」上で確認・提出することができます。

1 アプリケーションエリアの 課題提出 をクリックすると、選択した授業に課題があれば、課題の一覧が表示されます。



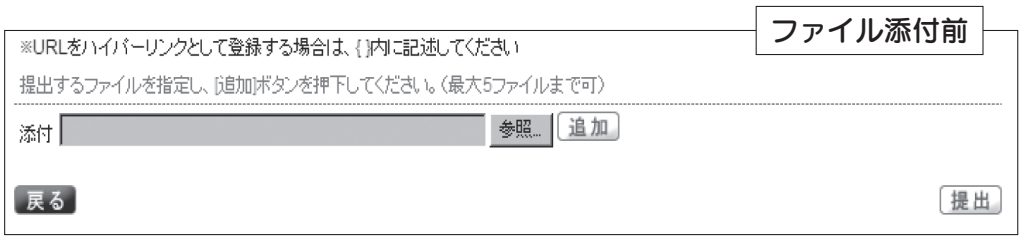
2 課題一覧画面で課題名をクリックすると、次画面に教員の登録した課題の詳細内容が表示されます。教員が添付ファイルを登録した場合は、この画面に表示されます。

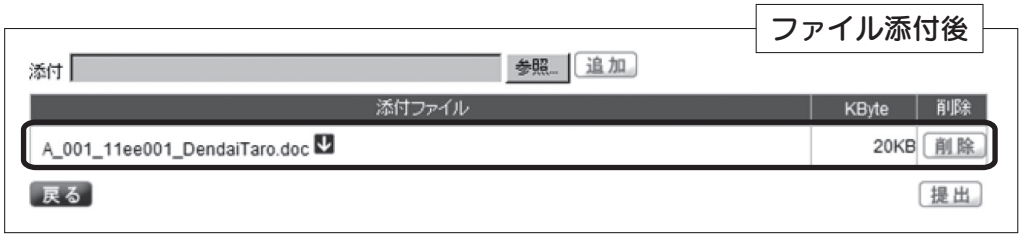


3 「提出」欄では「コメント」もしくは「添付ファイル」で課題の提出を行います。
添付ファイルで提出する場合は、 参照 をクリックします。

4 添付するファイルの選択をした後、必ず 追加 をクリックします。 追加 をクリックすると、下に添付したファイル名が表示されます。

※ 教員が設定した提出可能ファイル数によっては、ファイルを複数添付することも可能です。（1 ファイルにつき 10MB がアップロードできる上限です。）
なお、拡張子のないファイルや、exe 形式のファイルは添付できません。





5 最後に右下の 提出 をクリックします。

6 課題の提出後は、課題一覧画面に提出日時が表示されます。
必ず提出できているか否か（添付資料がある場合、アップロードされているか否か）を自身で確認してください。

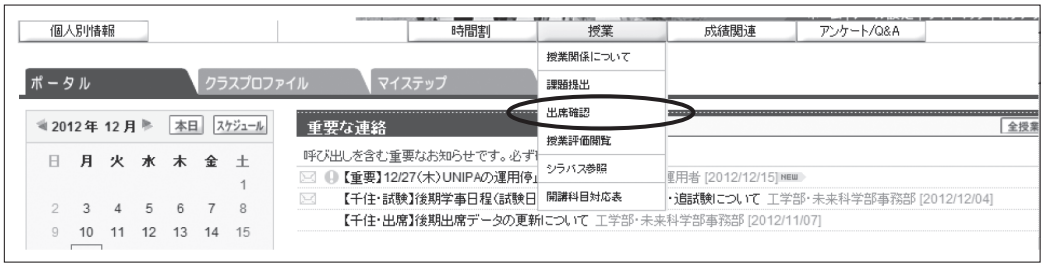
7 課題によっては、提出後、提出期限内であれば修正することができます。
その場合は、上記の提出日時をクリックし、課題の修正を行い、再度 提出 をクリックしてください。

出席確認

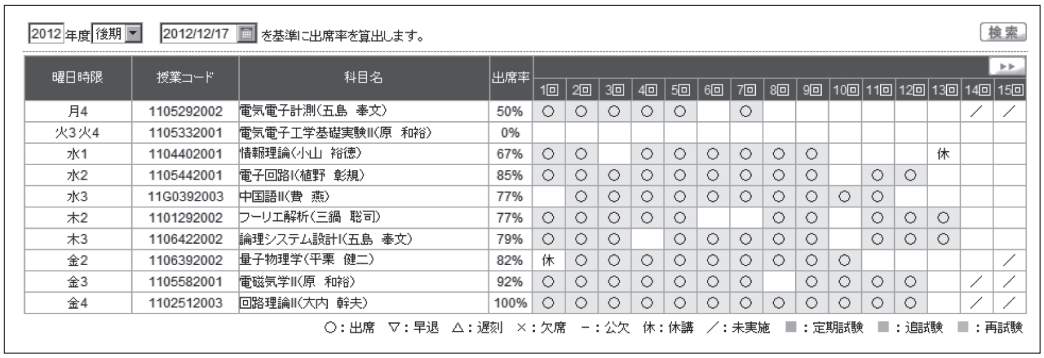
1. 出席情報の確認について

学生証による出席管理が可能な教室で授業を行っている科目については、出席情報をDENDAI − UNIPA で確認することが出来ます。

1 画面上部のメニューから 授業 → 出席確認 をクリックすると、出席状況が表示されます。



2 出席確認画面で、反映されているデータを確認することが出来ます。



曜日時限	授業コード	科目名	出席率	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
月4	1105292002	電気電子計測(五島 奉文)	50%	○	○	○	○	○		○							／	／
火3 火4	1105332001	電気電子工学基礎実験II(原 和裕)	0%															
水1	1104402001	情報理論(小山 裕徳)	67%	○	○		○	○	○	○	○	○				休		
水2	1105442001	電子回路I(植野 彰規)	85%	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○			
水3	11G0392003	中国語II(費 燕)	77%		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
木2	1101292002	フーリエ解析(三鍋 聡司)	77%	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○		
木3	1106422002	論理システム設計I(五島 奉文)	79%	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○		
金2	1106392002	量子物理学(平栗 健二)	82%	休	○	○	○	○	○	○	○	○	○					／
金3	1105582001	電磁気学II(原 和裕)	92%	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		／	／
金4	1102512003	回路理論II(大内 幹夫)	100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		／	／

○：出席 ▽：早退 △：遅刻 ×：欠席 −：公欠 休：休講 ／：未実施 ■：定期試験 ■：追試験 ■：再試験

出席情報の確認画面

※ 出席情報が反映されるのは、履修登録が完了した後です。学期の初めのうちは、出席情報が反映される科目とされない科目があります。出席情報が正確に反映される準備が整った後、掲示にてその旨周知します。それまでは暫定的な情報としてご確認ください。

※ その他、次ページ「よくある質問」を参照してください。

出席確認に関するよくある質問

Q　出席データはいつ UNIPA へ反映されますか？
A　原則授業日の翌日午前 5 時 30 分に UNIPA へ反映されます。

Q　学生証をタッチしましたが出席になっていないのはなぜですか？
A　①当該授業であると認識できる範囲は、授業開始の 10 分前から授業終了までです。
そのため、授業開始の 10 分以上前にタッチしてしまうと出席として扱われません。
学生証をタッチした時間については、入退館管理システム（MARCO（マルコ）システム※）より確認できます。
共通認証の ID とパスワードを入力後、メニューの「出席管理」→「あなたの足跡」を選択すると別ウィンドウが開きますので、「読取日」に確認したい日付を設定し、「レポートの表示」をクリックしてください。10 分以上前にタッチしてしまったことが確認できた場合は、画面のハードコピーを印刷し担当教員に相談してください。
②出欠を厳格に管理されている先生の場合、タッチされた時間や授業態度等を基に UNIPA の出席記録を修正されることがあります。身に覚えがある場合は担当教員に質問してください。

Q　連続した授業は最初のコマの部分しか出席が反映されないのですか？
A　はい。その通りです。他方、出席率はコマ数を基準に計算されます。
例えば月曜日 3、4 限の授業に全て出席した場合の出席率は原則的に「50%」と表示されます。

Q　授業に出席しましたが MARCO システムにも反映されていません。どうすればよいですか？
A　学生証が正しく認識されなかった可能性がありますので担当教員に相談してください。
その際、授業ノート、配布物等を事前に用意しておいてください。なお、工学部・未来科学部事務部では出席の確認は行えませんのでご了承ください。

Q　学生証を忘れてしまったのですが、どうすればよいですか？
A　2 号館 1 階の受付にて ID の発行を行ってください。当日はそのカードを使用してください。

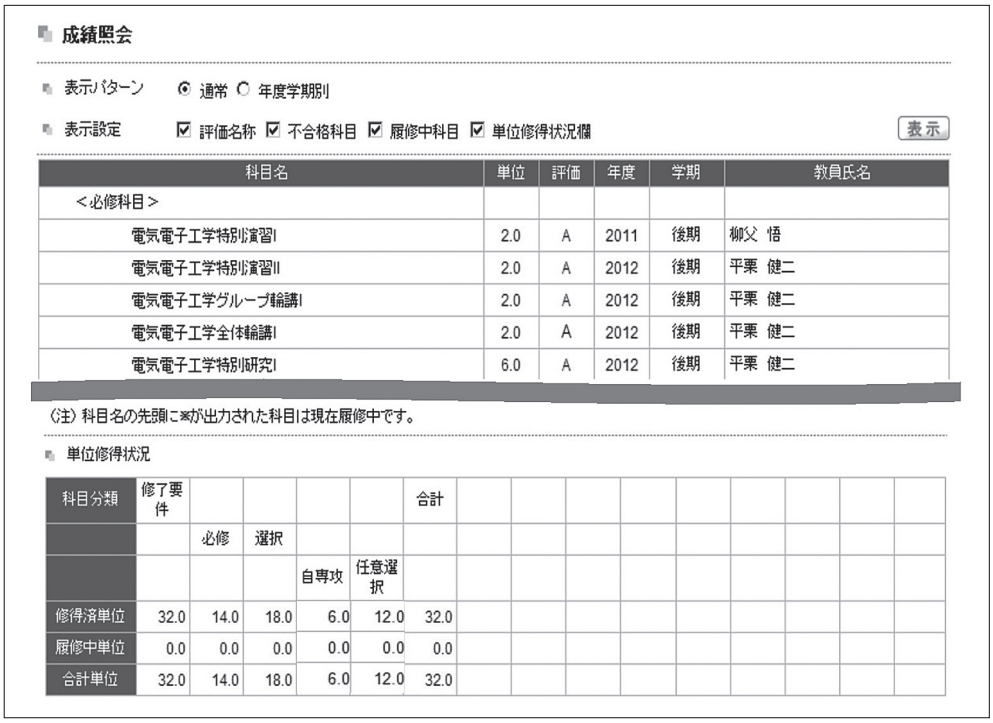
※入退館管理システム（MARCO（マルコ）システム）
https://marco.ms.dendai.ac.jp/

成績確認

1. 成績の確認について

自分の成績を DENDAI − UNIPA で確認することが出来ます。

1 画面上部のメニューから 成績関連 → 成績照会 をクリックすると、成績照会画面が表示されます。



成績照会

表示パターン ◉ 通常 ○ 年度学期別

表示設定 ☑ 評価名称 ☑ 不合格科目 ☑ 履修中科目 ☑ 単位修得状況欄 表示

科目名	単位	評価	年度	学期	教員氏名
＜必修科目＞					
電気電子工学特別演習I	2.0	A	2011	後期	柳父 悟
電気電子工学特別演習II	2.0	A	2012	後期	平栗 健二
電気電子工学グループ輪講I	2.0	A	2012	後期	平栗 健二
電気電子工学全体輪講I	2.0	A	2012	後期	平栗 健二
電気電子工学特別研究I	6.0	A	2012	後期	平栗 健二

(注) 科目名の先頭に*が出力された科目は現在履修中です。

単位修得状況

科目分類	修了要件					合計
		必修	選択			
				自専攻	任意選択	
修得済単位	32.0	14.0	18.0	6.0	12.0	32.0
履修中単位	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計単位	32.0	14.0	18.0	6.0	12.0	32.0

※ 「単位修得状況」欄の卒業要件は研究科・専攻により異なります。

その他の主な機能

1．個人別情報について

自分の個人情報を DENDAI － UNIPA で確認することが出来ます。

1　画面上部のメニューから 個人別情報 → 学籍情報照会 をクリックすると、学籍情報照会画面が表示されます。

【主な情報】

・学内の属性に関する情報・・・専攻、学年、カリキュラム年度などの情報
・個人の属性に関する情報・・・現住所、保証人の連絡先などの情報
・個人の学業に関する情報・・・過去の GPA 値などの情報
　※項目は追加・削除される場合があります。

個人情報照会画面

※　住所や保証人の連絡先等が変わった場合は、速やかに学生支援センターに申し出て変更手続きを行ってください。

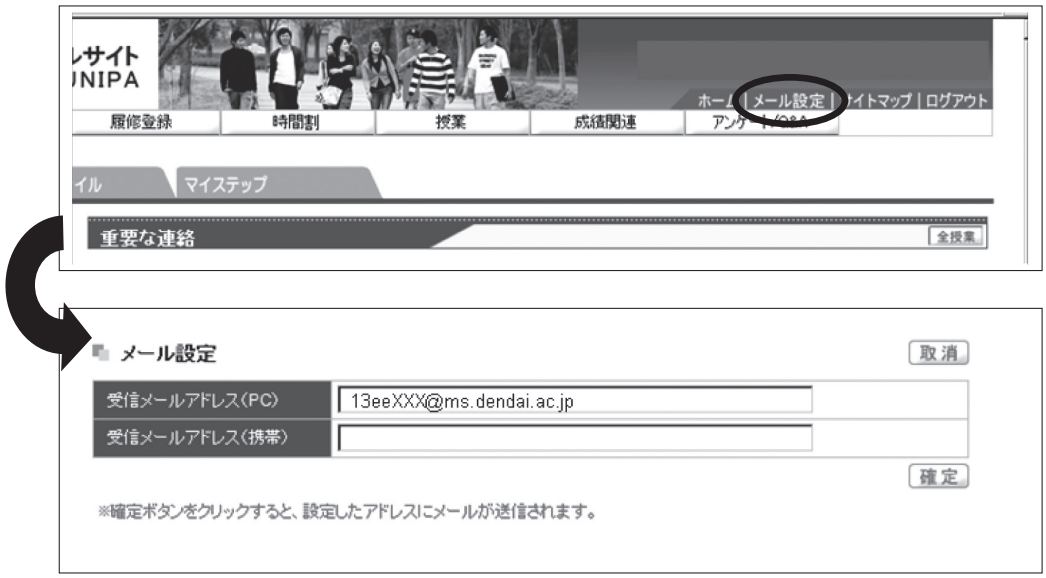
2. メール設定について

メールアドレスの登録を DENDAI − UNIPA で行うことが出来ます。

1　画面上部のメニュー項目の上にある メール設定 をクリックすると、メールアドレスの登録が表示されます。

「受信メールアドレス (PC)」には、大学から付与される学籍番号がついているメールアドレスが設定されています（変更不可）。

このアドレスのほか、「受信メールアドレス (携帯)」の欄にメールアドレスを登録することが可能です（「携帯」とありますが、携帯電話のメールアドレス以外でも登録可）。



メールアドレス設定画面

※　掲示情報は原則として DENDAI − UNIPA のみに配信されますが、急を要するものや重要度の高い掲示はメールアドレスにも同時配信されることがあります。

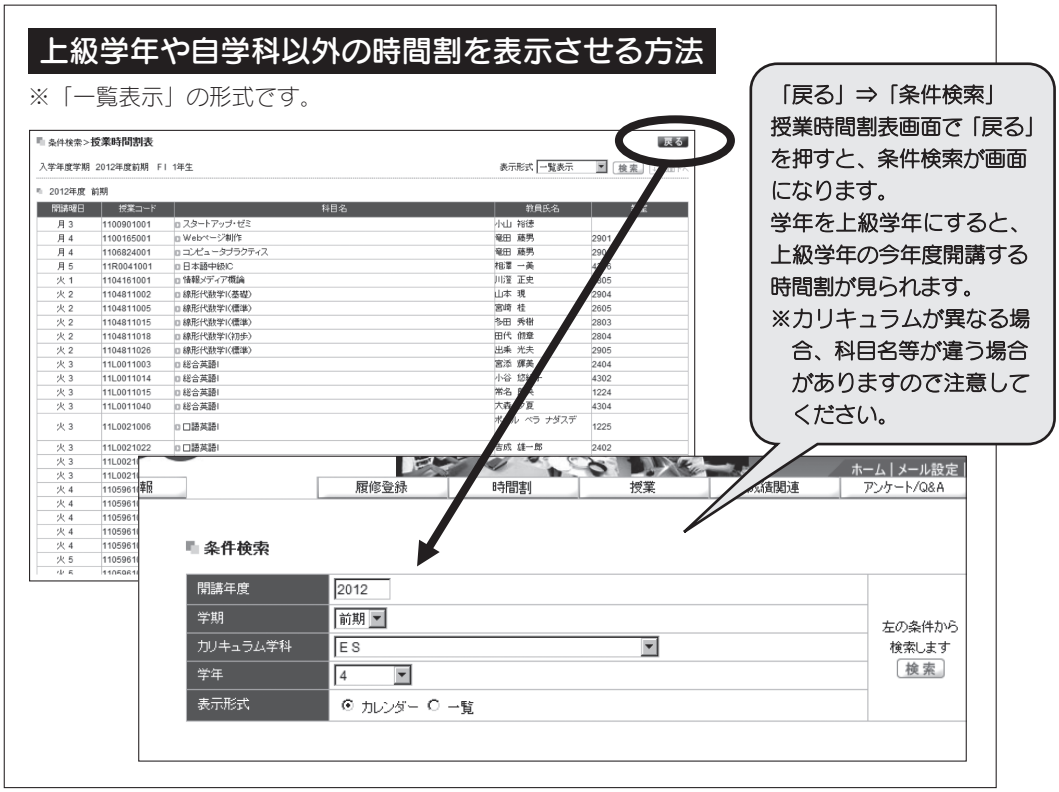
3. 時間割について

時間割情報を DENDAI − UNIPA で確認することが出来ます。

1　画面上部のメニューから 時間割 をクリックすると、時間割メニューが複数表示されます。

時間割は「カレンダー表示」または「一覧表示」で見ることが出来ます。

時間割の種類	表示される内容
学生時間割表	履修登録をした科目が表示される時間割。 履修確定前でも、履修状態にある科目は表示されます。
教員用時間割	教員ごとの時間割表を検索することが出来ます。
授業時間割表	自分のカリキュラム、自分の所属する学年次以下の科目が全て表示されます（他学部の科目などは表示されません）。



※　時間割を見る際は、科目担当教員名の間違い等がないように注意してください。特に自分の学年以外の科目・他学科の科目などを見る際は、学生要覧の「授業科目配当表」なども確認し間違いのないように気をつけてください。

授業科目配当表及び研究指導教員等
（専門分野と指導研究テーマ）

建 築 学 専 攻

Architecture and Building Engineering

平成25年度　授業科目配当表　建築学専攻　修士課程

部門	科目名	開講年度開講区分 H25	開講年度開講区分 H26	コマ	単位数	必修選択	配当年	配当期	常勤非常勤	担当者	備考	教職	建築士 形態	建築士 意匠	建築士 設備	建築士 構造
専門研究	建築学特別設計Ⅰ	随時	随時	1	2	選(※)	1	通年	常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常	朝山　秀一 秋田　剛 射場本　忠彦 今川　憲英 立花　正彦 土田　寛 積田　洋 松下　希和 百田　真史 柳原　隆司 山川　誠 山田　あすか 山本　圭介 渡邊　朗子	修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム(研究コース)」又は「職能教育プログラム(スタジオコース)」のいずれかを択一必修として、履修、合格しなければならない。入学時に決定したプログラム(コース)は、在学中変更できない。 ※高度専門プログラム(研究コース)履修者は「建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要である。また、「建築学特別設計Ⅰ・Ⅱ」は履修できない。 ※職能教育プログラム(スタジオコース)履修者は「建築学特別設計Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要である。また、「建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ」は履修できない。	工業	関演	○	○	○
	建築学特別設計Ⅱ	随時	随時	1	2	選(※)	2	通年				工業	関演	○	○	○
	建築学特別研究Ⅰ	随時	随時	2	4	選(※)	1	通年				工業				
	建築学特別研究Ⅱ	随時	随時	2	4	選(※)	2	通年				工業				
空間デザイン	建築空間デザイン論		○ ●	1	2	選	1･2	半期(前)	常	積田　洋		工業	関講	○	○	
	建築形態論	●		1	2	選	1･2	半期(後)	常	山本　圭介		工業	関講	○		
	都市デザイン論	○ ●	○ ●	1	2	選	1･2	半期(前)	常	土田　寛		工業	関講	○		
	地域施設計画論	○	○	1	2	選	1･2	半期(前)	常	山田　あすか		工業	関講	○		
	近代建築論	○	○	1	2	選	1･2	半期(後)	常	横手　義洋		工業	関講	○		
	環境情報デザイン論	○	○	1	2	選	1･2	半期(後)	常	渡邊　朗子			関講	○	○	
工学デザイン	建築鋼構造論	○		1	2	選	1･2	半期(前)	常	山川　誠		工業	関講			○
	建築ハイブリット構造論	○		1	2	選	1･2	半期(前)	常	立花　正彦		工業	関講			○
	建築構造設計論		○ ●	1	2	選	1･2	半期(前)	常	未定		工業	関講			○
	コンピューターによる骨組解析論	○	○	1	2	選	1･2	半期(前)	非	西田　明美			関講			○
	建築環境形成技術論		○ ●	1	2	選	1･2	半期(後)	常	百田　真史		工業	関講		○	
専攻共通科目	建築環境心理生理		●	1	2	選	1･2	半期(前)	常	秋田　剛		工業	関講	○	○	
	建築環境形成論	○ ●		1	2	選	1･2	半期(後)	常	射場本　忠彦		工業	関講		○	
	建築生産論		○	1	2	選	1･2	半期(後)	非	兼光　知巳		工業	関講	○		○
	コンピューターデザイン論	○		1	2	選	1･2	半期(前)	常	朝山　秀一		工業	関講			○
	建築防災工学論	●		1	2	選	1･2	半期(後)	非	安部　武雄			関講			○
	安全都市システム論	○		1	2	選	1･2	半期(前)	非	片山　恒雄			関講		○	○
	空間構造創成論		○	1	2	選	1･2	半期(前)	非△	登坂　宣好			関講			○
	構造デザイン認識論		○	1	2	選	1･2	半期(後)	常	今川　憲英		工業	関講			○
	統計解析法	●		1	2	選	1･2	半期(後)	常	宮崎　桂						
	建築学実習Ⅰ	●	●	2	2(※)	選	1	半期(前)	常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 非 非 非 非 非 非 非 非 非 非 非	朝山　秀一 秋田　剛 射場本　忠彦 今川　憲英 立花　正彦 土田　寛 積田　洋 松下　希和 百田　真史 柳原　隆司 山川　誠 山田　あすか 山本　圭介 横手　義洋 渡邊　朗子 藤江　和子 長友　大輔 松岡　恭子 古賀　誉章 小林　美紀 角舘　政英 松田　直則 古賀　政好 佐野　奈緒子 平手　小太郎 三谷　八寿子	※職能教育プログラム(スタジオコース)履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅲ」を履修、合格しなければならない。 ※高度専門プログラム(研究コース)履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」が履修可能。 「建築学実習Ⅰ」を担当 「建築学実習Ⅰ」を担当 「建築学実習Ⅰ」を担当 「建築学実習Ⅰ・Ⅱ」を担当 「建築学実習Ⅰ・Ⅱ」を担当 「建築学実習Ⅱ」を担当 「建築学実習Ⅲ」を担当 「建築学実習Ⅲ・Ⅳ」を担当 「建築学実習Ⅲ・Ⅳ」を担当 「建築学実習Ⅲ・Ⅳ」を担当 「建築学実習Ⅲ・Ⅳ」を担当	工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅱ	●	●	2	2(※)	選	1	半期(後)				工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅲ	●	●	2	2(※)	選	2	半期(前)				工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅳ	●	●	2	2	選	2	半期(後)				工業	イン	○	○	○
	建築技術・知識演習Ⅰ	○	○	1	2	選	1	半期(前)	常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 非 非	朝山　秀一 秋田　剛 射場本　忠彦 今川　憲英 立花　正彦 土田　寛 積田　洋 松下　希和 百田　真史 柳原　隆司 山川　誠 山田　あすか 山本　圭介 横手　義洋 渡邊　朗子 二宮　淳浩 小倉　高	在学中に2級建築士を取得した場合は、「建築技術・知識演習Ⅱ」の単位を認定する。 「建築技術・知識演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を担当 「建築技術・知識演習Ⅱ・Ⅲ」を担当	工業	関演	○	○	○
	建築技術・知識演習Ⅱ	○ ●	○ ●	1	2	必	1	半期(後)				工業	関演	○	○	○
	建築技術・知識演習Ⅲ	○	○	1	2	選	2	半期(前)				工業	関演	○	○	○

部門	科目名	開講年度開講区分 H25	開講年度開講区分 H26	コマ	単位数	必修選択	配当年	配当期	常勤非常勤	担当者	備考	教職	建築士 形態	建築士 意匠	建築士 設備	建築士 構造
専攻共通科目	インターンシップⅤ	○	○	随時	2	選	1	四半期(前前) 四半期(後前)	常 常	朝山　秀一 秋田　剛	「インターンシップⅤ～Ⅹ」および「建築学専門研修Ⅰ・Ⅱ」の中から2科目以上必ず修得すること。 (一級建築士受験資格要件の実務経験2年を取得する場合は、「インターンシップⅤ～Ⅹ」および「建築学実習Ⅰ～Ⅳ)の中から計14単位以上修得する必要がある。詳細は、P.22～24(一級建築士受験資格要件)にて確認のこと。)。		イン	○	○	○
	インターンシップⅥ	○	○	随時	2	選	1	四半期(前後) 四半期(後後)	常 常	射場本　忠彦 今川　憲英			イン	○	○	○
	インターンシップⅦ	○	○	随時	4	選	1	四半期(後前)	常 常	立花　正彦 土田　寛			イン	○	○	○
	インターンシップⅧ	○	○	随時	4	選	1	四半期(後後)	常 常	積田　洋 松下　希和			イン	○	○	○
	インターンシップⅨ	○	○	随時	4	選	2	四半期(前前)	常 常	百田　真史 柳原　隆司			イン	○	○	○
	インターンシップⅩ	○	○	随時	4	選	2	四半期(前後)	常 常	山川　誠 山田　あすか			イン	○	○	○
	建築学専門研修Ⅰ	○	○	随時	2	選	1･2	半期(前)	常	山本　圭介						
	建築学専門研修Ⅱ	○	○	随時	2	選	1･2	半期(後)	常	渡邊　朗子						
「豊かな教養」科目	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1･2	半期(後)	常 非	安田　浩 工藤　浩輔						
	情報セキュリティ実践概論	●	●	1	2	選	1･2	半期(前)	常 非 非	安田　浩 河野　省二 長谷川　長一						
	ITとビジネスモデルA	○	○	1	2	選	1･2	半期(前)	常	宮武　信春						
	ITとビジネスモデルB	○	○	1	2	選	1･2	半期(後)	常	宮武　信春						
研究科共通科目	科学英語Ⅰ	○	○	集中	2	選	1･2	集中	常	朝山　秀一	コロラド大学英語短期研修 専攻主任が担当する					
	MOT概論	●	●	1	2	選	1･2	半期(後)	非	富田　英雄	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間に合わせて開講					

注1)開講区分欄　「●○」＝昼夜開講、「○」＝昼間開講、「●」＝夜間開講、「随時」＝随時開講
注2)常勤非常勤欄　「△」＝客員教員
注3)イン…インターンシップ科目(実務経験2年の場合は14単位以上、実務経験1年の場合は4単位以上修得のこと。)
　　関演…インターンシップ関連演習科目(上限8単位)
　　関講…インターンシップ関連講義科目(上限8単位)

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《建築学専攻》

教員氏名 居室 （内線電話番号）	専門分野	指導している主な研究テーマ
秋田剛 1号館 10703B (3314)	音環境 環境心理生理	生体情報計測による建築環境の評価 音環境の認知と人間の行動のモデル化とシミュレーション オノマトペを用いた建築環境の表現と評価
朝山秀一 ☆ 1号館 10716B (3308)	建築振動学 建築分野へのコンピュータ応用	建築構造物の地震応答 自然の形態システムを用いた空間構造 フラクタル理論を応用した建築骨組 複雑系としてのオフィスの机配置シミュレーション Web を用いた構造設計支援システム
射場本忠彦 1号館 10715B (3305)	建築環境工学の中の熱環境 建築設備	氷蓄熱空調システムに関する研究 氷水スラリーによる地域冷房に関する研究 窓際環境の快適性と省エネルギーに関する研究 大温度差・変動微風空調に関する研究
今川憲英 1号館 10712B (3307)	構造デザイン 保存と再生 デザイン認識 耐震システム ハイブリッド構造	iCO_2 エコストラクチャーの構造と長寿命の建築の研究 素材と建物の寿命を同等にする研究 異種素材と架構のハイブリッドジョイント構造の研究 無言語的デザイン認識に関する研究
立花正彦 1号館 10713B (3302)	建築構造 建築生産	鉄骨鉄筋コンクリート構造の力学的性状 コンクリート充填鋼管構造の力学的性状 木質構造に関する開発研究 コンクリート系構造の耐震補強と補修

教員氏名 居室 （内線電話番号）	専門分野	指導している主な研究テーマ
土田寛 1号館 10704B (3312)	都市デザイン プロジェクトデザイン 景観デザイン 都市計画	プロジェクトデザインに関するプロセスの構築とコンセンサスの形成 アーバンデザインセンターのプログラムと都市空間モデル 地域文脈の解析（資源の発掘と意味づけ）と地域整備コンセプトの形成 都市のかたちと都市計画（形態規制とコントロール）・グランドデザインとの関係 パブリックスペースに内在する空間構成（機能・用途別）把握と社会的行動
積田洋 1号館 10701B (3339)	建築計画 空間計画 設計計画	街路・都市景観の研究 学校建築の開口景と空間配置計画の研究 ランドスケープと建築構成の研究 建築の内部空間構成の研究 空間の認知把握に関する研究 歴史的建築の空間構成の研究
松下希和 1号館 10603B (3320)	建築デザイン 室内環境デザイン	都市の商業空間の研究 住居空間の計画とその歴史的考証
宮崎桂 4号館 40903B (3912)	位相幾何学 結び目理論	
百田真史 1号館 10604A (3321)	建築環境工学 建築設備	空調システムの省エネルギー化に関する研究 エネルギーの面的利用に関する研究
柳原隆司 1号館 10603A (3340)	建築環境工学 建築の省エネルギー・省 CO_2 建築設備制御	空気調和用熱源システムの高効率化に関する研究 空気調和設備の省エネルギー・省 CO_2 制御に関する研究 需要サイドのスマートグリッドによる省エネルギー・電力負荷平準化に関する研究 ZEB 化に資する建築および建築設備のあり方に関する研究 潜熱・顕熱分離空調システムに関する研究

教員氏名 居室 （内線電話番号）	専門分野	指導している主な研究テーマ
山川誠 1号館 10712B (3304)	建築構造学 耐震工学 応用力学	高層建築物や大空間建築物の実用的最適設計 意匠・計画上の要求と構造性能の要求を統合した設計システム 各種制振・免震装置を組み込んだ高性能建築物の数理的設計法 新材料の力学モデル開発および構造設計理論の構築
山本圭介 1号館 10708B (3310)	建築設計 建築意匠 建築計画	都市居住空間の研究 建築空間の形態的研究 建築空間における部位別デザイン手法の研究
山田あすか 1号館 10705B (3311)	建築計画 環境行動	医療・福祉・教育のための建築や都市空間での空間構成や人々の行動特性、居場所の選択に関する研究 小児の療養環境評価基準に関する研究 こどもや高齢者・障がいのある人の生活の場としての都市環境のあり方に関する研究
横手義洋 1号館 10707B (3338)	建築史 建築保存	歴史的建造物の活用 西洋建築史・近代建築史研究 建築美学／建築論
渡邊朗子 1号館 10604B (3322)	建築空間の計画 建築空間の設計 情報技術システムの建築への応用	ロボットと共生する建築空間の計画技術に関する研究 知的活動を支援するオフィス環境に関する研究 空間生命化・知能化デザインの研究

☆：専攻主任

※客員教授：登　坂　宣　好

情報メディア学専攻

Information Systems and Multimedia Design

平成25年度　授業科目配当表　情報メディア学専攻　修士課程

部門	科目名	開講年度 開講区分 H25	H26	コマ	単位数	必修選択	配当年	配当期	常勤非常勤	担当者	備考	教職
専門研究	情報メディア学特別演習ＩＡ	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	常 常 常	絹川　博之 鉄谷　信二 星野　坦之	平成25年度担当者	情報
	情報メディア学特別演習ＩＢ	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	常 常 常	矢島　敬士 中島　克人 星野　坦之	平成25年度担当者	情報
	情報メディア学特別演習ⅡＡ	随時	随時	2	2	必	2	半期(前)	常 常 常	絹川　博之 鉄谷　信二 星野　坦之	平成25年度担当者	情報
	情報メディア学特別演習ⅡＢ	随時	随時	2	2	必	2	半期(後)	常 常 常	矢島　敬士 中島　克人 星野　坦之	平成25年度担当者	情報
	情報メディア学特別研究ＩＡ	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	常 常	岩井　将行 小坂　直敏		情報
	情報メディア学特別研究ＩＢ	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	常 常	川澄　正史 絹川　博之		情報
	情報メディア学特別研究ⅡＡ	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(前)	常 常	小山　裕徳 齊藤　剛	※高度専門プログラム履修者は「情報メディア学特別研究ⅡＡ」と「情報メディア学特別研究ⅡＢ」の履修が必要である。 ※職能教育プログラム履修者は「情報メディア学特別制作A」と「情報メディア学特別制作B」の履修が必要である。	情報
	情報メディア学特別研究ⅡＢ	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(後)	常 常 常	佐々木　良一 髙橋　時市郎 鉄谷　信二		情報
	情報メディア学特別制作A	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(前)	常 常 常	中島　克人 増田　英孝 宮添　輝美		情報
	情報メディア学特別制作B	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(後)	常 常 常	矢島　敬士 安田　浩 星野　坦之		情報
メディア	音メディア特論	○	●	1	2	選	1･2	半期(前)	常	小坂　直敏		情報
	コンピュータグラフィックス特論	●	○	1	2	選	1･2	半期(後)	常	齊藤　剛		情報
	ビジュアルコンピューティング特論	●	○	1	2	選	1･2	半期(前)	常	髙橋　時市郎		情報
	画像システム工学特論	○	●	1	2	選	1･2	半期(前)	常	星野　坦之		情報
	メディア応用特論	●	○	1	2	選	1･2	半期(前)	常	鉄谷　信二		情報
	言語メディア特論	○	●	1	2	選	1･2	半期(後)	常	絹川　博之		情報
	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1･2	半期(後)	常 非	安田　浩 工藤　浩輔		情報
	造形・デザイン特論	○	○	1	2	選	1･2	半期(前)	非	谷口　守孝		情報
	ユーザビリティと心理学	○	○	1	2	選	1･2	半期(後)	非	黒須　正明		情報
情報	人間情報システム特論	●	○	1	2	選	1･2	半期(前)	常	川澄　正史		情報
	ビジネス情報システム特論	●	○	1	2	選	1･2	半期(後)	常	矢島　敬士		情報
	ソフトウェアアーキテクチャ特論	○	●	1	2	選	1･2	半期(後)	常	増田　英孝		情報
	データベース特論	●	●	1	2	選	1･2	半期(前)	非	安達　淳		情報
	情報セキュリティ特論	●	○	1	2	選	1･2	半期(後)	常	佐々木　良一		情報
	ユビキタスネットワーク特論	○	●	1	2	選	1･2	半期(前)			平成25年度開講せず	情報
	インテリジェントコンピューティング特論	○	●	1	2	選	1･2	半期(後)	常	中島　克人		情報
	オペレーティングシステム特論	○	○	1	2	選	1･2	半期(前)	非	並木　美太郎		情報
	生体情報学特論	○	●	1	2	選	1･2	半期(後)	常	小山　裕徳	平成26年度は前期に開講	情報
	教育情報工学特論	●	○	1	2	選	1･2	半期(後)	常	宮添　輝美		
	情報セキュリティ実践概論	●	●	1	2	選	1･2	半期(前)	常 非 非	安田　浩 河野　省二 長谷川　長一		
専攻共通科目	インターンシップ	○	○	随時	2	選	1･2	随時	常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常	岩井　将行 小坂　直敏 川澄　正史 絹川　博之 小山　裕徳 齊藤　剛 佐々木　良一 髙橋　時市郎 鉄谷　信二 中島　克人 増田　英孝 宮添　輝美 矢島　敬士 安田　浩 星野　坦之		
「豊かな教養」科目	安全都市システム論	○		1	2	選	1･2	半期(前)	非	片山　恒雄		
	ITとビジネスモデルA	○	○	1	2	選	1･2	半期(前)	常	宮武　信春		
	ITとビジネスモデルB	○	○	1	2	選	1･2	半期(後)	常	宮武　信春		
研究科共通科目	科学英語Ｉ	○	○	集中	2	選	1･2	集中	常	絹川　博之	コロラド大学英語短期研修 専攻主任が担当する	
	MOT概論	●	●	1	2	選	1･2	半期(後)	非	富田　英雄	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間に合わせて開講	

※　修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム」または「職能教育プログラム」のいずれかを択一必修として、履修合格しなければならない。
注）開講区分欄　「●○」＝昼夜開講、「○」＝昼間開講、「●」＝夜間開講、「随時」＝随時開講

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《情報メディア学専攻》

教員氏名 居室 （内線電話番号）	専門分野	指導している主な研究テーマ
岩井将行 1号館 11107A (2816)	ユビキタスコンピューティング センサネットワーク	時空間・時系列データ処理 クラウドソーシング技術 モバイルコンピューティング技術 センサネットワーク理論
小坂直敏 1号館 11103A (2804)	コンピュータ音楽 音声表現・合成・加工	信号モデルによる音声・楽音の合成・加工方式 コンピュータ音楽制作のための音合成システム 作曲支援システム コンピュータ音楽制作
川澄正史 1号館 11103B (2806)	生体情報解析 アクセシビリティ	コミュニケーション支援システム 短期集中型モデルによる学習システム 記憶想起時の脳波解析
絹川博之 ☆ 1号館 11102A (2810)	自然言語処理 情報検索	Blog・Web 情報の検索・推薦システム 電子テキストフィルタリング 外国人向け日本語学習支援システム ソーシャルブックマーク活用方式
小山裕徳 1号館 11105B (2803)	生体情報処理 コミュニケーション・学習支援技術	生体情報処理 コミュニケーション支援システム 学習支援システム
齊藤剛 1号館 11102B (2807)	形状処理 コンピュータグラフィックス	意匠形状の特徴解析と創成 モーションデータの解析と特徴表示 実環境と仮想空間の融合
佐々木良一 1号館 11106A (2805)	情報セキュリティ	ウイルス対策・不正侵入防止技術 デジタルデータの証拠性保全技術 IT リスクコミュニケーション技術
高橋時市郎 1号館 11404B (2808)	コンピュータグラフィックス アニメーション・可視化 画像処理・パターン認識 学習科学	写実的・非写実的な映像生成技術 リアルタイム・インタラクティブ・CG 技術 ３DCG による都市景観・江戸の町並み復元技術 学習履歴・Web 閲覧履歴の可視化技術

教員氏名 居室 （内線電話番号）	専門分野	指導している主な研究テーマ
鉄谷信二 1号館 11405A (2802)	映像評価 臨場感 視覚心理	映像コンテンツのための評価法 五感を利用した臨場感再現技術 視覚心理に関する研究
中島克人 1号館 11104B (2812)	知的計算システム 画像認識 画像処理	動画像認識とその応用 プロジェクタとカメラによるVRおよびインタフェースの研究 対話的な画像生成・編集の研究
星野坦之 1号館 11106B (2817)	色彩信号処理 電子記録 画像表現	画像・印刷画像の色変換 プリンタの出力機構 諧調表現の最適化処理
増田英孝 1号館 11104A (2815)	Web情報検索 ソーシャルメディア インタラクティブシステム オブジェクト指向技術	Twitterの解析と情報抽出 Wikipediaの解析と情報抽出 図書館における自動レファレンスサービス Webからの動向情報の抽出と可視化
宮添輝美 4号館 41008A (3707)	教育情報工学 遠隔教育学 eラーニング CALL	Wikipediaの信頼性についての意識調査 テキストと画像バランスによる審美感の相違 インタアクション・デザインとその定量化（他学）
矢島敬士 1号館 11105A (2809)	情報システム 知識管理 意思決定支援	高度コミュニケーション・コラボレーション技術の研究 集団意思決定支援システムの研究 プロジェクト・マネージメントにおける情報管理技術の研究
安田浩 1号館 11404A (2811)	画像符号化 画像処理	コンテンツ創生・流通技術 動画像自動生成 著作権管理技術

☆：専攻主任

ロボット・メカトロニクス学専攻

Robotics and Mechatronics

平成25年度　授業科目配当表　ロボット・メカトロニクス学専攻　修士課程

部門	科目名	開講年度開講区分 H25	開講年度開講区分 H26	コマ	単位数	必修選択	配当年	配当期	常勤非常勤	担当者	備考	教職
専門研究	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ	随時	随時	2	4	必	1	通年	常 常	石川　潤 国吉　光		工業
	ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ	随時	随時	2	4	必	2	通年	常 常	汐月　哲夫 畠山　省四朗		工業
	特別輪講ⅠA	随時	随時	1	1	必	1	半期(前)	常 常	花崎　泉 宮武　信春		
	特別輪講ⅠB	随時	随時	1	1	必	1	半期(後)	常 常	桧垣　博章 横山　智紀		
	特別輪講ⅡA	随時	随時	1	1	必	2	半期(前)	常 常	岩瀬　将美 釜道　紀浩		
	特別輪講ⅡB	随時	随時	1	1	必	2	半期(後)	常 常	鈴木　聡 中村　明生		
情報駆動システム	コンピュータネットワーク特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	桧垣　博章	英語対応：平成26年度の開講について、履修者の希望により、英語による授業、または英語による質疑応答への対応を可能とする科目。	
	コンピュータシミュレーション特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	古賀　雅伸		
	最適化法特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	汐月　哲夫		
	非線形制御特論(英語対応)	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	岩瀬　将美		工業
	システムと信号特論(英語対応)	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	畠山　省四朗		工業
	アドバンストコントロール特論(英語対応)	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常 常	汐月　哲夫 石川　潤		工業
メカトロニクス	信号処理特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	花崎　泉	情報駆動システム部門、メカトロニクス部門、ロボット・デザイン部門の科目から8単位以上必ず修得すること。 「コンピュータシミュレーション特論」は、集中講義で開講	
	アドバンストメカトロニクス特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	釜道　紀浩		工業
	計測標準論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非 非 非	大園　成夫 高増　潔 松本　弘一		工業
	インフォメーションインターフェース特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	横山　智紀		
ロボット・デザイン	ロボットインターフェース特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	鈴木　聡		工業
	ロボットプランニング特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	山北　昌毅		工業
	アドバンスト・ロボティクス	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常 非 非 非 非	石川　潤 荒井　裕彦 梶田　秀司 黒河　治久 吉見　隆		工業
	エネルギー変換学特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	国吉　光		工業
	知能システム特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	中村　明生		工業
	ロボット設計特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	石川　潤		工業
専攻共通科目	産業別企業研究特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	小泉　寿男	平成26年度担当者は未定	
	エンジニアリング・ビジネスA	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宮武　信春		工業
	エンジニアリング・ビジネスB	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮武　信春		工業
	プロジェクト型ワークショップ	○	○	1	2	選	1	半期(前)	常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 非 非	石川　潤 国吉　光 汐月　哲夫 畠山　省四朗 花崎　泉 桧垣　博章 横山　智紀 岩瀬　将美 釜道　紀浩 鈴木　聡 中村　明生 京藤　康正 広田　和洋	専攻共通科目部門の科目から2単位以上必ず修得すること。	
	インターンシップ	○	○	随時	2	選	1・2	随時	常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常	石川　潤 国吉　光 汐月　哲夫 畠山　省四朗 花崎　泉 桧垣　博章 宮武　信春 横山　智紀 岩瀬　将美 釜道　紀浩 鈴木　聡 中村　明生		
	ITとビジネスモデルA	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宮武　信春		
	ITとビジネスモデルB	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮武　信春		
「豊かな教養」科目	安全都市システム論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	片山　恒雄	「豊かな教養」科目部門の科目から2単位以上必ず修得すること。	
	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常 非	安田　浩 工藤　浩輔		
	情報セキュリティ実践概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常 非 非	安田　浩 河野　省二 長谷川　長一		
研究科共通科目	科学英語Ⅰ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	桧垣　博章	コロラド大学英語短期研修 専攻主任が担当する	
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	富田　英雄	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間に合わせて開講	

注1)開講区分欄　「●○」＝昼夜開講、「○」＝昼間開講、「●」＝夜間開講、「随時」＝随時開講

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《ロボット・メカトロニクス学専攻》

教員氏名 居室 （内線電話番号）	専門分野	指導している主な研究テーマ
石川　潤 1号館 11014B (2615)	ロボティクス 制御工学	ロボットの高機能モーションコントロール 福祉・医療分野のメカトロニクス制御技術 ナノスケールの高速・高精度サーボ技術 人道目的の対人地雷探知・除去技術
岩瀬将美 1号館 11002A (2618)	情報駆動システム制御 制御工学 ロボティクス	非線形システムのモデリングと制御 人間の安全を考えたメカニカルシステムとその制御系設計 一輪車・自転車などの不安定システムの制御系設計と応用 ヨーヨー・ジャグリングなどの技能的ロボットの開発と制御 蛇型ロボットなどの環境に適応するロボット開発と制御 制御工学の農工連携への応用
釜道紀浩 1号館 11001B (2620)	制御工学 ソフトメカニクス スマートマテリアル	ソフトアクチュエータ／センサの開発 高分子素材のスマートセンサの開発 ロボットの動特性を考慮した運動制御
国吉　光 1号館 11017A (2605)	可視化デザイン	噴流式フリーザの吹出し気流 ヘアドライヤの乾燥性能に及ぼす噴出し口の影響 エアシャワーの吹出し気流 ウォール型分煙機の吹き出し性能 高速噴流式ハンドドライヤの乾燥性能の向上
汐月哲夫 1号館 11016A (2614)	情報化制御システム	ネットワーク化制御システムの解析と設計 遠隔操作システムへの制御工学の応用 組込みシステムと実時間制御系設計 PID 制御系に関する研究 線形システムの解析と制御系設計

教員氏名 居室 （内線電話番号）	専門分野	指導している主な研究テーマ
鈴木　聡 1号館 11013B (2616)	システム制御 人間工学 ロボット工学	熟達を考慮した人間システムモデリングと支援 子ども見守りシステムの研究 サービス科学とロボットコミュニケーション 脳・視線計測による興味・熟達・意図測定 協調運搬支援ロボットシステムの研究 天井走行サービスロボットの開発
中村明生 1号館 11013A (2609)	ロボット工学 コンピュータビジョン	ヒューマンインタフェース（ジェスチャ認識インタフェース、カメラ・プロジェクタによる情報投影提示型インタフェース） 人･環境認識（顔･服特徴認識／移動ロボット） 物体認識（視覚情報とロボット動作を組み合わせた一般物体認識）
畠山省四朗 1号館 11016B (2607)	情報駆動システム知能化	身体知システム工学 HAM（Human Adaptive Mechatronics） システム同定 システム制御工学 非線形制御
花崎　泉 1号館 11015B (2617)	信号処理とモデリング	多変量信号処理による動作解析 人間動作における「コツ」のモデリング 時系列モデルによる音声解析と応用 発話動作と音声に関する研究 テクスチャ識別における画像情報の抽出
桧垣博章 ☆ 1号館 11014A (2611)	情報工学 コンピュータネットワーク	アドホックネットワークのためのルーティング／データ配送プロトコル センサネットワーク／メッシュネットワーク構成手法 VANET（自動車を含む高速移動体からなる無線マルチホップネットワーク）基盤技術 高信頼ネットワークアプリケーション実行手法 WDM光ネットワークプロトコル 分散オペレーティングシステム構成手法 分散アルゴリズム
宮武信春 1号館 11414 (2621)	システムズエンジニアリング 情報技術応用とモデリング	認知と意思決定のモデリング 企業の情報システムソリューションズ 情報系プロジェクトの評価 WEB 活用のソリューション

教　員　氏　名 居　室 （内線電話番号）	専 門 分 野	指 導 し て い る 主 な 研 究 テ ー マ
横　山　智　紀 1 号　館 11015A (2606)	パワーエレクトロニクス メカトロニクス	FPGA を用いた電力変換器の高速ディジタル制御 マイクロマウスロボットの開発 DRP ／ FPGA による次世代コントローラ開発 グリーンエネルギーシステム 系統連系システムの開発

☆：専攻主任

※客員教授：篠　田　義　明

学　生　生　活

1　窓口取扱い

部　署　名	窓口取扱時間		窓口停止時間
	月～金曜日	土曜日	月～土曜日
工学部･未来科学部事務部(教務担当)(2号館3階)	8:50～21:30	8:50～19:40	13:10～14:10
学生支援センター(学生厚生担当)(2号館3階)	8:50～21:30	8:50～19:40	13:10～14:10
学生支援センター(キャリア支援･就職担当)(2号館3階)	8:50～20:00	8:50～17:00	13:10～14:10

・取扱停止、時間変更等がある場合は各部署毎に、その都度掲示によりお知らせします。
・証明書自動発行機の稼働時間は窓口と同様です。
・長期休業期間中は、窓口時間および証明書自動発行機の稼働時間が変更になりますので、事前に掲示を確認して下さい。

2　証明書関係

各種証明書は２号館３階の証明書自動発行機で取扱います。ただし証明書によっては申込み用紙を出力した上で取扱い部署に申し込みます。

証明書の名称		手数料（円）	取扱い部署	備考
成績証明書	日本語	300	工学部・未来科学部事務部（教務担当）２号館３階	
	外国語	1,500		発行までに１週間を要する
修了見込証明書	日本語	200		
	外国語	1,200		発行までに１週間を要する
修了証明書	日本語	500		
	外国語	1,200		発行までに１週間を要する
修了成績証明書	日本語	500		
	外国語	2,000		発行までに１週間を要する
人物に関する証明書		500		（在学生）
		1,000		（修了生）
元在学成績証明書		1,000		
科目等履修生単位取得証明書		1,000		
建築士試験の大学院における実務経験に係る修得単位証明書		500		平成21年度以降建築学専攻に入学し、修了した者
在学証明書	日本語	200	学生支援ｾﾝﾀｰ（学生厚生担当）２号館３階	
	外国語	700		発行までに１週間を要する
元在学証明書	日本語	500		
	外国語	700		発行までに１週間を要する
通学証明書		無料		
学生証再発行		2,000		翌日発行（土日祝除く）
学生旅客運賃割引証		無料		
健康診断証明書		200	健康相談室	

※　学部学生時の証明書は卒業生扱いとなります。卒業生用の申請書に卒業時の所属を記入の上、申し込んでください。

３　正課授業による閉館時間中の施設利用

平日 22：30 ～翌日 7：30（休日・祭日は 9：00 ～ 18：00）に施設を利用する場合には、予め指導教員へ申し出て下さい。（許可が得られた場合、指導教員が該当施設の施錠・解除の予約設定をいたします。）

４　大学院研究費による補助取扱い

【取扱い】

大学院研究費は、旅費補助・総合メディアセンター使用料・図書閲覧室コピー機使用料に適用されます。

【旅費補助】

大学院生が旅費補助申請できるのは、国内外の学会に参加する場合（発表・聴講）に限ります。

また、特別な専攻分野で、研究指導教員が特に必要と認める現地調査についても、同様に申請することができます。

＜手続き＞

「研究費による国内（海外）出張旅費内訳書」に

・学会に参加する場合は「学生本人の発表が確認できるもの、または聴講内容の確認できるもの（プログラム等）」

・現地調査の場合は、「現地調査計画書」（工学部・未来科学部事務部に有）を添付の上、研究指導教員に提出して下さい。

※「研究費による国内（海外）出張旅費内訳書」（国内の場合：様式５- １、海外の場合：様式５- ２）は、研究指導教員に配布されています。又は、工学部・未来科学部事務部にあります。

※ 宿泊費は１泊につき上限 8,000 円までとします。海外は、「学会出張等国外旅費計算基準（研究指導教員に配布）を参照して下さい（助手欄）。

※ 連名による学会発表で本人が直接発表しない場合は当該専攻主任の承認も必要です。

5　学　籍

学生のみなさんは、入学により本学の学生としての身分を取得し、修了により失いますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。入学後、諸般の事情により退学や休学の許可を得なければならない時には、学生支援センター（学生厚生担当）で次のような手続をしてください（いずれも所定の願用紙を使用してください）。

①　休　学

傷病その他の理由で引き続き３ヶ月以上出席できないときは、休学願を提出し許可を受けてください。傷病による場合は、医師の診断書が必要です。

休学できる期間は許可を受けた年度に限ります。また、休学の申請期間は学期途中から休学する場合でも半期ごと（６ヶ月）ですが、前期の申請時期のみ通年（前期と後期）での休学申請も可能です。なお、特別な事情があると認められた場合は、再休学を許可することがありますが、その場合は再度手続きが必要です。休学期間は在学年数に算入されません。休学は合計 2 年間まで許可することがあります。

また、休学期間中は在籍料の納入が必要です（半期 60,000 円）。ただし所定の期日までに願を提出する必要がありますので、詳細は学生支援センター（学生厚生担当）に問い合わせください。

②　復　学

休学の理由が消滅したときには、復学願を提出し許可を受けてください。傷病等により休学していた場合は、医師の診断書が必要となります。復学時期は原則として学期の始めとなります。休学して復学する場合、当該学年の正規進級学年次生の学費が適用され、それを納入しなければ復学できません（詳細な手続きは休学満了の時期に通知いたします）。

③　退　学

傷病その他の理由により退学しようとするときは、退学願（学生証添付）を提出し、許可を受けてください。退学の期日は原則として学期末（前期:9 月 10 日､後期:3 月 31 日）となります。退学願を提出するためには、退学を希望する学期末までの学費を納入していることが必要です。退学を希望する学期末を経過した場合には、次の学期末での退学扱いとなりますが、所定の期日までに願を提出すれば期日を遡って退学とする場合もありますので、詳細は学生支援センター（学生厚生担当）まで問い合わせください。

④　除　籍

次のいずれかに該当する場合は除籍となります。

（１）最長在学年限（学則第６条：修士課程４年、博士課程（後期）６年）を超えた者
（２）休学期間を超えてなお復学しない者
（３）学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者
（４）正当な理由がなく、無届けで、引き続き３ケ月以上欠席した者

（5）所定の学費納入期限から起算して３ケ月以内に学費を納入しないとき
（ただし、年度末を越えてはこれを認められないので、年度内の指定された日に必ず納入のこと）

⑤ 再入学

本大学院を退学した者または除籍された者が、同一の課程および専攻へ再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しません。

6　学生証

① 学生証の携帯

学生証は､みなさんが本学の学生であることを証明するものです。学生証は常に携帯し、盗難や悪用などされないよう大切に扱ってください。また学生証は、東京千住キャンパス内のセキュリティゲートの通過や、授業の出席、証明書自動発行機での各種証明書発行、図書館での本の貸し出しの際にも必要です。特に、試験を受験する際には必ず必要ですので注意してください。

学生証の取扱いは、２号館３階学生支援センター（学生厚生担当）で行っています。

② 学生証の交付と年度更新

新入生　：　入学式当日に交付。

在学生　：　毎年４月に学生証の年度更新（裏面シールの交換）を実施しますので、定められた期間内に必ず学生支援センターにて手続きを行ってください。裏面シール配付時期については、UNIPA にてお知らせします。

③ 学籍番号について

学生証に記載された７桁の数字・記号を学籍番号といいます。この番号は、みなさんの修了・満期退学後も各種証明書の発行等で利用します。

学籍番号のしくみ

[2013 年度入学　未来科学研究科　修士課程建築学専攻 99 番の例]

13　F　M　A　9　9

専攻記号　個人番号

課程記号（M: 修士課程）

所属記号（未来科学研究科）

入学年度（西暦下二桁）

所属専攻記号
学内においては、各専攻を簡単にアルファベット記号で表しています。

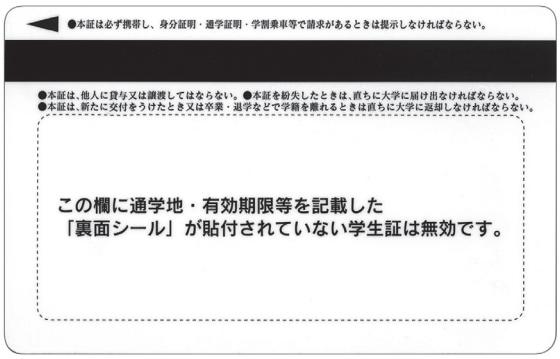
建築学専攻…ＦＭＡ
情報メディア学専攻…ＦＭＩ
ロボット・メカトロニクス学専攻…ＦＭＲ

④　学生証の紛失・汚損

学生証を紛失・汚損した場合は、直ちに学生証再発行の手続きをとってください。2 号館 3 階の証明書自動発行機で学生証再発行の申請書（2,000 円）を出力し、必要事項を記入の上、学生支援センター（学生厚生担当）へ提出してください。原則として、翌日にお渡しします。

なお、退学・除籍の場合は、学生証を直ちに返納してください。

〔表面〕



〔カード裏面〕

通学地	東京都足立区千住旭町５番　03-5284-5340(ダイヤルイン)					有効期限	
現住所						2014.3.31	
通学区間	～					東京電機大学	
通学定期乗車券発行控	発行年月日	通用期間	発行駅	発行年月日	通用期間	発行駅	大学記載欄
		箇月			箇月		
		箇月			箇月		
		箇月			箇月		

〔裏面シール〕

7　学　費

(1) 納入期限（平成 25 年度）及び学費振込用紙の発送時期

新入生

納入期限		学費振込用紙の発送
前学期	後学期	
（入学手続時に前学期分学費は納入済）	10 月末日	後学期分の振込用紙を7月上旬に発送。

新入生以外

納入期限		学費振込用紙の発送
前学期	後学期	
4月末日	10 月末日	4月上旬に１年分（前･後学期の２枚）を発送。

納入期限は金融機関の休日にあたる場合は翌営業日

(2) 納入方法

本学所定の「学費等振込用紙」にて銀行からお振り込みください。前学期と後学期の年２回払いです。ご事情により、ＡＴＭやネットバンキングをご使用される場合は、学籍番号・学生カナ氏名・金額を正確にご入力しお振り込みください。

(3)「学費等振込用紙」について

① 経理部（会計担当）から保証人宛に郵送します。

② 保証人住所及び氏名は、学生支援センター（学生厚生担当）に登録されている内容を記載しています。変更がある場合は学生支援センター（学生厚生担当）にてお手続きください。

③ 保証人以外の宛先を希望される場合は、経理部（会計担当）にてお手続きください。

④ 紛失された場合は、経理部（会計担当）にて再発行の手続きをおとりください。

※上記③及び④は、電子メールでのお手続きも可能です。

⇒経理部（会計担当）メールアドレス　：　gakuhi@jim.dendai.ac.jp

(4) 学費延納

① 特別な理由により学費を納期限内に納入できず延納を希望される場合は、納期限までに本学所定の「学費延納願」を提出してください。

② 「学費延納願」は、学生本人及び保証人の署名捺印の他、延納理由のご記入が必要です。納期限日までにご提出できるようご準備ください。用紙は学生支援センター（学生厚生担当）にて配付します。

③ 延納が許可される期間は、前学期は6月末日、後学期は 12 月末日迄です。

(5) その他

① 学費が所定の期日を過ぎて未納の場合は学則により除籍となります。

② 留年者の学費は当該学年の正規学年次生と同額となります。

③　休学の場合は半期６万円の在籍料がかかります。（平成 24 年度入学者より）

学費に関する情報は経理部（会計担当）のホームページにて確認できます。
http://www.dendai.ac.jp/keiri/kaikei/

8　奨学金制度

奨学金制度は教育の機会均等の精神に基づき、本学独自の奨学金や日本学生支援機構をはじめ、各種の団体により設けられており、学業成績・人物ともに優秀であって経済的に困窮している学生に対して奨学金を貸与または給付するものです。

奨学金関係の事務は学生支援センター（学生厚生担当）で扱っています。募集をはじめ奨学金関係の連絡はすべて UNIPA でおこないますので、見落とすことのないよう十分注意してください。

なお、家庭の経済事情の急変などのため奨学金を希望する場合は、随時、相談してください。

主な奨学金制度には次のものがあります。

①　東京電機大学学生救済奨学金（本学独自：貸与・無利子）

保証人（家計支持者）の経済的な理由で学費の支払いが困難となり、学業半ばにして学業継続を断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるものです。

資　格	大学院・学部に在学し、保証人（家計支持者）の経済的な理由で学費の支払いが困難な学生（卒業年次生優先）。貸与は在籍期間中１回に限る。
募集時期	４月と９月の年２回
採用時期	６月下旬頃・11 月下旬頃
貸与額	該当学期（セメスター）分の学費相当額。奨学金は学費に充当する。
返　還	無利子・卒業後５年間（繰り上げ返還可）
採用者数	工学部６名、未来科学部７名、工学部第二部１名、理工学部２名、情報環境学部２名、工学研究科１名（平成 24 年度実績）

② 東京電機大学学生支援奨学金（本学独自：貸与・無利子）

本学主催の海外英語短期研修への参加および高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するものです。

資　　格	大学院・学部に在学し、本学主催の海外英語研修への参加および高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生。貸与は在籍期間中１回に限る。
募集時期	４月と９月の年２回 （＊海外英語研修参加者には、参加決定後別途連絡）
採用時期	６月下旬頃・11 月下旬頃
貸 与 額	30 万円の範囲内で査定
返　　還	無利子・卒業後５年間（繰り上げ返還可）
採用者数	工学部１名、未来科学部１名、理工学部４名、情報環境学部２名、工学研究科１名、未来科学研究科３名、理工学研究科１名、情報環境学研究科２名（平成 24 年度実績）

③ 東京電機大学校友会・新電気奨学金（本学独自：貸与・無利子）

東京電機大学校友会が昭和59年度より設立した制度で、家庭の経済的事情の急変により、学業継続が困難な学生に対して貸与される奨学金です。

資　　格	大学院・学部に在学し、家庭の経済的事情の急変により学業継続が困難な学生（主に卒業年次生対象）。貸与は在籍期間中１回に限る。
募集時期	随時。但し、学費に充当するため、学費納入期限以前の応募が望ましい。
貸 与 額	１回に納入する学費等の相当額
返　　還	無利子・卒業後５年間
採用者数	工学部２名、理工学部１名（平成 24 年度実績）

④ 東京電機大学大学院貸与奨学金（本学独自：貸与・無利子）

資　　格	大学院に在学し、人物優秀にして学業成績が良好、かつ学費の支弁が困難な者
募集時期	４月と９月の年２回
採用時期	６月下旬頃・11 月下旬頃
貸 与 額	該当学期の学費相当額
返　　還	無利子・卒業後５年間（繰り上げ返還可）
採用者数	工学研究科 34 名、未来科学研究科 22 名、理工学研究科４名、情報環境学研究科 12 名、先端科学技術研究科２名（平成 24 年度実績）

⑤　日本学生支援機構による奨学金

「第一種」（貸与・無利子）

貸与期間	最短修業年限（修士２年）の終期まで ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取り消される場合があります。
募集時期	原則として４月上旬の１回限り
貸与月額	50,000 円または 88,000 円
資　　格	成績が特に優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を備えて活動することができると認められる者。

「第二種」（貸与・有利子）

貸与期間	最短修業年限（修士２年）の終期まで ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取り消される場合があります。
募集時期	原則として４月上旬の１回限り
貸与月額	５万・８万・10 万・13 万・15 万円の中から選択
資　　格	以下のいずれかに該当する者。 (ア) 成績が優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を備えて活動することができると認められる者。 (イ) 学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められる者。

9　副手制度

①　副手制度とは

本学には、大学院の学生が自分の学業・研究の負担にならない範囲で学部の実験・演習等の授業について授業の補助業務を担当することができ、一定の手当てが支給される副手制度があります。

この制度は、学部と大学院の相互教育を促進することを主旨としており、大学院の学生にとっては理論を実験に生かす貴重な場であり、学部の学生にとっては先輩から気軽に学ぶことができるという多くのメリットを持っています。

このような点から、他大学からも評価されている制度の一つです。

最近では、大学院学生の増加に伴い、希望者全員がこの制度に採用されるとは限りませんが、採用された者は良き先輩であり、かつ良き指導者として業務に取り組む意識を持ってください。

②　業務内容

（1）授業補助

学部の実験、演習等の授業の補助を行います。

（2）授業外業務

授業実施に関連する前準備、後始末等のほか、留学生や身体にハンディキャップを持つ学生に対する教育上の補助業務、学習サポートセンターに関する業務、学科の諸業務を行います。

（3）期末試験監督等

授業補助を担当した者は、学部の定期試験の試験監督等を行わなければなりません。

③　手当

毎月決められた支給日に月額が支給されます。

月額は、１授業担当につき下記のとおりです。

	A	B
	授業補助担当分	授業外業務担当分
修士課程在学者	8,000 円	2,600 円
博士課程（後期）在学者	9,000 円	3,000 円

摘　要

Ａ欄は毎週２時間の勤務につき支給する月額。

Ｂ欄は毎週１時間の勤務につき支給する月額。

詳細は、副手採用の際交付される細則等をご覧下さい。

10　保険制度

①　学生教育研究災害傷害保険（学研災）

本学は、教育研究活動中の不慮の災害事故補償のための「学生教育研究災害傷害保険」に関する賛助会員大学となり、本保険への加入受付事務等をしています（全員加入制）。

保険金が支払われる場合
・本学の教育研究活動中の急激かつ偶然な外来の事故によって身体に傷害を被ったとき

教育研究活動中とは次の場合をいいます。

①　正課を受けている間

講義、実験･実習、演習または実技による授業（以下を総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ．指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかる場所においてこれらに従事している間を除きます。

ロ．指導教員の指示に基づき授業の準備もしくは後始末を行っている間または、授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

②　学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③　①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している学校施設内にいる間。ただし寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間または大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④　学校施設外で大学に届け出た課外活動（クラブ活動）を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。

⑤　正課・学校行事・課外活動のための移動中

正課・学校行事・課外活動のために、住居と学校施設間の移動中、もしくは学校施設と学校施設間の移動中。

保険金の種類および額（普通保険約款第６条、第７条、第８条、第９条、第 10 条、第 11 条参照）
※平成 23 年度以降の場合

	保険金金額 担保範囲	死亡	後遺傷害	医療	入院 （日額）
学研災 2,000 万円コース	正課中 学校行事中	2,000 万円	90 万～ 3,000 万円	治療日数 1 日目から対象 ３千円～ 30 万円	4,000 円
	上記以外で学校施設内にいる間	1,000 万円	45 万～ 1,500 万円	治療日数 14 日以上が対象 ３万円～ 30 万円	4,000 円
	学校施設以外で大学に届け出た課外活動中	1,000 万円	45 万～ 1,500 万円	治療日数 14 日以上が対象 ３万円～ 30 万円	4,000 円
通学特約	「通学中」 「学校施設等と相互間の移動中」	1,000 万円	45 万～ 1,500 万円	治療日数７日以上が対象 0.6 万円～ 30 万円	4,000 円

保険金が支払われない場合
・故意、闘争行為、犯罪行為、疾病または心神喪失、地震、噴火、津波、戦争、暴動、放射線・放射能による傷害、無資格運転・酒酔い運転、脳疾患、自殺行為など
保険料と保険期間（保険料は入学手続時に所定の修業年限分を納入済です。下記保険料は、2010 年度以降入学者の金額）

- 修士課程　（2 年）　1,750 円
- 〃　社会人コース　（3 年）　2,600 円
- 博士課程（後期）　（3 年）　2,600 円

※　詳細については、「学生教育研究災害傷害のしおり」（学生支援センター窓口で配付）を確認してください。

②　学研災付帯賠償責任保険（学研賠）

学研災付帯賠償責任保険（学研賠）は、学外機関での研究期間中、正課、学校行事中、およびその往復で、偶然に他人へケガを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害を補償する制度です（任意加入制）。

学外の研究機関に実習へ行く際には、必ず学生支援センター（学生厚生担当）で手続きを行ってください。また当該保険を申し込むためには学生教育研究災害傷害保険（学研災）に加入していることが義務付けられております。

補償の対象となる場合

① 正課、学校行事、およびその往復に、次に掲げる事由により、他人の身体に障害（障害に起因する死亡を含む。以下同様。）を負わせ、または他人の財物を損壊（滅賞、毀損もしくは汚損）させ、被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。 イ．活動に伴い発生した偶然な事故 ロ．活動に伴って提供した財物（飲食物および活動の成果物）に起因する偶然な事故 ② 前記に定める活動に伴って占有、使用または管理する受託物の偶然な事由による損壊、紛失または盗取により、受託物に対し正当な権利を有する者に対し被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。

補償の対象とならない場合

故意、心神喪失、車両（自動車等）もしくは動物の所有･使用･管理、戦争、暴動、地震、噴火、津波、排気・排水、受託物（設計書等）の損壊、紛失、盗難など

保険料と保険期間（保険は任意加入となります。下記保険料および期間は 2013 年度加入者対象）

学研災付帯賠償責任保険　2013 年4月1日～ 2014 年3月 31 日（1年間）　340 円

※　詳細は、加入時に配付するしおりを確認してください。

③インターンシップ・教育資格活動等賠償責任保険（インターン賠）

インターンシップ・教育資格活動等賠償責任保険（インターン賠）は、学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等での就業体験（インターンシップ）中や教育実習期間中、ボランティア活動中およびその往復で、偶然に他人へのケガを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害補償を補償する制度です（任意加入制）。

インターンシップへ行く際には、必ず学生支援センター（キャリア支援・就職担当）、教育実習へ行く際には、必ず工学部・未来科学部事務部（教務担当）で手続きを行ってください。また当該保険を申し込むためには学生教育研究災害損害保険（学研災）に加入していることが義務付けられております。

補償の対象となる場合（賠償責任保険普通保険約款第１条、第２条参照）

① 正課、学校行事、ボランティア等での課外活動およびその往復に、次に掲げる事由により他人の身体に障害（障害に起因する死亡を含む。以下同様。）を負わせ、または他人の財物を損壊（滅賞、毀損もしくは汚損）させ、被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。
イ．活動に伴い発生した偶然な事故
ロ．活動に伴って提供した財物（飲食物に限る）に起因する偶然な事故
② 前記に定める活動に伴って占有、使用または管理する受託物の偶然な事由による損壊、紛失または盗取（詐欺を含む）により、受託物に対し正当な権利を有する者に対し被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。

補償の対象とならない場合（賠償責任保険普通保険約款第５条、第６条参照）

故意、心神喪失、車両（自動車等）もしくは動物の所有･使用･管理、戦争、暴動、地震、噴火、津波、排気・排水、受託物（設計書等）の損壊、紛失、盗難など

保険料と保険期間（保険は任意加入となります。下記保険料および期間は 2013 年度加入者対象）
インターンシップ・教育資格活動等賠償責任保険　2013 年４月１日～ 2014 年３月 31 日（１年間）　250 円

11　教育訓練給付制度

「教育訓練給付制度」とは

働く人の主体的な能力開発の取り組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

雇用保険の一般被保険者又は一般被保険者であった者が、厚生労働大臣の指定する職業に関する教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の 20%（支給要件期間が 3 年以上、ただし、初回に限り 1 年以上の者）に相当する額（上限 10 万円）がハローワークから支給されます。

本研究科は平成 21 年 4 月より教育訓練給付施設として指定されました。この指定によって、所定の条件を満たす大学院生は給付金を受けることができます。なお、現在開設している修士課程すべての専攻が講座の指定対象となっています。

※概要、対象者、申請手続き等について、下記のホームページに掲載されています。よく読んで申請をして下さい。
http://www.kyufu.javada.or.jp/kensaku/T_M_seido

12　その他

①　原則として電話での応対は行ないませんが、急を要する場合は下記に連絡して下さい。
工学部・未来科学部事務部　　TEL　03-5284-5333（ダイヤルイン）
※休講・補講情報は、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA で確認して下さい。

②　その他事務手続きについての詳細は工学部・未来科学部事務部で相談に応じます。

13　校　友　会

みなさんが学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を耳にする機会が多々あると思います。ここではその校友会・同窓会活動について紹介します。

（1）校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方も多いと思いますが、本学園と連携し、在学生のみなさんへ支援を行っております。学園祭等の全体行事援助、奨学金貸与、クラブ活動への補助など、積極的な支援活動を展開しています。

（2）校友会組織と活動

現在、校友会には各校（大学、中学校・高等学校）の同窓会、各県支部（みなさんの出身地にもあります）や企業内同窓会（電機会といいます）があります。将来、これら支部組織が就職活動等でみなさんの力になることと思います。

また、卒業生情報の管理や会誌「工学情報」の編集・発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しております。

（3）東京電機大学校友会新電気奨学金

この制度は一般の奨学金のように期間を設けて募集するのではなく、学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じた時、申請により校友会が立て替えるものです。

希望者は下記の要件を確認した上で、学生アドバイザーあるいは学生支援センター（学生厚生担当）に相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の 1/2 相当額

返　還：卒業後半年据え置いた後、5 年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済
（一括返済可・無利息）

（4）大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、卒業後のクラス会の開催はもとより、在学生のクラブ活動や諸行事にも校友会本部と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大で約 11 万名に達しております。

大学同窓会では学園と協力して“就職セミナー”を開催しており、産業界で活躍している先輩による就職進路相談は就活生に好評です。また年に 1 度、卒業生と在学生との交流行事“OB 交歓会”を各キャンパスで開催し、優秀な学生団体に丹羽賞、同窓会奨励賞を授与しております。

①丹羽賞

初代学長の故丹羽保次郎先生が、生前同窓会に寄せられた基金を基に創設されたもの

で、在学会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去 1 年間に優秀な成績をあげた学生団体に与えられます。

②同窓会奨励賞

昭和 60 年度より設けられた賞で、丹羽賞の対象にはならないが、地道に着実な活動を続けている団体を応援する目的で贈られます。

（5）校友会を訪ねてください

校友会は、東京千住キャンパス 1 号館 2 階にあります。在学中に先輩のこと、出身地の校友会支部のこと等、知りたいことがありましたらお気軽にご相談ください。

（案内図は p.149 参照）

社団法人　東京電機大学校友会
〒120-8551　東京都足立区千住旭町 5 番　東京電機大学東京千住キャンパス 1 号館 2 階
TEL：03-5284-5140　E-mail：kouyukai@jim.dendai.ac.jp
FAX：03-5284-5187　URL：http://www.tduaa.or.jp/koyu/
業務時間 9:00 ～ 17:00

各種施設の利用

総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の教育・研究活動のために、学園全体にさまざまなサービスを提供しています。総合メディアセンターのサービスは、東京千住キャンパスはもとより、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）、千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも１つのＩＤとパスワードで利用することができます。

学生証

図書資料の貸出、コンピュータの利用（印刷）、入退室管理、閲覧席の利用など、総合メディアセンターのサービスを利用するときに必要です。学内では必ず学生証を首から下げるようにしてください。

パスワード

パスワードは、総合メディアセンターの各種サービスとポータルサイト（DENDAI-UNIPA）を利用するための大切な鍵であり、他人に乱用されるなどの悪用を防ぐ錠です。個人データとシステムを守るために初期パスワードは必ず変更してください。推測されやすいパスワードは危険ですので、他人に判らず、自分が忘れないものにしましょう。また、ときどき変更してください。

利用上の注意

■環境保持のため、施設内に飲食物を持ち込むこと・喫煙は堅くお断りします。
※ただし、一部の施設内では、蓋のできる密閉容器に入った飲み物に限り、持込みを認めています。
■総合メディアセンター施設内には、濡れたままの傘を持ち込むことを禁じております。濡れた傘は備え付けの傘袋に入れて持ち込んでください。
■他の利用者の迷惑とならないようマナーを守って利用してください。
■携帯電話の通話は禁止します。どうしても使用したいときは、総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
■総合メディアセンター内ではスタッフの指示に従ってください。指示に従わない場合は退出していただきます。
■総合メディアセンターの施設および資源は、教育・研究を目的としたものです。目的以外に利用した場合、その他、不正行為を行った者は、学則に則って処分します。

サービス時間

■開館

開館時間は、総合メディアセンターの Web ページもしくは掲示で確認してください。

※埼玉鳩山キャンパス、千葉ニュータウンキャンパスのサービス時間も Web ページで閲覧可能です。

■休館

日曜日、祝祭日、創立記念日（9月 11 日）

夏季・冬季・春季の休業中の一定期間

その他に法人・総合メディアセンターが特に必要と認めた日

※都合により変更になる場合がありますので、Web ページもしくは掲示で確認してください。

総合メディアセンターからのお知らせ

Web ページまたは掲示でお知らせします。常に確認するようにしてください。

総合メディアセンターの Web ページ

http://www.mrcl.dendai.ac.jp/

各サービスのメニューが表示されます。

見たいサービスやカテゴリをクリックしてご覧ください。

図書サービス

（1）図書資料の貸出

借用したい図書資料に学生証を添えて、カウンターへ提出してください。また、自動貸出装置を利用して貸出手続きをすることもできます。

■貸出冊数と貸出期間

対象	貸出冊数	貸出期間
学部 1 ～ 3 年生	5 冊	2 週間
卒業年次生（学部 4 年生）	10 冊	1 ヶ月
大学院生	10 冊	1 ヶ月

※予約者がいなければ、貸出期間の更新ができます。返却期限日までに手続きをしてください。更新は、自動貸出装置の利用や、図書 Web ページからＩＤとパスワードを入力するだけで簡単に手続きすることができます。

■館外貸出ができないもの

1	禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
2	雑誌（ブラウジングにある雑誌）
3	修士論文および学位論文（複写も不可）
4	視聴覚資料（CD、DVD など）
5	貴重書

（2）図書資料の返却

借用図書は、定められた期日までに返却してください。借りた図書資料はどのキャンパスでも返却可能です。返却期限日は、図書 Web ページから簡単に確認することができます。退学・除籍・転学・休学などの場合は、貸出残余期間を問わず即時返却してください。

休館日、開館時間外の返却は、ブックポストを利用してください。ブックポストは、各サテライトセンター正面出入口に設置されています。

東京千住キャンパスでは、2 号館 1 階に設置しています。

注意！

図書を延滞すると、遅れた日数分貸出停止となりますのでご注意ください。

なお、借用中の図書資料を紛失した場合には、弁償していただきます。

（3）図書資料の購入

購入希望の図書資料は、図書 Web ページから依頼することができます。購入不可の場合と、購入後貸出可能となったときに、メールで連絡します。

（4）図書資料の予約

図書資料は、図書 Web ページから予約することができます。貸出可能日はメールでお知らせします。貸出可能日以降にカウンターへお越しください。

	所属キャンパス	他キャンパス
予約できる資料	貸出中のもの	貸出中のものも含めて全て
貸出可能日	総合メディアセンターからのメールの発信日	
取り置き期間	7 日間	

※図書が各キャンパスに届くまでの日数

東京千住　⇔　埼玉鳩山・千葉ＮＴ　　１～２日

埼玉鳩山　⇔　千葉ＮＴ　　２～３日

※状況によって日数が変更になる場合があります。

図書資料がなかった場合はメールで連絡します。

（5）各種サービス

レファレンスサービス	図書資料および利用方法に関する質問、学内（外）の情報検索等についてカウンターのスタッフが相談に応じます。
相互利用サービス	必要な資料が本学にない場合は、学外諸機関、他大学図書館等を調査して文献の複写･図書資料の貸借依頼や利用案内、紹介をします。
検索サービス	本学で所蔵している図書資料は、閲覧室内のパソコンで自由に検索できます。また、総合メディアセンターの図書 Web ページを利用して検索することも可能です。
コピーサービス	図書資料の複写は閲覧室内のコピー機を利用してください。私物やノート類の複写はできません。著作権に関しては、利用者が全責任を負うものとします。

※著作権に関する注意（著作権法第 31 条より抜粋）

図書館においては、次に掲げる場合には、図書資料を複製することができる。

図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。

Web によるお知らせとサービス (http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/)

図書 Web ページで以下の情報を公開、サービスを提供しています。

・資料検索
・図書資料予約
・返却期限の確認（自分が借用している図書資料の返却期限の確認）
・借用図書の貸出期間の更新
・文献複写・図書資料貸借依頼〈有料〉
・図書購入依頼（購入希望図書の申込）
・新着図書情報
・ベストリーダ情報（よく利用される図書資料）
・オンラインジャーナル（IEL Online、ACM Portal、他多数）
・各種データベース
・電子図書館

メールによるお知らせ

図書サービスに関する連絡は主にメールで行っています。メールはすべて学籍番号宛になります。学生の場合は、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。以下のような連絡をメールで行いますので、常に確認してください。

・予約図書資料到着のお知らせ
・貸出・更新・返却履歴（前日分）のご案内
・返却期限日のお知らせ（返却期限日の 1 日前に連絡）
・延滞のお知らせ（返却期限日以降に連絡）
・文献複写・図書資料貸借到着のお知らせ
・購入希望図書到着・却下のお知らせ

（6）各種設備

メディアゾーン	開架書架・集密書架エリアには、図書がＮＤＣ（日本十進分類法）により主題別に分類されています。また、集密書架エリアには学術雑誌（バックナンバー一部含む）も配架されています。受験書や就職本、旅行･レジャー･地図などの図書のコーナーも設置しています。読みたい本を自由に探して閲覧することができます。 静粛閲覧エリア（貸出制）もあります。
ラーニングゾーン	グループスタディエリアは、ディスカッションしながらの学習や、プレゼンテーションの練習等、グループで使用することができます。ラーニングコモンズエリアは、相談しながら学習が可能なエリアです。可動式のホワイトボードを設置しています。
リーディングゾーン	閲覧エリアとブラウジングエリアがあります。個人用の閲覧席（貸出制）もあります。 ブラウジングエリアは、くつろいで新聞や雑誌を読みたいときに利用してください。また、日替わりで本学の所蔵しているＤＶＤを放映しています。

図書サービスに関するお問い合わせは下記まで
2 号館 1 階または 2 階のカウンター
メール：k-library@mrcl.dendai.ac.jp

コンピュータサービス

総合メディアセンターでは、コンピュータ関連のシステムを数多く整備しています。ここでは、みなさんが直接利用するシステム、サービスを紹介します。活用してください。

・ユーザ端末システム
・情報コンセントシステム
・プリントシステム
・メールシステム

(1) ユーザ端末システム

総合メディアセンターが管理運用しているパーソナルコンピュータのシステムです。1つのＩＤ（学籍番号）とパスワードで、全キャンパスのユーザ端末システムが利用できます。

場所	室名	ＰＣ	利用形態
2号館4階	ＰＣ教室1	84台	授業優先 授業が行われていないときは、自由に利用できます
	ＰＣ教室2	42台	
	ＰＣ教室3	68台	
	ＰＣ教室4	56台	
	ＰＣ教室5	80台	
	ＰＣ教室6	50台	
	プリントルーム	2台	印刷専用端末

授業･研究で利用するための多種多様なソフトウェアがインストールされています。ソフトウェアの一覧等はWebページをご覧ください。

また、システム保護のため、各種設定の変更やソフトウェアのインストール等はできませんので注意してください。

(2) 情報コンセントシステム

LAN接続可能なパソコンとLANケーブルを持参すれば、以下の場所でネットワークに接続して利用することができます。利用に際しては認証が必要です。詳しくはWebページの手引きをご覧ください。

■使用可能な場所

東京千住キャンパス

2号館 1 階　閲覧エリア1
2号館 4 階　PC教室7
2号館 9 階　2901、2903教室

2号館 10 階　21001、21003、21004、21005 教室
1 号館 2 階　丹羽ホール
※埼玉鳩山キャンパス、千葉ニュータウンキャンパスの使用可能場所は Web ページをご覧ください。

(3) 無線 LAN

東京千住キャンパス内では、ほぼ全域で無線 LAN の利用が出来ます。
無線 LAN の使用方法や埼玉鳩山キャンパス、千葉ニュータウンキャンパスの使用可能場所につきましては Web ページをご覧ください。

(4) プリントシステム

PC 教室・プリントルーム・図書エリアに設置しているプリンタで、随時印刷することができます。使用方法は、Web ページで確認してください。

注意！
印刷枚数には制限があります。
制限枚数などの詳細については、掲示・Web ページで事前に確認のうえ、利用してください。

(5) メールシステム

学生には入学と同時にメールアドレスが付与されます。
メールアドレスは、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。
各種サービスのお知らせが個人宛に送られてきますので、常に確認してください。
（また、メールを、他のメールアドレスや携帯電話に転送することも可能です。）
マナーを守り、コミュニケーションツールとして利用してください。

Web メールシステム (https://webmail.mrcl.dendai.ac.jp/)
総合メディアセンターではブラウザを利用した Web メールシステムも提供しています。自宅、外出先から、Internet Explorer などのブラウザが使える環境があればメールの送受信が可能です。

＊＊＊

・ユーザ端末システムでは、混雑時には課題作成の学生を優先するために、ネットワークだけの利用を禁止することがあります。
・インターネット上の情報（文章・画像・音声等）の取り扱いは、著作権を侵害しないよう細心の注意を払ってください。また、「学内ネットワークを利用した営利行為」「迷惑メールの発信」「個人・特定団体への誹謗・中傷」「著作権侵害行為」などの悪質な行為は、学則に則って処分します。
・利用上の注意や禁止事項は、Web ページでもお知らせします。随時変更がありますので、必ず確認してください。

＊＊

（6）困ったときは

■パソコン操作やプログラム作成時のエラーなどで困ったとき

大学院生の利用相談員に相談してください。
白衣を着用して交代で待機しています。以下のように質問を受け付けています。

期　間：授業期間中
場　所：2 号館 4 階 PC カウンター
※利用相談員が在席している時間については Web ページをご覧ください。
メール：pg-soudan@ms.dendai.ac.jp
※メールでの質問は期間中ならば随時受け付けています。

相談するときの注意
言葉づかいに気をつけて、以下のことをはっきりとわかりやすく伝えましょう。
・自分の学籍番号と氏名
・何をしたいのか
・どのような操作をして、どのようにエラーが出るのかなど

■各種申請手続や機器故障で困ったとき

総合メディアセンターへの申請手続き、ユーザ端末が動かなくなったときなど機器の障害が発生した場合には、コントロールルームにお越しください。

場　所：2 号館 4 階コントロールルーム
メール：k-computer@mrcl.dendai.ac.jp

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。

そのためには、学生等が教育・研究などの諸活動を相互信頼のもとに進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において相手を対等な関係と見ることなく、差別したり、性的な対象として心理的、身体的に傷つけたりすることはあってはならないことです。

しかし不測の事態に備え、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じてハラスメント対策委員会委員長が、適切なハラスメント相談員を紹介あるいはハラスメント調査委員会を組織して事実関係を調査するなど、ハラスメントの防止に取組むことを宣言します。

平成16年4月1日宣言

TDU 東京電機大学
TOKYO DENKI UNIVERSITY

東京千住キャンパス
ハラスメント対策委員会

ハラスメント相談受付窓口

ハラスメントに少しでも悩んでいたら、一人で悩まず、ハラスメント相談受付窓口を利用してください。
詳細は専用パンフレットで確認してください。

What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。
教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。

セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
- 身体に触れる
- 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
- 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする

基本的には「対価型」と「環境型」の２つに分けられます。

対価型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 酒席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環境型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ヌードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪・肩・背中・腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員（先輩）の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子・女の子」、「おじさん・おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの？」、「子供はまだなの？」と聞く。

アカデミック・ハラスメントとは

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。

これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。
拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

もし、あなた自身がハラスメントを受けていると感じたら

- 勇気をもって、「ＮＯ」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

ハラスメントの現場に居合わせたなら

周りの人にもできることがあります

- 自分の周囲で被害にあっている人がいたら、毅然として「いけない」とはっきり言いましょう。
- 被害にあっている人の相談にのりましょう。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょう。

加害者にならないために

私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

学則および諸規程

東京電機大学大学院学則

第１章　総　　則

（目的）

第１条　本大学院は、本大学の使命に従い、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の向上と産業の発展に寄与することを目的とする。

２　本大学院は、第３条第１項に定める研究科及び専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各研究科の研究科規則に定める。

（自己評価等）

第２条　本大学院は、その教育研究水準の向上を図り、大学院の目的及び社会的使命を達成するため、大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

３　本大学院は、第１項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

４　本大学院は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第２章　編　　成

（研究科・課程・専攻）

第３条　本大学院に工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科及び先端科学技術研究科を設け、各研究科に次の課程及び専攻を置く。

工学研究科

修士課程	電気電子工学専攻
	物質工学専攻
	機械工学専攻
	情報通信工学専攻

理工学研究科

修士課程	理学専攻
	生命理工学専攻
	情報学専攻
	電子・機械工学専攻
	建築・都市環境学専攻

情報環境学研究科

修士課程	情報環境学専攻

未来科学研究科

修士課程	建築学専攻
	情報メディア学専攻
	ロボット・メカトロニクス学専攻

先端科学技術研究科

博士課程（後期）	数理学専攻
	電気電子システム工学専攻
	情報通信メディア工学専攻
	機械システム工学専攻
	建築・建設環境工学専攻
	物質生命理工学専攻
	先端技術創成専攻
	情報学専攻

２　前項に定める各研究科に、研究科規則を定める。

３　前項の研究科規則に、次の事項を記載する。

①　研究科・専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

②　学年・学期に関する事項

③　教育課程に関する事項

④　課程修了の要件

⑤　その他、大学院学則施行上の必要事項

（課程の区分・修業年限）

第４条　修士課程の標準修業年限は２年とし、工学研究科社会人コースにおいては３年とする。

２　博士課程（後期）の標準修業年限は３年とする。

（課程の目的）

第５条　修士課程は、広い視野にたって精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

２　博士課程（後期）は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

（最長在学年限）

第６条　最長在学年限は、修士課程を４年、博士課程（後期）を６年とする。ただし、修士課程のうち工学研究科社会人コースにおいては６年を最長在学年限とする。

（入学及び収容定員）

第７条　各研究科の入学定員及び収容定員は、別表第１のとおりとする。

第３章　運営の機関

（研究科委員長）

第８条　各研究科に、研究科委員長を置く。

２　委員長の選出に関する規則は別に定める。

３　委員長は、当該研究科の学務を統括し、次条に規定する研究科委員会を招集する。

（研究科委員会）

第９条　各研究科に、研究科委員会を置く。

２　研究科委員会は、大学院担当の専任教員で組織する。

３　大学院担当の教員の資格・種別、その選考基準及び選考手続ならびに研究科委員会の組織及び運営等については別に定める。

（審議事項）

第 10 条　研究科委員会は、それぞれの研究科に関する、次の事項について審議する。

(1)　学生の入学、転学、留学、休学、退学及び賞罰等に関する事項

(2)　教育課程及び授業編成に関する事項

(3)　試験及び学位論文審査に関する事項

(4)　学位授与に関する事項

(5)　研究科委員会会員の人事に関する事項

(6)　委員長の推挙に関する事項

(7)　大学院則及び研究科規則の改正に関する事項

(8)　委員長または学長が諮問した事項

(9)　その他研究及び教育に関する事項

第４章　学年、学期および休業日

（学年・学期）

第 11 条　学年は、4月1日に始まり、翌年3月 31 日に終る。

２　学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各研究科において定める。

（休業日）

第 12 条　休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

創立記念日　9月 11 日

夏季休業

冬季休業

春季休業
２　夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各研究科においてその都度定める。
３　必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。
４　休業中でも、特別の必要があるときには、授業を行うことがある。

第５章　教育課程

（授業科目・単位等）
第 13 条　各研究科における授業科目及び単位数は、各研究科規則において定める。
２　授業科目の単位数算定の基準については、本大学学則第 21 条を準用する。
３　授業科目の履修方法及び博士課程（後期）における必要な研究指導については、各研究科の定めるところによる。
４　本大学院は、授業並びに研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（大学院の教育方法の特例）
第 14 条　各研究科においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、標準修業年限の全期間にわたり、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

（他の大学院における授業科目の履修）
第 15 条　学生が各研究科の定めるところにより、他大学の大学院または外国の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、当該研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その修得した単位のうち 10 単位を超えない範囲で、その研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

（入学前の既修得単位の認定）
第 16 条　学生が、本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位は、当該研究科委員会が教育上有益と認めた場合、本大学院に入学した後の本大学院当該研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、本大学院において修得した単位以外のものについては、10 単位を超えないものとする。

（他の大学院または研究所等における研究指導）
第 17 条　学生が、他の大学院または研究所等において課程修了に必要な研究指導の一部を受けることが教育上有益であると研究科委員会が認めた場合、当該大学院（もしくは研究科）または研究所等の協議に基づき、その研究指導を受けることを認めることができる。
２　前項の規定により研究指導を受けることのできる期間は、１年を超えないものとする。ただし、修士課程を除き、研究科委員会が教育上有益と認めた場合、さらに１年以内に限り延

長を認めることができる。
３　前２項の規定は、学生が外国の大学院または研究所等において研究指導を受けようとする場合に準用する。

（学部等における授業科目の履修）
第 18 条　修士課程においては、教育上有益と当該研究科委員会が認めた場合で、次の各号に掲げる科目を修得したときは、当該研究科の修士課程における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
(1)　本大学学部の科目
(2)　本大学院の他の研究科の科目

（教員の免許状取得資格）
第 19 条　教育職員の免許状を取得しようとする者は、本学で定めている教職課程に関する科目及び必要な授業科目を修得しなければならない。
２　本大学院において取得できる免許状の種類は別表第２のとおりとする。

第６章　課程修了の要件とその認定

（修士課程修了の要件）
第 20 条　修士課程の修了要件については、修士課程を置く各研究科の研究科規則において定める。

（博士課程 (後期) 修了の要件）
第 21 条　博士課程（後期）の修了要件については、博士課程（後期）を置く各研究科の研究科規則において定める。

（課程修了の認定・成績評価）
第 22 条　課程修了の認定は、各研究科委員会が行う。
２　学位論文審査及び最終試験の成績評価は、各研究科委員会が定める手続、方法等に従い、当該研究科委員会から委嘱された論文審査委員及び最終試験委員が行う。
３　科目及び論文審査の評価は、次のとおりとする。
[先端科学技術研究科]
(1)　科目及び論文審査
　　Ａ　　合　格
　　Ｂ　　合　格
　　Ｃ　　合　格
　　Ｄ　　不合格

(2)　最終試験
　　合　格
　　不合格

[工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科]
(1)　科目及び論文審査
　　S　　合　格
　　A　　合　格
　　B　　合　格
　　C　　合　格
　　D　　不合格
(2)　最終試験
　　合　格
　　不合格

第７章　学位授与

（学位の授与）
第 23 条　本大学院の課程を修了した者には、「東京電機大学学位規程」の定める手続により、研究科委員会の議を経て修士または博士の学位を授与する。
２　博士課程 (後期) を経ないで論文を提出し、博士の学位を請求した者に対する論文審査及び学力の確認は、「東京電機大学学位規程」及び「東京電機大学博士課程によらない学位請求の審査規程」の定めるところによる。

（学位の種類・名称）
第 24 条　学位の種類及び名称は、別表第３のとおりとする。

第８章　入学、学籍の異動および賞罰

（入学の時期）
第 25 条　入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

（入学資格）
第 26 条　修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1)　学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者
(2)　学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
(3)　外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
(4)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者

(5)　専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
(6)　文部科学大臣の指定した者
(7)　大学に３年以上在学し、又は、外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本大学院当該研究科委員会が、特に優れた成績で所定の単位を修得したものと認めた者
(8)　本大学院当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者
(9)　その他本大学院当該研究科委員会が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
２　博士課程（後期）に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1)　修士の学位を有する者
(2)　外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者
(3)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
(4)　大学を卒業し、大学、研究所等において、２年以上研究に従事した者で、本大学院当該研究科委員会が、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
(5)　外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、２年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
(6)　本大学院当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達した者
(7)　その他本大学院当該研究科委員会が、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

（入学志願手続）
第 27 条　入学志願者は、指定の期間内に、所定の入学志願手続をとらなければならない。

（修士課程入学者の選考）
第 28 条　修士課程への入学者の選考は、学科試験、人物考査及び健康診断等の方法による選抜試験により行う。
２　学科試験は、主として筆記とし、必要があるときは口述を加えることがある。
３　筆記試験は、専門に関する学科目と外国語について行う。

（博士課程（後期）入学者の選考）
第 29 条　博士課程（後期）への入学者の選考は、筆記試験、口述試験、修士課程における学

業成績、修士論文、人物考査及び身体検査等の方法による選抜試験により行う。

（入学手続）

第 30 条　入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに保証人連署の誓約書その他必要な書類に別表第４に定める学費を添えて、入学手続をしなければならない。

２　学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（転学）

第 31 条　他の大学院の学生が、所属大学の学長または研究科の長の承認書を添えて本大学院に転学を志望したときは、選考の上、学年または学期の始めに入学を許可することがある。

２　学生が、他の大学院への転学を願い出たときは、事情によって許可することがある。

（再入学）

第 32 条　大学院を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しない。

（留学）

第 33 条　学生が、外国の大学院等の授業科目の履修または研究指導を受けるために留学を願い出たとき、その学生の所属の研究科委員会が、本人の教育上有益であると認めた場合、許可することができる。

２　留学期間は１年を原則とし、その期間は１年を限度として、第 20 条もしくは第 21 条に定める在学年数に算入できる。

３　留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

（休学）

第 34 条　傷病その他の理由で引き続き３ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書もしくは理由書を添え、休学届を提出し、研究科委員長の許可を受けなければならない。

２　休学は当該年度限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。

３　休学期間は、各課程それぞれ２年を超えることはできない。

４　休学の理由が消滅したときには、復学届を提出し、研究科委員長の許可を受けなければならない。

５　休学期間は、在学年数に算入しない。

６　休学者は学期ごとに、60,000 円の在籍料を納入する。

（退学）

第 35 条　傷病その他の理由により退学しようとする者は、理由書を添え、保証人連署の退学届を提出し、許可を受けなければならない。

（除籍）
第 36 条　次の各号のいずれかに該当する者は除籍とする
(1)　第６条に定める最長在学年限を超えた者
(2)　第 34 条第３項に定める通算休学期間を超えても復学しない者
(3)　学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者
(4)　正当な理由がなく、無届けで、引き続き３ヶ月以上欠席した者
(5)　所定の学費の納入期日から起算して、３ヶ月以内に学費を納入しない者

（表彰）
第 37 条　学生として表彰に価する行為があった者については、学長または委員長は表彰することができる。

（懲戒）
第 38 条　学則に基づいて定められている規則、規程等に違反し、あるいはその他学生としての本分に反する行為があった学生に対しては、研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。
２　懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
３　前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
(1)　性行不良で、改悛の見込みがないと認められた者
(2)　本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

第９章　科目等履修生

（科目等履修生）
第 39 条　本大学院の学生以外の者で、本大学院で開設している１または複数の授業科目の履修を希望する者は、選考の上、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。
２　科目等履修生に関する事項は、別に定める。

第 10 章　外国人特別学生

（外国人特別学生）
第 40 条　外国人であって、第 26 条に定める入学資格がある者は、選考の上、入学を許可することができる。

第 11 章　学費及びその他の費用

（学費及びその他の費用）
第 41 条　入学検定料、学費及び科目等履修費は別表第４のとおりとする。
２　学費とは、入学金及び授業料をいう。
３　博士の学位論文審査料については、別に定める。

４　学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。
５　すでに納入した学費その他の費用等は、返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。
６　授業料は分納することができる。

第 12 章　改正および雑則

（改正）
第 42 条　本学則の改正は、研究科委員会の議を経なければならない。

（施行細則その他）
第 43 条　本学則の施行に必要な細則等は、研究科委員会の議を経て別に定めることができる。

附　則（省略）
別表第１～４（省略）

東京電機大学大学院未来科学研究科規則

第１章　総　　則

（趣旨）

第１条　未来科学研究科規則は、東京電機大学大学院学則（以下「大学院則」という。）第３条第２項に基づき、未来科学研究科（以下「本研究科」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程、課程修了の要件その他大学院則施行上必要な事項を定める。

（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的）

第２条　本研究科は、学部教育で培った科学技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的生産活動を促進する生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）を創生する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、人の生活空間環境の発展と維持に、科学技術を適用しかつ共生させることができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性と創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

２　本研究科の各専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

（1）　建築学専攻は、学部教育で培った建築技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的住空間を創生する建築学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、建築学の「建築計画・意匠」「建築構造・情報」「建築環境・設備」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

（2）　情報メディア学専攻は、学部教育で培った情報メディア技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的情報空間を創生する情報メディア工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワークコンピューティング」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

（3）　ロボット・メカトロニクス学専攻は、学部教育で培ったメカトロニクス技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的行動空間を創生するロボット・メカトロニクス工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、ロボット･メカトロニクス学の「電気電子工学」「機械工学」「情報工学」「コンピュータ工学」「制御工学」部門の基盤技術を相乗的に統合する創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

第２章　学年及び学期

（学年・学期）

第３条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。

２　学年を、次の２つに分ける。

前学期　４月１日から９月 10 日まで

後学期　９月 11 日から翌年３月 31 日まで

第３章　教育課程

（授業科目・単位等）

第４条　本研究科における授業科目及び単位数は、別表第１のとおりとする。

第４章　成績及び修了

（成績評価・単位認定）

第５条　本研究科は大学院則第 22 条に基づき、科目の成績評価を行う。

２　本研究科における、成績評価及び GPA（Grade point Average）ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	GPA ポイント
90 ～ 100	S	4
80 ～ 89	A	3
70 ～ 79	B	2
60 ～ 69	C	1
0～ 59	D	0
放棄	―	0

（修士課程修了の要件）

第６条　本研究科において修士課程を修了するには、２年以上在学し、所要科目 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1 年以上の在学で修了を認めることができる。

２　前項の場合において、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

第５章　改　　正

（改正）

第７条　この規則の改正は、本研究科委員会の議を経なければならない。

附　　則（省略）

別表第１（省略）

東京電機大学学位規程（抄）

第１章　総　　則

（目的）

第１条　本学学位規程は、本学において授与する学位の種類、論文審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

（学位の種類等）

第２条　本学において授与する学位は、博士、修士及び学士であり、それに付記する専攻分野は次のとおりとする。

博士（工学）　　博士（理学）
博士（情報学）
修士（工学）　　修士（理学）
修士（情報環境学）　　修士（情報学）
学士（工学）　　学士（理学）
学士（情報環境学）　　学士（情報学）

（学位の授与の要件）

第３条　博士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、博士課程（後期）を修了した者に授与する。

２　前項に規定する者のほか、本学大学院学則第 23 条第２項により博士の学位は、本学に学位論文を提出してその審査及び学力の確認に合格し、かつ、人物学力とも本学大学院の博士課程（後期）に所定期間在学し所定の専攻科目について所定単位以上を修得した者と同等以上と認められた者に授与することができる。

３　修士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、修士課程を修了した者に授与する。

４　学士の学位は本学大学学則の定めるところにより、本大学を卒業した者に授与する。

第２章　学位の授与

（学位の授与）

第４条　前条における大学院の修士課程及び博士課程（後期）の修了者については、本学大学院学則第 23 条第１項の定めるところにより、また本大学の卒業者については、本学大学学則第 32 条第１項の定めるところにより、それぞれ学位を授与する。

（論文提出による学位の授与）
第５条　第３条第２項により、博士の学位論文を提出した者については本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程の定めるところにより審査の上、学位を授与することができる。

（課程の修了及び論文の審査の議決）
第６条　研究科委員会は、第３条第１項及び第３項によるものについては本学大学院学則の定めるところにより、それぞれ課程の修了の可否を議決する。
２　前項の研究科委員会は、会員総数（長期海外出張者及び休職者を除く）の３分の２以上の出席がなければ開くことができない。
３　第１項の議決は出席委員の３分の２以上の賛成を必要とする。
４　第３条第２項によるものについては本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程の定めるところに従って決する。

（学長への報告）
第７条　研究科委員会が前条の議決をしたときは、当該研究科委員会の委員長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。
２　学部教授会が卒業を認定したときは、当該学部長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

（学位記の交付）
第８条　学長は、前条の報告に基づいてそれぞれ学位記を授与するものとする。

第３章　論文の公表、学位の名称の使用

（論文要旨等の公表）
第９条　本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から３月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

（学位論文の公表）
第 10 条　博士の学位の授与を受けた者は、当該博士の学位の授与を受けた日から１年以内にその論文を印刷公表するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りでない。

（学位の名称の使用）
第 11 条　学位の授与を受けた者は、学位の名称を用いるときは、当該学位を授与した本学名を、博士（工学）（東京電機大学）、博士（理学）（東京電機大学 ）、博士（情報学）（東京電機大学 ）、修士（工学）（東京電機大学）、修士（理学）（東京電機大学）、修士 (情報環境学）（東京電機大学）、修士（情報学）（東京電機大学）、学士（工学）（東京電機大学）、学士（理学）

（東京電機大学）、学士（情報環境学）（東京電機大学）、学士（情報学）（東京電機大学）のように付記するものとする。

２　学位記の様式は、別表第１から別表第４のとおりとする。

第４章　学位授与の取消、学位記の再交付、学位授与の報告

（学位授与の取消）

第 12 条　学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為があったとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、当該研究科委員会又は当該学部教授会の議を経て学位の授与を取消すことができる。

（学位記の再交付）

第 13 条　学位記の再交付は行わない。

（学位授与の報告）

第 14 条　本学において博士の学位を授与したときは、学長は当該博士の学位を授与した日から３月以内に所定の様式により、文部科学大臣に報告するものとする。

付　則（省略）

東京電機大学学生救済奨学金貸与規程

第１条（目的）この規程は、教育の機会均等の精神に基づき、経済的事由が急変したために修学に困難をきたした者に、救済奨学金を貸与し（以下貸与された者を「救済奨学生」という。）、もって学業継続の機会を与えることを目的とする。

第２条（救済奨学資金）この規程による救済奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第３条（救済奨学生の選考・決定等）救済奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在籍する学生であって、学業達成に意欲的で心身共に健康であり、かつ、主たる家計支持者の経済的事由の急変が次の各号のいずれかに該当し、学費の支弁が困難であると認められるとともに、救済奨学金の貸与により学業継続が可能であると認められる者のうちから採用する。

⑴　失業又は事業の倒産

⑵　被災

⑶　長期療養

⑷　死亡

⑸　その他学費の支弁が困難であると救済奨学生選考委員会が認める事項

２　救済奨学生の採用は、救済奨学生選考委員会の選考に基づき、学長がこれを決定する。

第４条（救済奨学金の貸与額）東京電機大学大学院、東京電機大学工学部、工学部第一部、工学部第二部（平成 17 年度以前入学者）、理工学部、未来科学部及び東京電機大学短期大学における救済奨学金の貸与額は、それぞれの学則に定める半期分の学費相当額とする。

２　東京電機大学工学部第二部（平成 18 年度以降入学者）及び情報環境学部における救済奨学金の貸与額は、当該学期の授業料基礎額及び履修予定単位数分の従量額並びに教育充実費相当額とする。

３　救済奨学金は学費に充当しなければならない。

第５条（採用）救済奨学生の採用は、原則として毎年 4 月又は 10 月とし、各校における在籍期間中 1 回とする。

第６条（救済奨学生の資格停止）救済奨学生が休学したときは、救済奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した救済奨学金を返還させることができる。

第７条（救済奨学生の資格取消）救済奨学生が次の各号のいずれかに該当し、救済奨学生として不適格と認められたときは、救済奨学生の資格を取り消す。

⑴　退学したとき、又は除籍されたとき。

⑵　学則に違反して処分を受けたとき。

⑶　救済奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

２　前項により救済奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された救済奨学金の全額を返還しなければならない。

第８条（救済奨学金の返還）救済奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

２　救済奨学金の返還に係る手数料は、救済奨学生が負担する。

３　返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し 5 年間とする。

ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

第９条（利子）貸与した救済奨学金は無利子とする。

第10条（褒賞金の給付・返還の免除）次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、既に貸与した救済奨学金の一部または全部を褒賞金として給付することがある。ただし、褒賞金は返還金に充当しなければならない。

⑴　卒業あるいは修了時に優秀な成績を修めたとき。

⑵　卒業あるいは修了時に著しい学業成果を修めたとき。

２　救済奨学生が死亡又は不具廃疾のため返還不能と認められたときは、救済奨学金の返還の一部又は全部を免除することがある。

第11条（事務）救済奨学生の採用等に係る事務は学生支援センターが、救済奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第12条（実施）この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付　　則（省略）

東京電機大学学生支援奨学金貸与規程

第１条（目的）この規程は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在学する学生に支援奨学金を貸与し（以下貸与された者を「支援奨学生」という。）、もって学生の有為な自己資質向上に資することを目的とする。

第２条（支援奨学資金）この規程による支援奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第３条（支援奨学生の推薦・決定等）支援奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在学する学生であって、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、次の各号のいずれかに該当する者のうちから採用する。

⑴　本学主催の海外英語短期研修に参加する者

⑵　自己資質向上を目的とした教育装置等を購入する者

⑶　その他自己資質向上の実現に意欲があると認められる者

２　支援奨学生は、次の各号のいずれかに該当する者を除く。

⑴　休学中の者

⑵　留学中の者

⑶　所定修業年限を超えて在学している者

３　支援奨学生の採用は、学生支援センター長が推薦し、学長がこれを決定する。

第４条（支援奨学金の貸与額）支援奨学金の貸与額は、30 万円の範囲内で学生支援センター長が査定する。

２　支援奨学金は前条第 1 項の各号に定める使途に充当しなければならない。

第５条（採用）支援奨学生の採用は、各校における在学期間中 1 回とする。

第６条（支援奨学生の資格停止）支援奨学生が休学したときは、支援奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した支援奨学金を返還させることができる。

第７条（支援奨学生の資格取消）支援奨学生が次の各号のいずれかに該当し、支援奨学生として不適格と認められたときは、支援奨学生の資格を取り消す。

⑴　退学したとき、又は除籍されたとき。

⑵　学則に違反して処分を受けたとき。

⑶　支援奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

２　前項により支援奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された支援奨学金の全額を返還しなければならない。

第８条（支援奨学金の返還）支援奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

２　支援奨学金の返還に係る手数料は、支援奨学生が負担する。

３　返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し 5 年間を限度とする。ただし、在学期間中を含め年賦返済又は繰り上げて返還することは差し支えない。

第９条（利子）貸与した支援奨学金は無利子とする。

第10条（事務）支援奨学生の採用等に係る事務は学生支援センター（学生厚生担当）が、支援奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第11条（実施）この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付　　則（省略）

沿　革

沿　　革

1907.9.（明治 40 年）・東京・神田に電機学校創立（9 月 11 日）
1949.4.（昭和 24 年）・東京電機大学開設＜工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置＞
1950.4.（昭和 25 年）・東京電機大学短期大学部開設＜電気科第二部設置＞
1952.4.（昭和 27 年）・工学部第二部開設＜工学部第二部電気工学科設置＞
1956.2.（昭和 31 年）・東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
1958.4.（昭和 33 年）・東京電機大学大学院（夜間）開設＜工学研究科電気工学専攻（修士課程）設置＞
1960.4.（昭和 35 年）・工学部第一部電子工学科設置
1961.4.（昭和 36 年）・工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
・工学部第二部電気通信工学科設置
1962.4.（昭和 37 年）・大学院工学研究科博士課程開設＜電気工学専攻（博士課程）設置＞
・工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
1965.4.（昭和 40 年）・工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
1975.4.（昭和 50 年）・工学研究科電気工学専攻（修士課程）（昼間）設置
1977.4.（昭和 52 年）・鳩山キャンパス開設、理工学部開設＜数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置＞
1981.4.（昭和 56 年）・理工学研究科開設＜数理学専攻（修士課程）・システム工学専攻（修士課程）・建設工学専攻（修士課程）・機械工学専攻（修士課程）設置＞
・総合研究所開設
1983.4.（昭和 58 年）・理工学研究科博士課程開設＜応用システム工学専攻（博士課程）設置＞
1984.4.（昭和 59 年）・理工学研究科数理学専攻（博士課程）設置
1986.4.（昭和 61 年）・理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
1990.4.（平成 2 年）・千葉ニュータウンキャンパス開設
・工学研究科情報通信工学専攻（修士課程）・電子工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科情報科学専攻（修士課程）・応用電子工学専攻（修士課程）設置
1991.4.（平成 3 年）・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程）・物質工学専攻（修士課程）設置
1992.4.（平成 4 年）・工学研究科情報通信工学専攻（博士課程）・電子工学専攻（博士課程）、建築学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理学専攻（博士課程）を数理科学専攻（博士課程）に名称変更
1993.4.（平成 5 年）・工学研究科機械システム工学専攻（博士課程）、物質工学専攻（博士課程）設置
・工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更
1995.4.（平成 7 年）・工学研究科建築学専攻（博士課程）設置

1997.4.（平成 9 年）・超電導応用研究所、建設技術研究所設立
・産官学交流センター設立
1997.6.（平成 9 年）・ハイテク・リサーチ・センター設立
1999.4.（平成 11 年）・理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を知能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更
・フロンティア共同研究センター設立
2000.4.（平成 12 年）・理工学部生命工学科、情報社会学科設置
2001.4.（平成 13 年）・情報環境学部開設＜情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置＞
・大学院工学研究科機械工学専攻（修士課程・博士課程）、精密システム工学専攻（修士課程・博士課程）設置
2002.4.（平成 14 年）・工学部第一部情報メディア学科設置
・工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更
・理工学研究科生命工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理科学専攻（博士課程）を数理・情報科学専攻（博士課程）、数理学専攻（修士課程）を数理科学専攻（修士課程）、システム工学専攻（修士課程）を情報システム工学専攻（修士課程）、機械工学専攻（修士課程）を知能機械工学専攻（修士課程）に名称変更
2003.4.（平成 15 年）・理工学研究科応用電子工学専攻（修士課程）を電子情報工学専攻（修士課程）に名称変更
2004.4.（平成 16 年）・情報環境学研究科（修士課程）開設＜情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）設置＞
・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程・博士課程）設置
・理工学研究科情報社会学専攻（修士課程）設置
・超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更
2005.7.（平成 17 年）・東京電機大学短期大学廃止
・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程・博士課程）廃止
2006.4.（平成 18 年）・先端科学技術研究科（博士課程（後期））開設＜数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置＞（※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止）
・理工学研究科建設工学専攻（修士課程）を建設環境工学専攻（修士課程）に名称変更
・情報環境学部情報環境学科設置（※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学生募集停止）
2007.4.（平成 19 年）・学園創立 100 周年（9 月 11 日）
・未来科学部開設＜建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置＞
・工学部開設＜電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置＞（※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質

化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止）

・理工学部理工学科設置＜４学系体制：サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系＞（※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止）

2008.4.（平成 20 年）・工学部第二部電気電子工学科設置（※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止）

2009.4.（平成 21 年）・未来科学研究科（修士課程）開設＜建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置＞

・工学研究科電気電子工学専攻（修士課程）設置（※工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）、精密システム工学専攻（修士課程）、情報メディア学専攻（修士課程）、建築学専攻（修士課程）の学生募集停止）

・理工学研究科理学専攻（修士課程）、情報学専攻（修士課程）、デザイン工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、電子情報工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の学生募集停止）

・情報環境学研究科情報環境学専攻（修士課程）設置（※情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）の学生募集停止）

・理工学部理工学科学系再編＜５学系体制：理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編＞

2010.4.（平成 22 年）・工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）の廃止

・理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の廃止

2010.9.（平成 22 年）・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程）の廃止

2011.3.（平成 23 年）・建設技術研究所の廃止

2011.4.（平成 23 年）・工学研究科精密システム工学専攻（修士課程）、理工学研究科電子情報工学専攻（修士課程）、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻（修士課程）の廃止

・情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止

2012.4.（平成 24 年）・東京千住キャンパス（100 周年記念キャンパス）開設（先端科学技術研究科（東京神田キャンパス所属）、工学研究科（修士課程）、未来科学研究科（修士課程）、工学部、工学部第二部、未来科学部が、東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転）

・情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）の廃止
・理工学部情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の廃止

2012.10.（平成 24 年）・研究組織等の改編に伴い、研究推進社会連携センター設立。

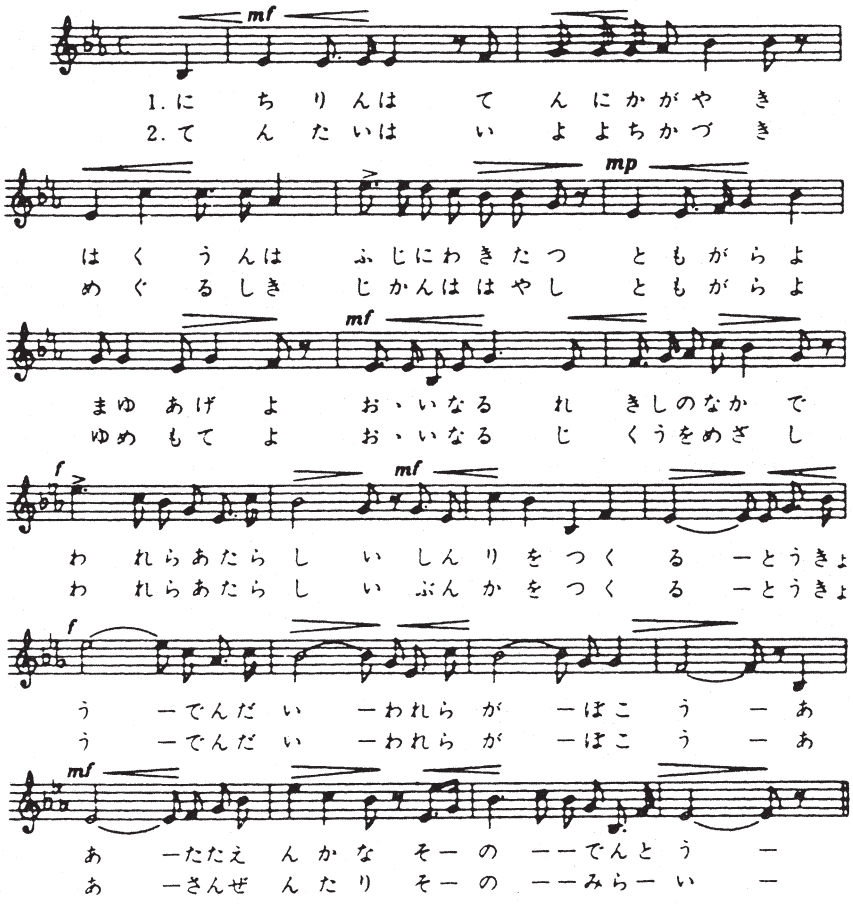
2013. 4.（平成 25 年）・理工学研究科電子・機械工学専攻（修士課程）、建築・都市環境学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の学生募集停止）

大学校歌・学生歌

東京電機大学　校歌

歯切れよく　雄大に

草野心平 作詞
平岡照章 作曲



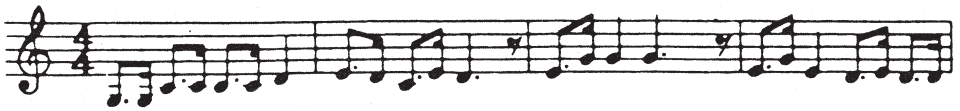
東京電機大学校歌

一、日輪は　天にかがやき
白雲は　富士に沸きたつ
朋がらよ　眉あげよ
大いなる　歴史のなかで
われら新しい　真理を創る
東京電大　われらが母校
あゝ讃えん哉
その伝統

二、天体は　いよよ近づき
めぐる四季　時間は早し
朋がらよ　夢もてよ
大いなる　時空をめざし
われら新しい　文化を創る
東京電大　われらが母校
あゝ燦然たり
その未来

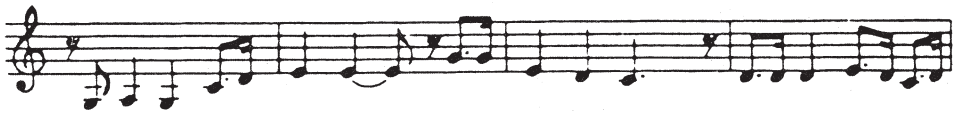
東京電機大学　学生歌

望月直文作詞
田辺尚雄作曲

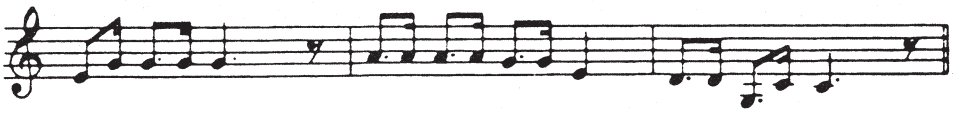


1. ミヨニッポンノ　アサボラケ　ジユウノ　テンチココニア
2. きけたそがれの　かねのこえ　へいわの　いのりここにあ
3. アアイクマンノ　ハラカラヨ　ワレラノ　ホコリココニア

リ　レイロウフージヲーアオギツツ
リ　あーいとーまことをーたたえつつ
リ　シンリヲーキーワメーワザヲネリ



キヨキ　ココロノー　ワカウドハ　ジリツキョーワノ
あつき　ちしほのー　わかうどは　つくやひびきも
モユル　キボウノー　ワカウドハ　イマキンテツノ



ハタタカク　ミンシュノセカイ　サキガケン
おーらかに　くおんのりそう　ぐげんせん
イシカタク　ブンカノハギョウ　ナシトゲン

東京電機大学学生歌

一、見よ日本のあさぼらけ
　自由の天地ここにあり
　玲瓏富士を仰ぎつつ
　高潔き心の若人は
　自律協和の旆高く
　民主の世界先駆けん

二、聞け黄昏の鐘の音
　平和の祈願ここにあり
　信愛と誠実をたたえつつ
　熱き血潮の若人は
　撞くや響もおほらかに
　久遠の理想具現せん

三、ああ幾万の同胞よ
　我等の誇りここにあり
　真理を究め技術を練り
　燃ゆる希望の若人は
　今金鉄の意志かたく
　文化の覇業なしとげん

キャンパス案内

（東京千住キャンパス、千葉ニュータウンキャンパス）

東京千住キャンパス案内について

東京千住キャンパスは、４つの建物と別館（東京千住アネックス）で構成されています。
ここでは主に、４つの建物の「教室部分」についてのみ、ご紹介いたします。

部屋番号の表現について

教室には「部屋名称」と「部屋番号」が与えられています。
建物ごとの特質に合わせて二つの値が使い分けられています。

名称	説明、構造について
部屋名称	例：1204 セミナー室　/　2504 教室 部屋毎の名称です。 「●●研究室」、「教員室●●」、「カフェラウンジ」、「体育館等」、「1204 セミナー室」等の名称がこれに相当します。 DENDAI-UNIPA 上で表示されるのはこちらの名称です。
部屋番号	例：10204　/　20504 部屋に通しで振られている 5 桁の番号です。 東京千住キャンパスでは 2 号館を除き、部屋の入口やフロア配置図などに表示しています。1 桁目＝建物番号、2 桁目・3 桁目＝階数、4 桁目・5 桁目＝同一フロア内の連番（その後に A、B 等の枝番がある場合もあります）。 「10107」は 1 号館 1 階の 7 番目の部屋、 「11017B」は 1 号館 10 階 17 番目の部屋のうち、B の部屋という意味です。

注意：部屋番号ではなく、部屋名称が表示されている場合があります。
「2301 教室」などの「教室」は 4 桁で表記されています。
この場合、左から 1 桁目＝建物番号、2 桁目＝階、3 桁目・4 桁目＝同一フロア内の連番

実験室、実習室、ゼミ室、研究室、教員室や千葉ニュータウンキャンパスの教室等について

p.149 からのフロア配置図について、未来科学研究科に関係のある実験室、実習室、ゼミ室、研究室、教員室等には部屋名称等の記載があります。
各号館･各フロアの壁面にあるフロア別案内図や事務部のホームページでもご確認ください。

【工学部・未来科学部ホームページ】→【学生要覧】→【建物別フロア案内】の項にある各フロアのページをご確認ください。

http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/index.html

東京千住キャンパス配置図

【2 号館】（教育棟）

10F
｜ 教室・学生ラウンジ
9F
8F
｜ 教室
6F
5F 教室
ルーフガーデン 2
4F ＰＣ教室
3F 教室
講師室
工学部・
未来科学部事務部
学生支援センター
国際センター
健康・学生相談室
学生ラウンジ
2F 総合メディアセンター
｜ 図書館
1F 受付
B1F 駐輪場

【3 号館】
（厚生棟・学生会館・体育館）

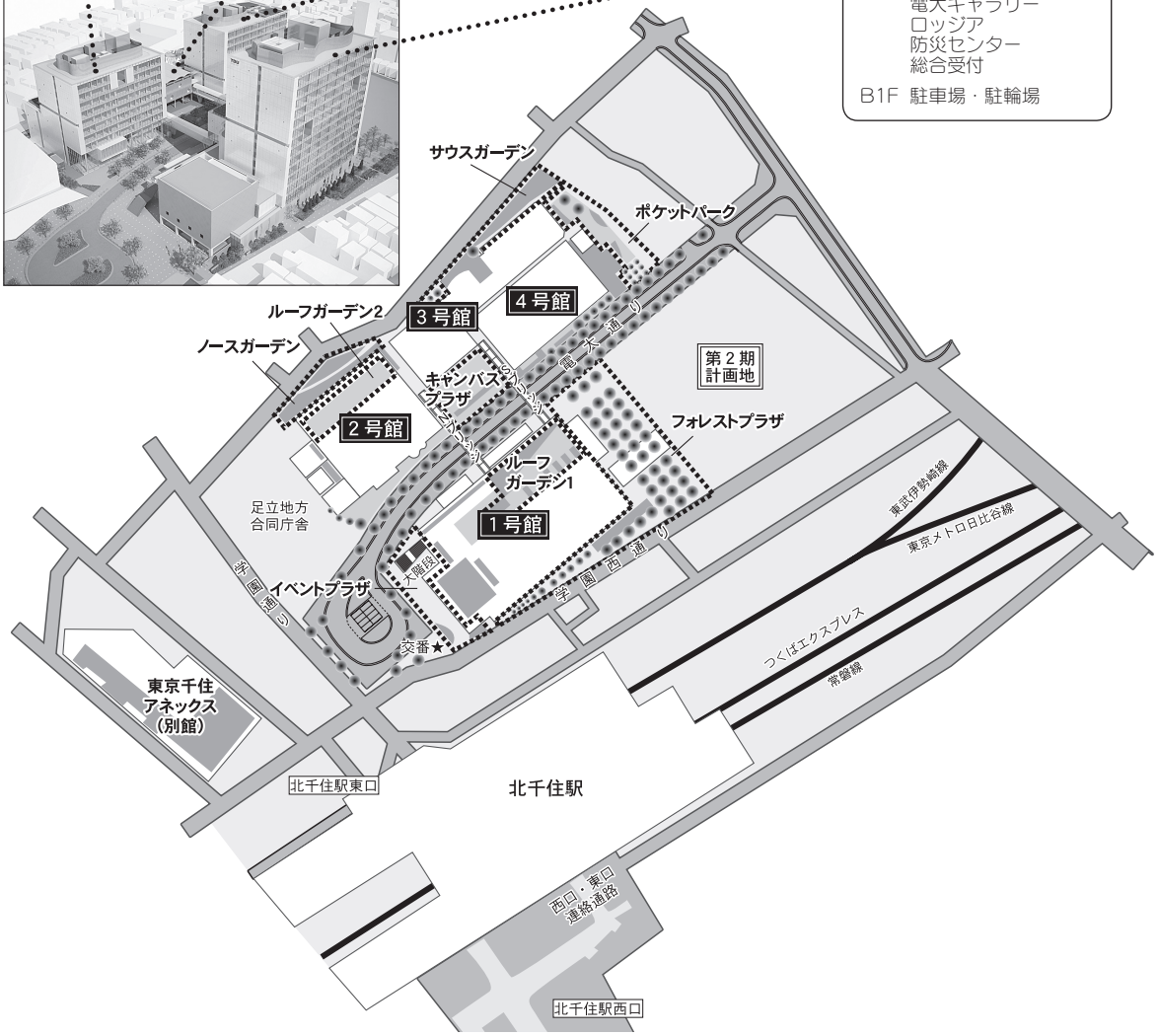
4F 学生部室
3F 学生部室
売店
学生ラウンジ
2F 体育館
トレーニング室
食堂
M2F 学生部室
食堂
B1F 武道場
学生部室
カフェ

【4 号館】（研究棟）

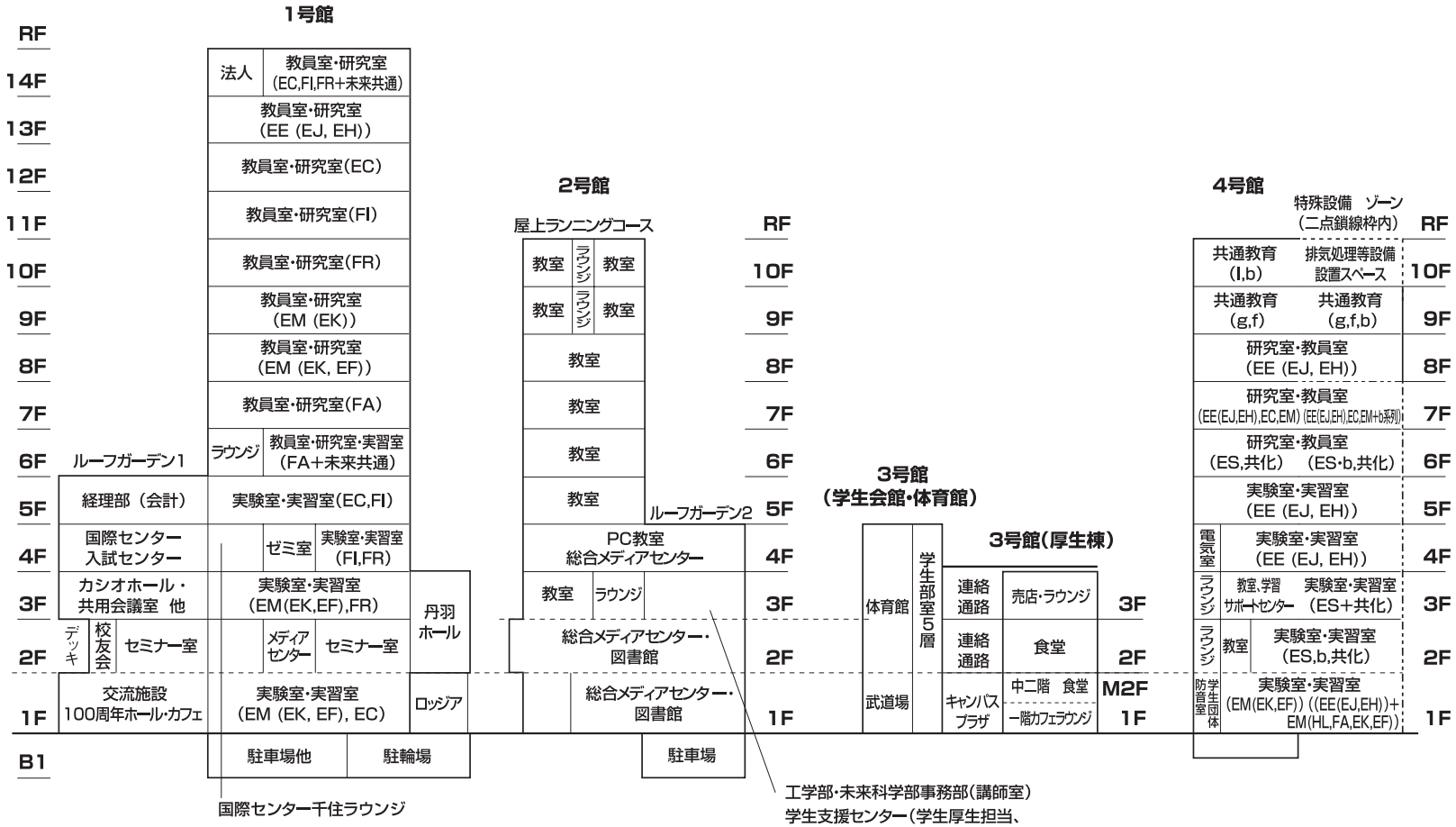
10F 教員室・研究室
9F
｜ 教員室
8F
｜ 教員室・研究室
6F
｜
5F
｜ 実験室・実習室
4F
3F 学習サポートセンター
教室
実験室・実習室
学生ラウンジ
2F 教室
実験室・実習室
学生ラウンジ
1F 実験室・実習室
受付

【1 号館】（複合棟）

14F 教員室・研究室
セミナー室
13F
｜ 教員室・研究室
7F
6F 実験室・実習室
学生ラウンジ
ルーフガーデン
5F 実験室・実習室
法人本部
4F 実験室・実習室
セミナー室
入試センター
大学本部
3F 実験室・実習室
ワークショップ教室
カシオホール
2F 丹羽ホール
セミナー室
校友会
1F 実験室・実習室
カフェ
100 周年ホール
電大ギャラリー
ロッジア
防災センター
総合受付
B1F 駐車場・駐輪場



〔東京千住キャンパス配置図　主要用途構成断面図（フロア配置図）〕

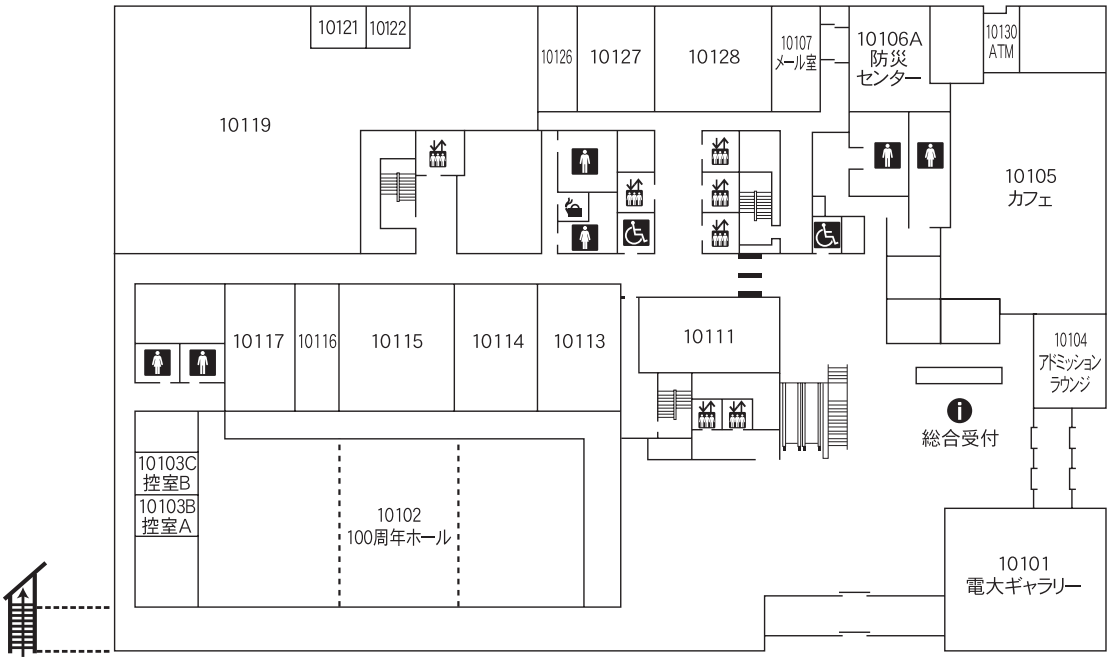


【工学部】
EE科（EJコース/EHコース）
ES科
EM科（EKコース/EFコース）
EC科

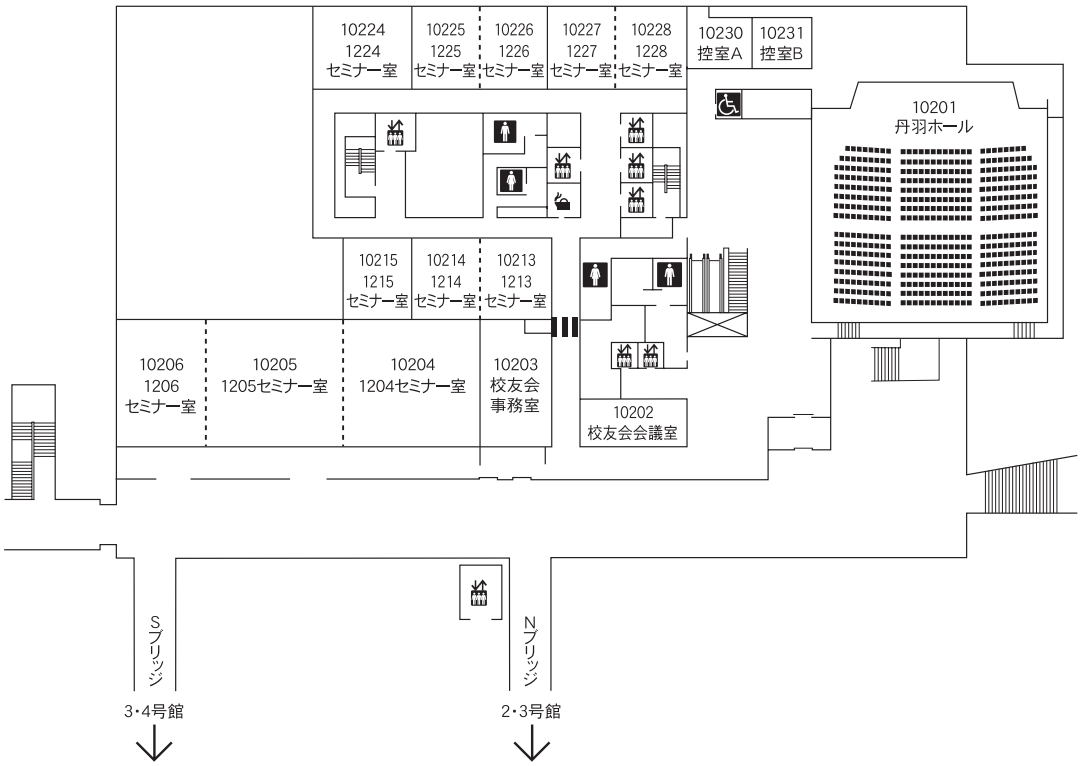
【未来科学部】
FA科
FI科
FR科

【系列】
g系列……人間科学系列
I系列……英語系列
f系列……数学系列
b系列……物理系列

〔1 号館〕


10121
10122
10126
10127
10128
10107
メール室
10106A
防災
センター
10130
ATM
10119
10105
カフェ
10117
10116
10115
10114
10113
10111
10104
アドミッション
ラウンジ
総合受付
10103C
控室B
10103B
控室A
10102
100周年ホール
10101
電大ギャラリー

1 階

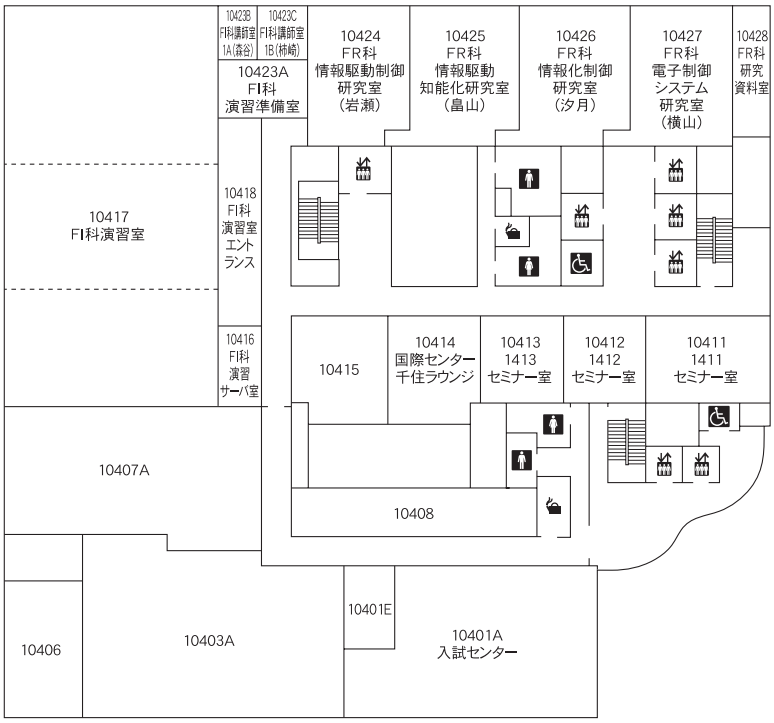

10224
1224
セミナー室
10225
1225
セミナー室
10226
1226
セミナー室
10227
1227
セミナー室
10228
1228
セミナー室
10230
控室A
10231
控室B
10201
丹羽ホール
10215
1215
セミナー室
10214
1214
セミナー室
10213
1213
セミナー室
10206
1206
セミナー室
10205
1205セミナー室
10204
1204セミナー室
10203
校友会
事務室
10202
校友会会議室
Sブリッジ
Nブリッジ
3・4号館
2・3号館

2 階

〔1 号館〕

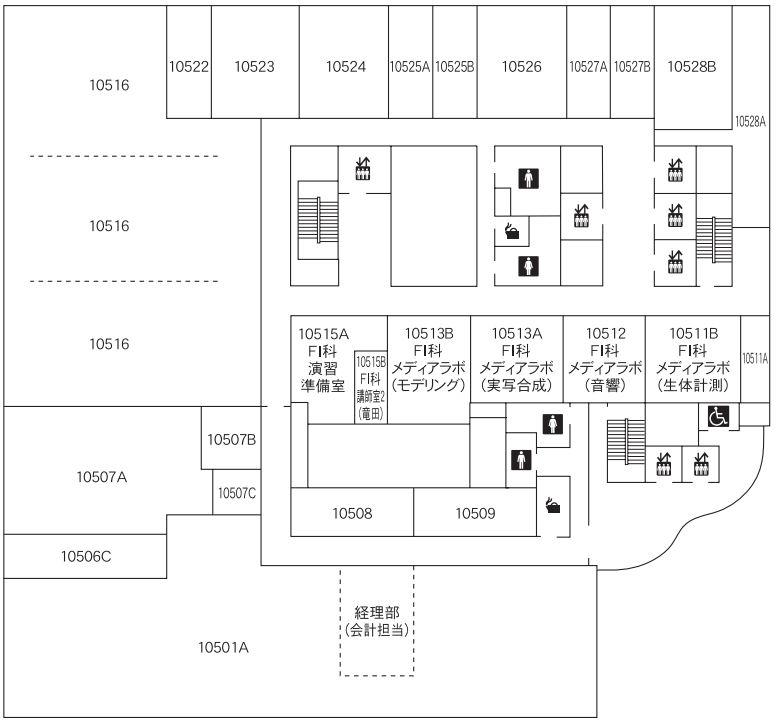
10321A
FR科
ワークショップ
準備室A
10321B
FR科
実験
機器室
10322
FR科
ワーク
ショップ
準備室B
10323
10324
10325
10326
10317
FR科
ワークショップルーム
10314
ワークショップ教室
10312
10311B
10311A
10307
法人・大学共用
会議室
10309
理工学部・
情報環境
学部関係者
控室
10306B
控室
10305C
応接室
10304B
事務室
10306A
工学部長室・
工学部
第二部長室
10305B
工学研究科
委員長室
10305A
未来科学
部長室
10304A
未来科学研究科
委員長室
10301
カシオホール

3 階

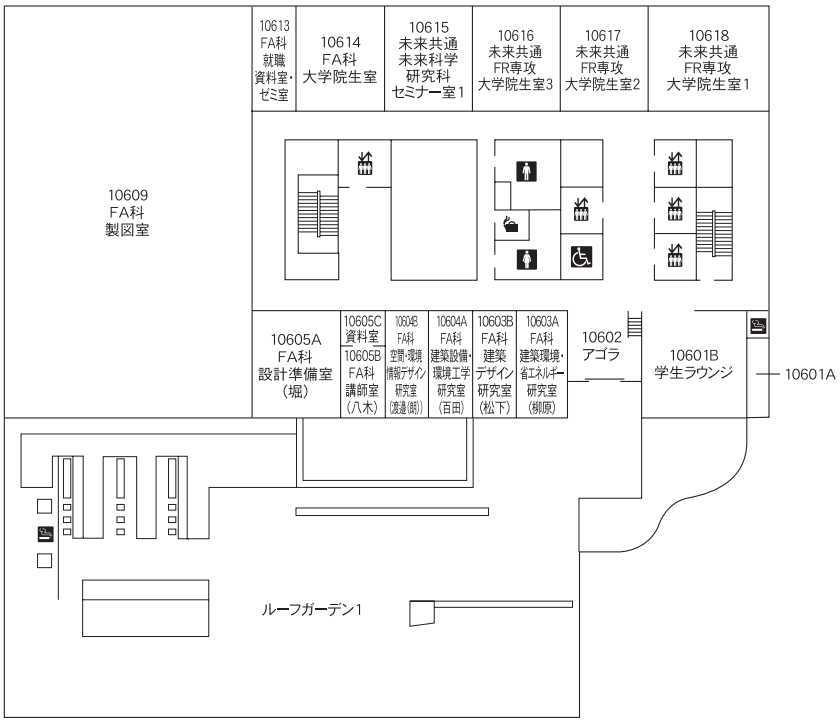

10423B
FI科講師室
1A(斎谷)
10423C
FI科講師室
1B(柿崎)
10423A
FI科
演習準備室
10424
FR科
情報駆動制御
研究室
(岩瀬)
10425
FR科
情報駆動
知能化研究室
(畠山)
10426
FR科
情報化制御
研究室
(汐月)
10427
FR科
電子制御
システム
研究室
(横山)
10428
FR科
研究
資料室
10417
FI科演習室
10418
FI科
演習室
エント
ランス
10416
FI科
演習
サーバ室
10415
10414
国際センター
千住ラウンジ
10413
1413
セミナー室
10412
1412
セミナー室
10411
1411
セミナー室
10407A
10408
10406
10403A
10401E
10401A
入試センター

4 階

〔1 号館〕

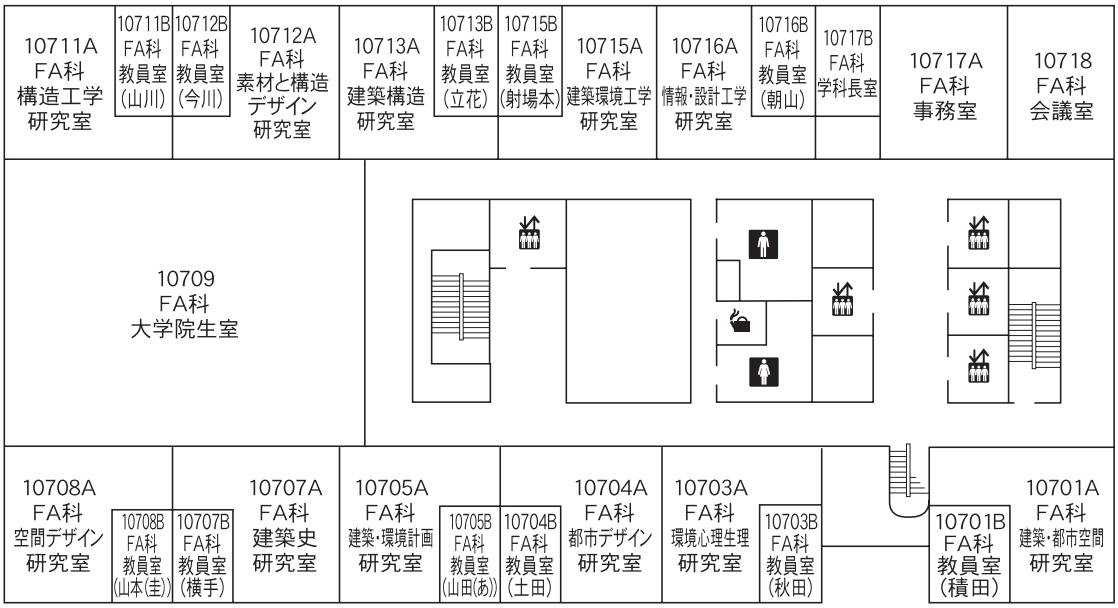

10516
10522
10523
10524
10525A
10525B
10526
10527A
10527B
10528B
10528A
10516
10516
10515A
FI科
演習
準備室
10515B
FI科
講師室2
(竜田)
10513B
FI科
メディアラボ
(モデリング)
10513A
FI科
メディアラボ
(実写合成)
10512
FI科
メディアラボ
(音響)
10511B
FI科
メディアラボ
(生体計測)
10511A
10507B
10507A
10507C
10508
10509
10506C
経理部
(会計担当)
10501A

5 階

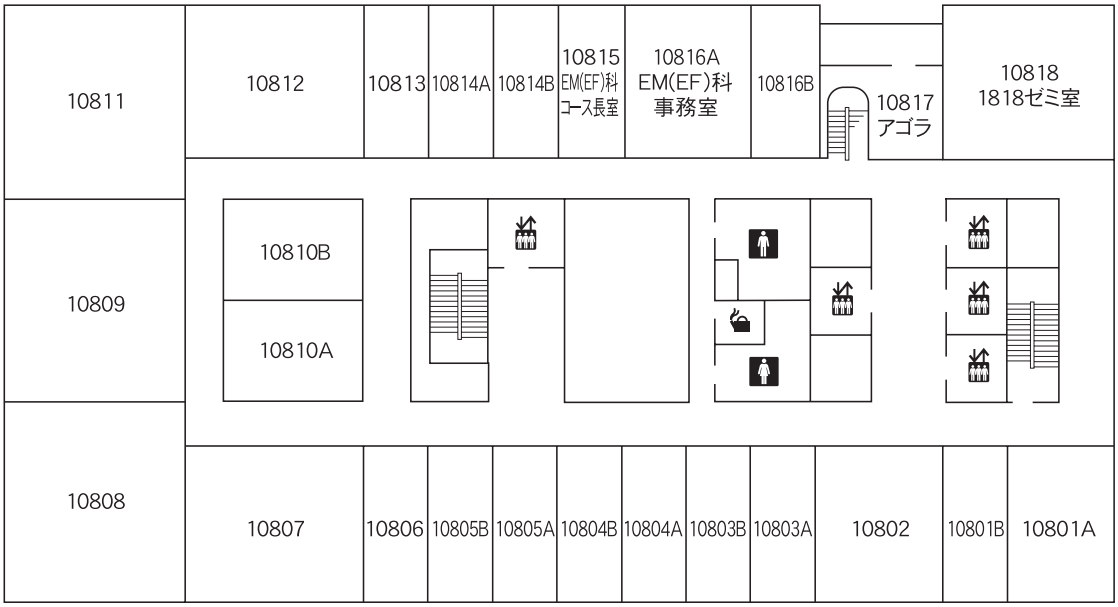

10613
FA科
就職
資料室・
ゼミ室
10614
FA科
大学院生室
10615
未来共通
未来科学
研究科
セミナー室1
10616
未来共通
FR専攻
大学院生室3
10617
未来共通
FR専攻
大学院生室2
10618
未来共通
FR専攻
大学院生室1
10609
FA科
製図室
10605A
FA科
設計準備室
(堀)
10605C
資料室
10605B
FA科
講師室
(八木)
10604B
FA科
空間・環境
情報デザイン
研究室
(波邊(関))
10604A
FA科
建築設備・
環境工学
研究室
(百田)
10603B
FA科
建築
デザイン
研究室
(松下)
10603A
FA科
建築環境・
省エネルギー
研究室
(柳原)
10602
アゴラ
10601B
学生ラウンジ
10601A
ルーフガーデン1

6 階

〔1 号館〕

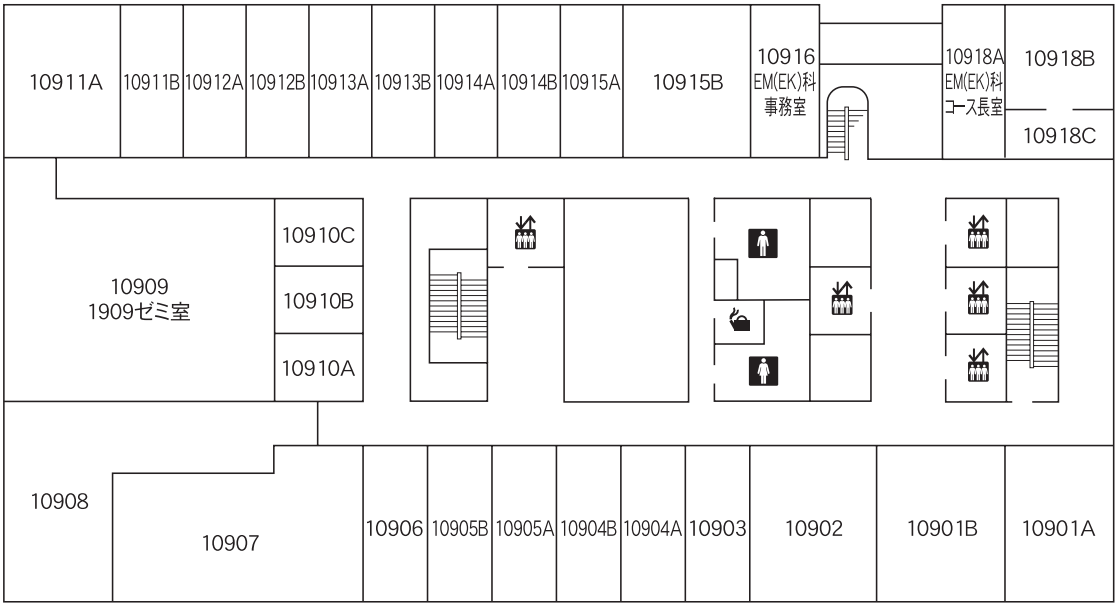

10711A FA科 構造工学 研究室
10711B FA科 教員室 (山川)
10712B FA科 教員室 (今川)
10712A FA科 素材と構造 デザイン 研究室
10713A FA科 建築構造 研究室
10713B FA科 教員室 (立花)
10715B FA科 教員室 (射場本)
10715A FA科 建築環境工学 研究室
10716A FA科 情報・設計工学 研究室
10716B FA科 教員室 (朝山)
10717B FA科 学科長室
10717A FA科 事務室
10718 FA科 会議室
10709 FA科 大学院生室
10708A FA科 空間デザイン 研究室
10708B FA科 教員室 (山本(圭))
10707B FA科 教員室 (横手)
10707A FA科 建築史 研究室
10705A FA科 建築・環境計画 研究室
10705B FA科 教員室 (山田(あ))
10704B FA科 教員室 (土田)
10704A FA科 都市デザイン 研究室
10703A FA科 環境心理生理 研究室
10703B FA科 教員室 (秋田)
10701B FA科 教員室 (積田)
10701A FA科 建築・都市空間 研究室

7 階

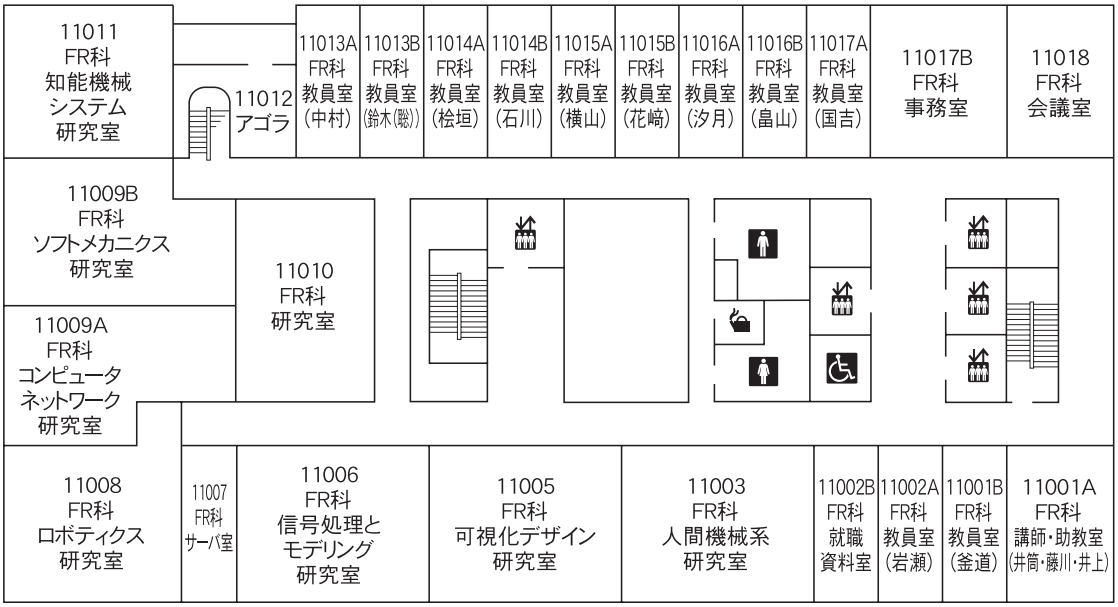

10811
10812
10813
10814A
10814B
10815 EM(EF)科 コース長室
10816A EM(EF)科 事務室
10816B
10817 アゴラ
10818 1818ゼミ室
10809
10810B
10810A
10808
10807
10806
10805B
10805A
10804B
10804A
10803B
10803A
10802
10801B
10801A

8 階

〔1 号館〕

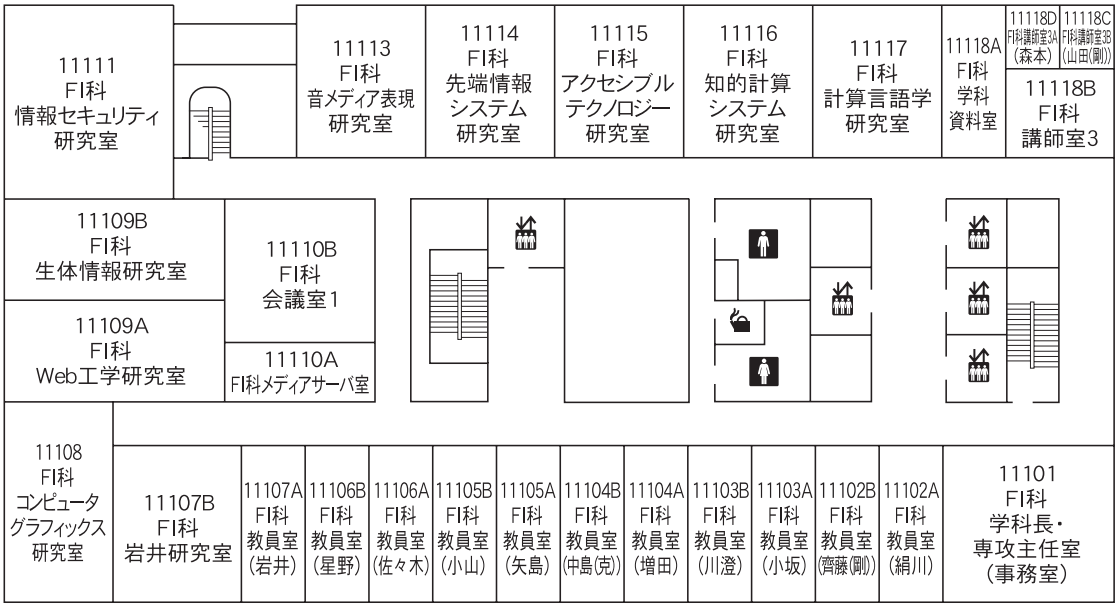

10911A
10911B
10912A
10912B
10913A
10913B
10914A
10914B
10915A
10915B
10916
EM(EK)科
事務室
10918A
EM(EK)科
コース長室
10918B
10918C
10909
1909ゼミ室
10910C
10910B
10910A
10908
10907
10906
10905B
10905A
10904B
10904A
10903
10902
10901B
10901A

9 階

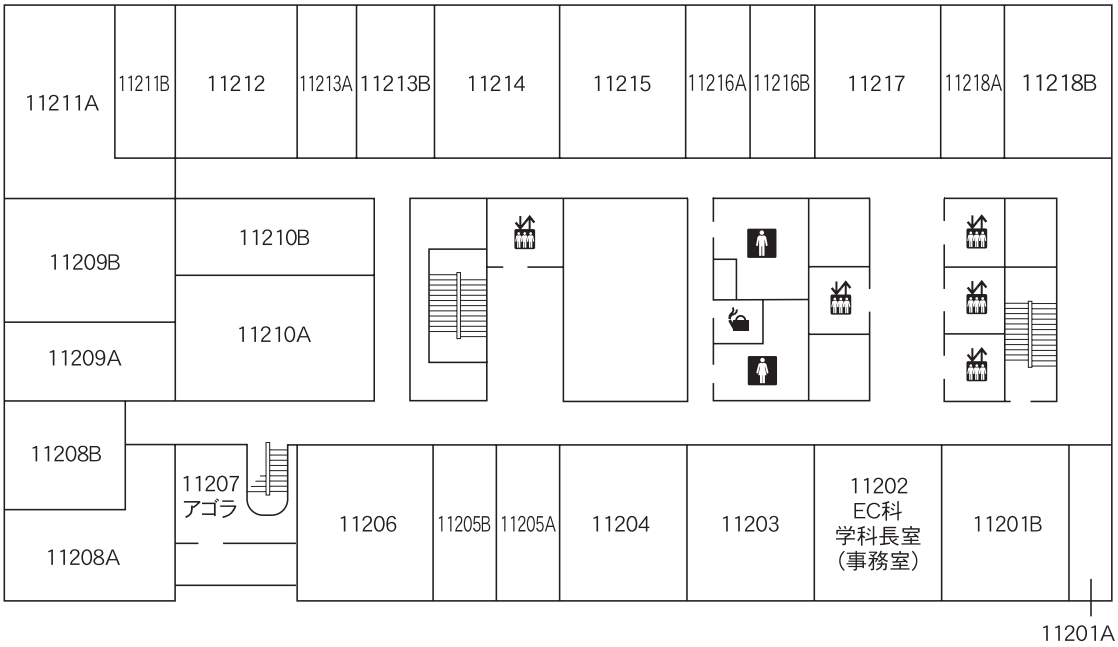

11011
FR科
知能機械
システム
研究室
11012
アゴラ
11013A
FR科
教員室
(中村)
11013B
FR科
教員室
(鈴木(聡))
11014A
FR科
教員室
(桧垣)
11014B
FR科
教員室
(石川)
11015A
FR科
教員室
(横山)
11015B
FR科
教員室
(花崎)
11016A
FR科
教員室
(汐月)
11016B
FR科
教員室
(畠山)
11017A
FR科
教員室
(国吉)
11017B
FR科
事務室
11018
FR科
会議室
11009B
FR科
ソフトメカニクス
研究室
11009A
FR科
コンピュータ
ネットワーク
研究室
11010
FR科
研究室
11008
FR科
ロボティクス
研究室
11007
FR科
サーバ室
11006
FR科
信号処理と
モデリング
研究室
11005
FR科
可視化デザイン
研究室
11003
FR科
人間機械系
研究室
11002B
FR科
就職
資料室
11002A
FR科
教員室
(岩瀬)
11001B
FR科
教員室
(釜道)
11001A
FR科
講師・助教室
(井筒・藤川・井上)

10 階

〔1 号館〕

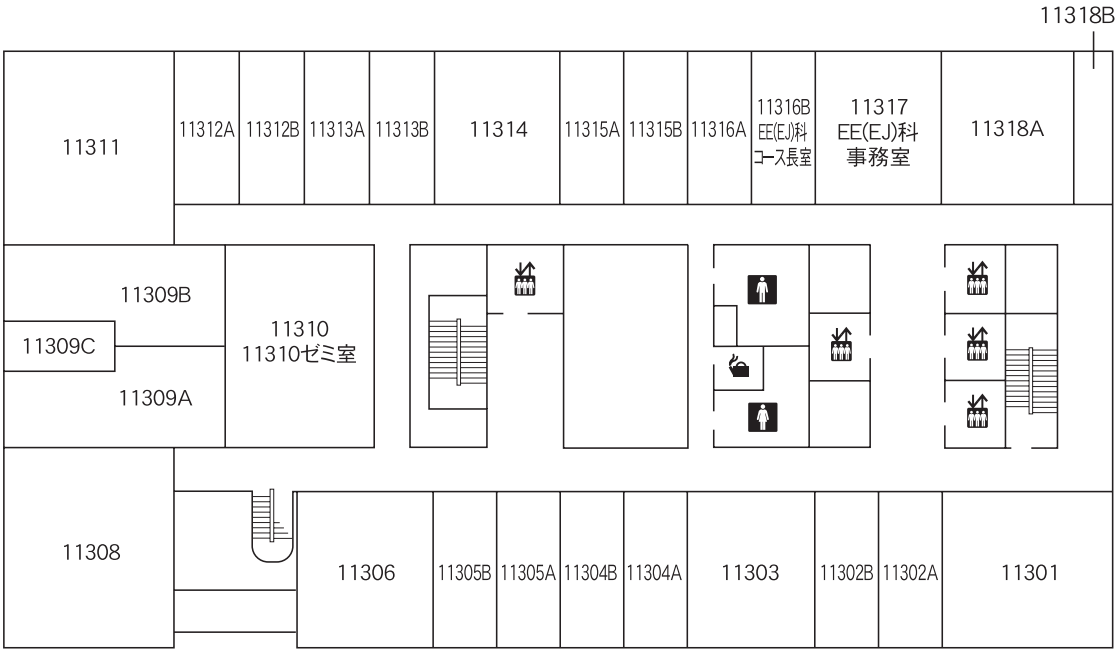

11111 FI科 情報セキュリティ研究室
11113 FI科 音メディア表現研究室
11114 FI科 先端情報システム研究室
11115 FI科 アクセシブルテクノロジー研究室
11116 FI科 知的計算システム研究室
11117 FI科 計算言語学研究室
11118A FI科 学科資料室
11118D FI科講師室3A (森本)
11118C FI科講師室3B (山田(剛))
11118B FI科 講師室3
11109B FI科 生体情報研究室
11110B FI科 会議室1
11109A FI科 Web工学研究室
11110A FI科メディアサーバ室
11108 FI科 コンピュータグラフィックス研究室
11107B FI科 岩井研究室
11107A FI科 教員室 (岩井)
11106B FI科 教員室 (星野)
11106A FI科 教員室 (佐々木)
11105B FI科 教員室 (小山)
11105A FI科 教員室 (矢島)
11104B FI科 教員室 (中島(克))
11104A FI科 教員室 (増田)
11103B FI科 教員室 (川澄)
11103A FI科 教員室 (小坂)
11102B FI科 教員室 (齊藤(剛))
11102A FI科 教員室 (絹川)
11101 FI科 学科長・専攻主任室 (事務室)

11 階

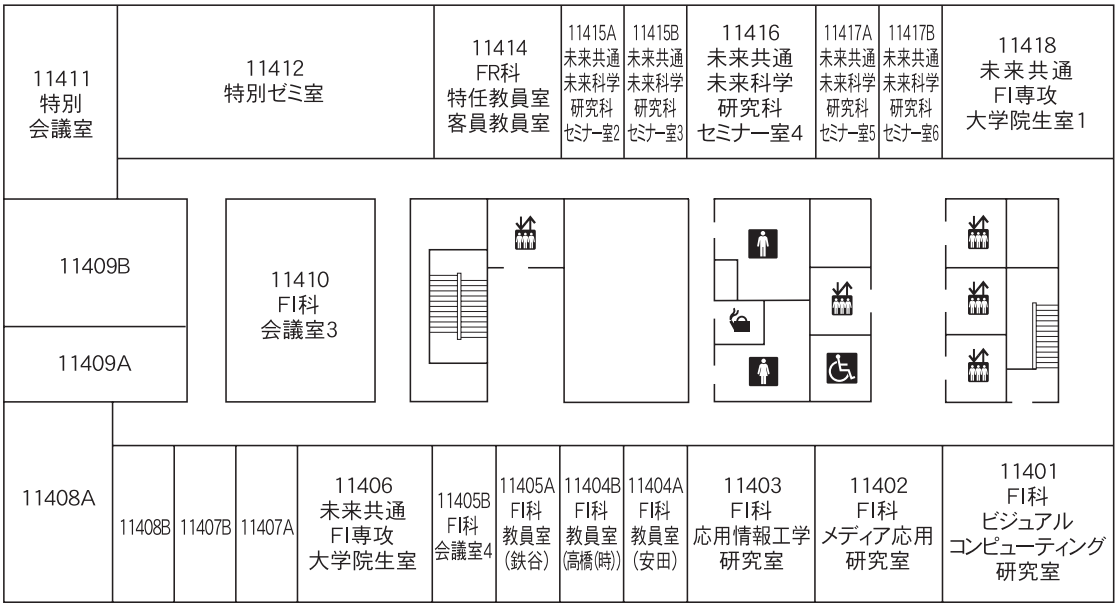

11211A
11211B
11212
11213A
11213B
11214
11215
11216A
11216B
11217
11218A
11218B
11209B
11210B
11210A
11209A
11208B
11207 アゴラ
11206
11205B
11205A
11204
11203
11202 EC科 学科長室 (事務室)
11201B
11208A
11201A

12 階

〔1 号館〕

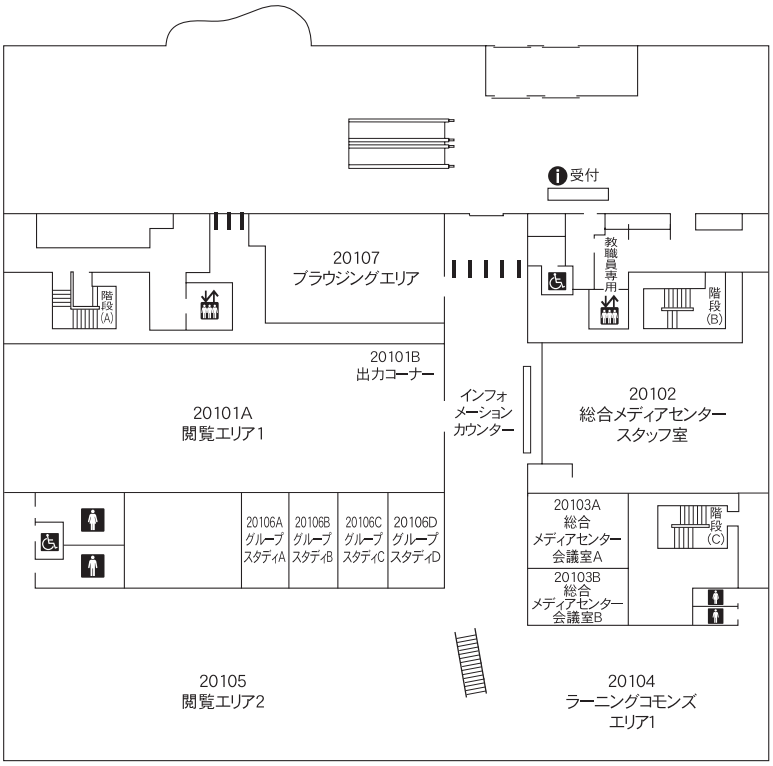

11318B
11311
11312A
11312B
11313A
11313B
11314
11315A
11315B
11316A
11316B
EE(EJ)科
コース長室
11317
EE(EJ)科
事務室
11318A
11309B
11309C
11309A
11310
11310ゼミ室
11308
11306
11305B
11305A
11304B
11304A
11303
11302B
11302A
11301

13 階

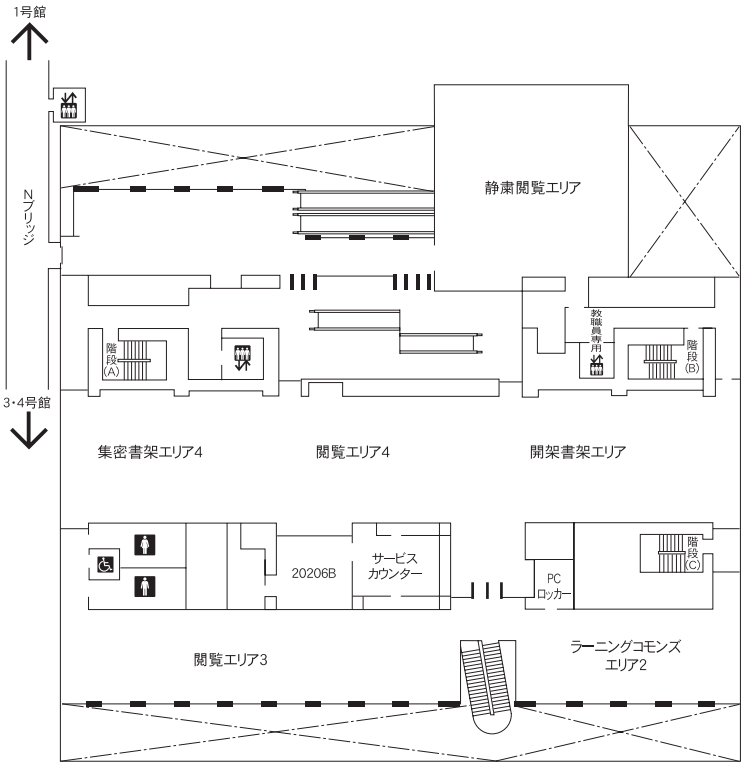

11411
特別
会議室
11412
特別ゼミ室
11414
FR科
特任教員室
客員教員室
11415A
未来共通
未来科学
研究科
セミナー室2
11415B
未来共通
未来科学
研究科
セミナー室3
11416
未来共通
未来科学
研究科
セミナー室4
11417A
未来共通
未来科学
研究科
セミナー室5
11417B
未来共通
未来科学
研究科
セミナー室6
11418
未来共通
FI専攻
大学院生室1
11409B
11409A
11410
FI科
会議室3
11408A
11408B
11407B
11407A
11406
未来共通
FI専攻
大学院生室
11405B
FI科
会議室4
11405A
FI科
教員室
(鉄谷)
11404B
FI科
教員室
(高橋(時))
11404A
FI科
教員室
(安田)
11403
FI科
応用情報工学
研究室
11402
FI科
メディア応用
研究室
11401
FI科
ビジュアル
コンピューティング
研究室

14 階

〔2 号館〕

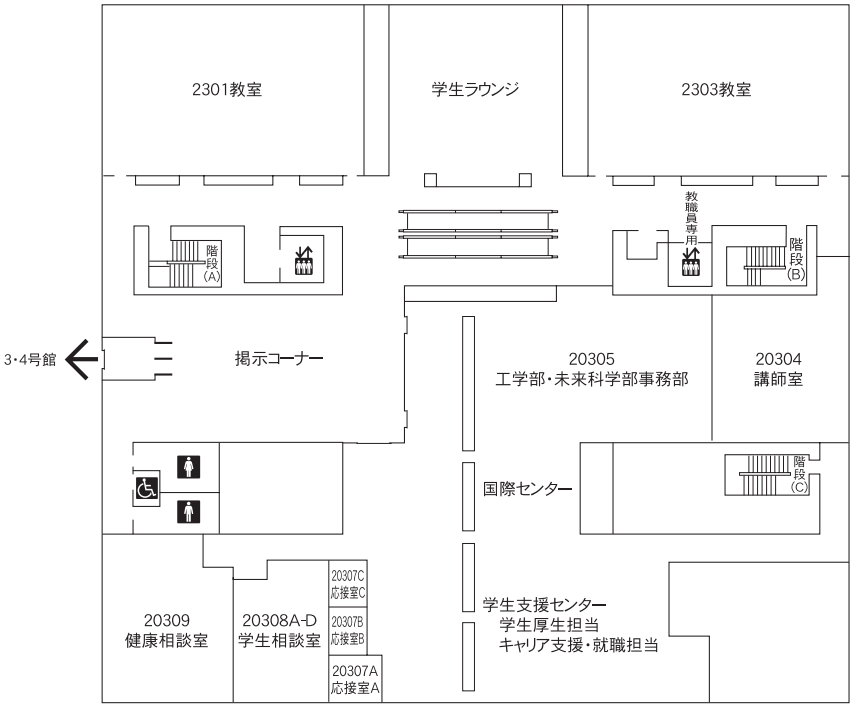

受付
20107
ブラウジングエリア
教職員専用
階段(A)
階段(B)
20101B
出力コーナー
20101A
閲覧エリア1
インフォメーションカウンター
20102
総合メディアセンター
スタッフ室
20106A グループスタディA
20106B グループスタディB
20106C グループスタディC
20106D グループスタディD
20103A 総合メディアセンター会議室A
20103B 総合メディアセンター会議室B
階段(C)
20105
閲覧エリア2
20104
ラーニングコモンズエリア1

1 階

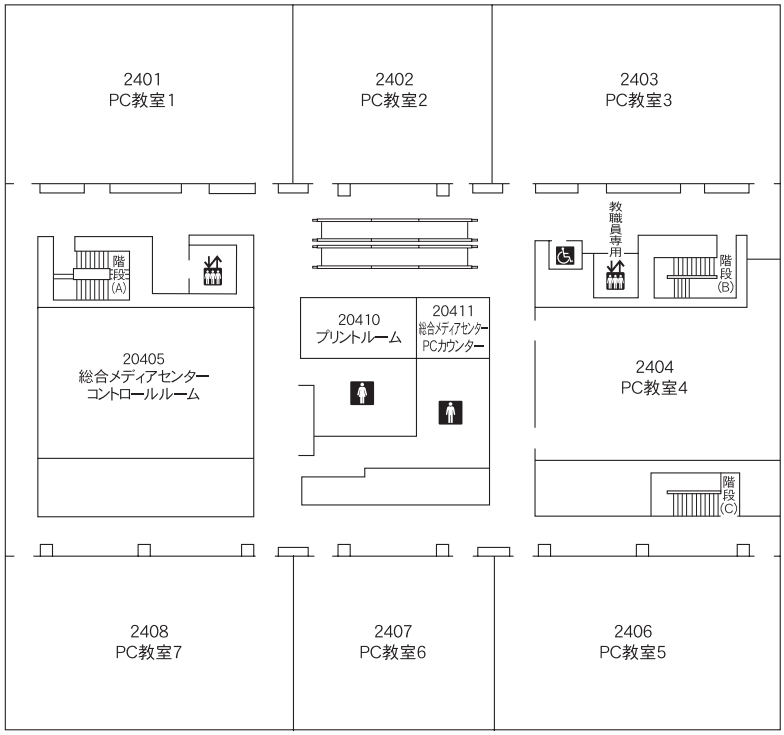

1号館
Nブリッジ
3・4号館
静粛閲覧エリア
教職員専用
階段(A)
階段(B)
集密書架エリア4
閲覧エリア4
開架書架エリア
20206B
サービスカウンター
PCロッカー
階段(C)
閲覧エリア3
ラーニングコモンズエリア2

2 階

〔2 号館〕

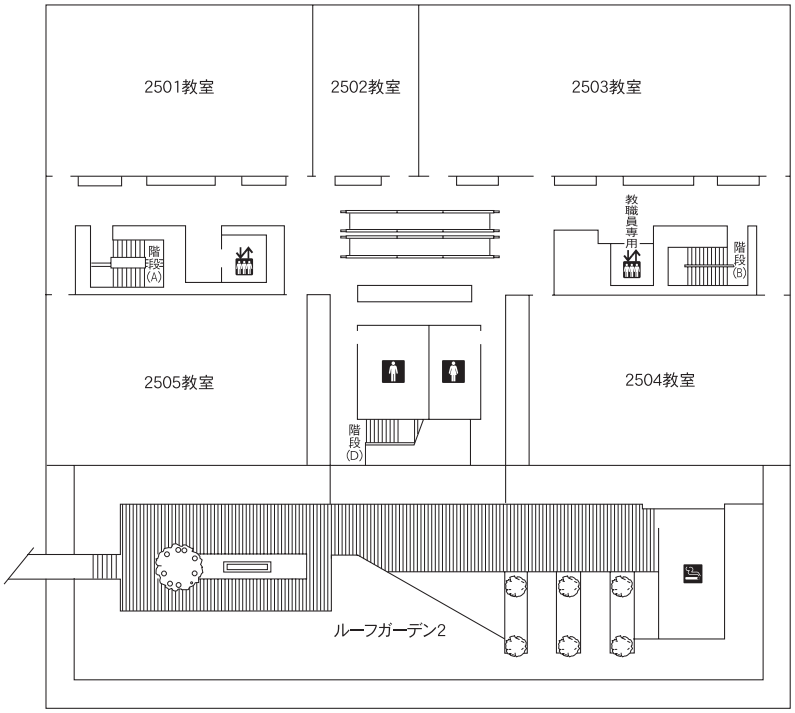

2301教室
学生ラウンジ
2303教室
教職員専用
階段(A)
階段(B)
3・4号館
掲示コーナー
20305
工学部・未来科学部事務部
20304
講師室
国際センター
階段(C)
20309
健康相談室
20308A-D
学生相談室
20307C
応接室C
20307B
応接室B
20307A
応接室A
学生支援センター
学生厚生担当
キャリア支援・就職担当

3 階

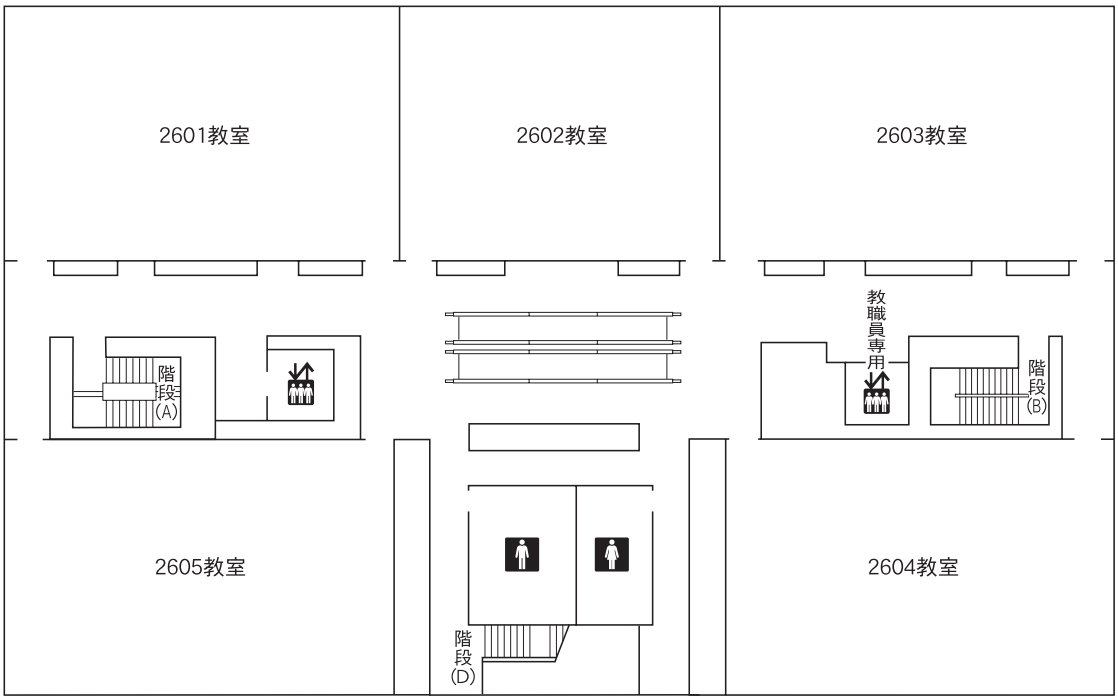

2401
PC教室1
2402
PC教室2
2403
PC教室3
教職員専用
階段(A)
階段(B)
20405
総合メディアセンター
コントロールルーム
20410
プリントルーム
20411
総合メディアセンター
PCカウンター
2404
PC教室4
階段(C)
2408
PC教室7
2407
PC教室6
2406
PC教室5

4 階

〔2 号館〕

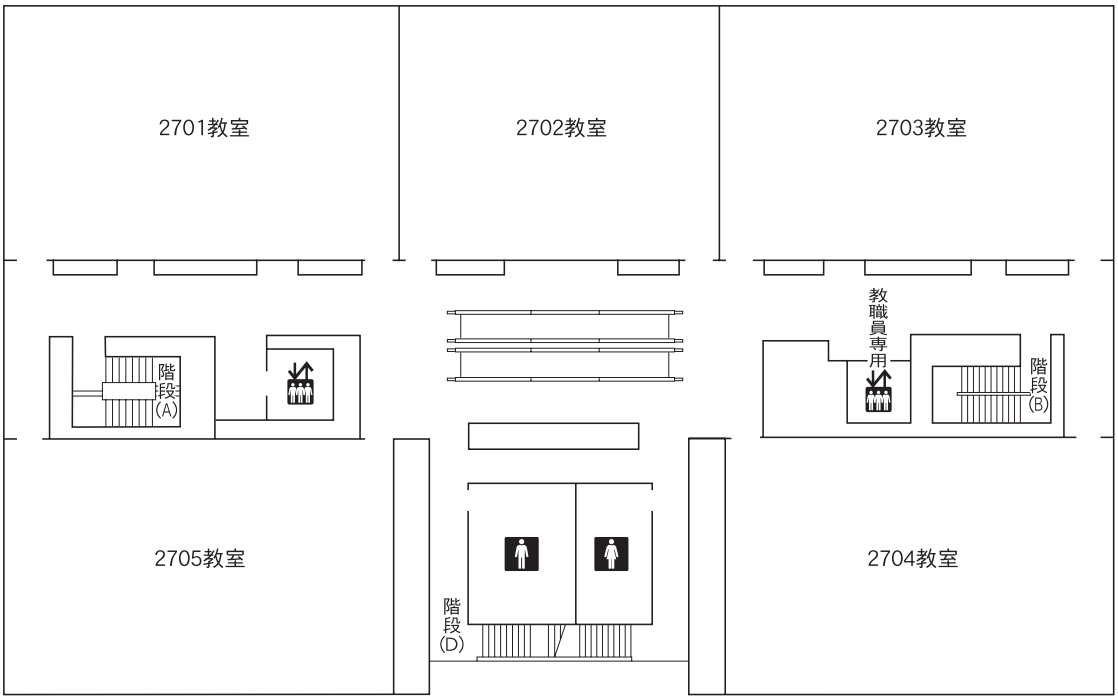

2501教室
2502教室
2503教室
教職員専用
階段(A)
階段(B)
2505教室
2504教室
階段(D)
ルーフガーデン2

5 階

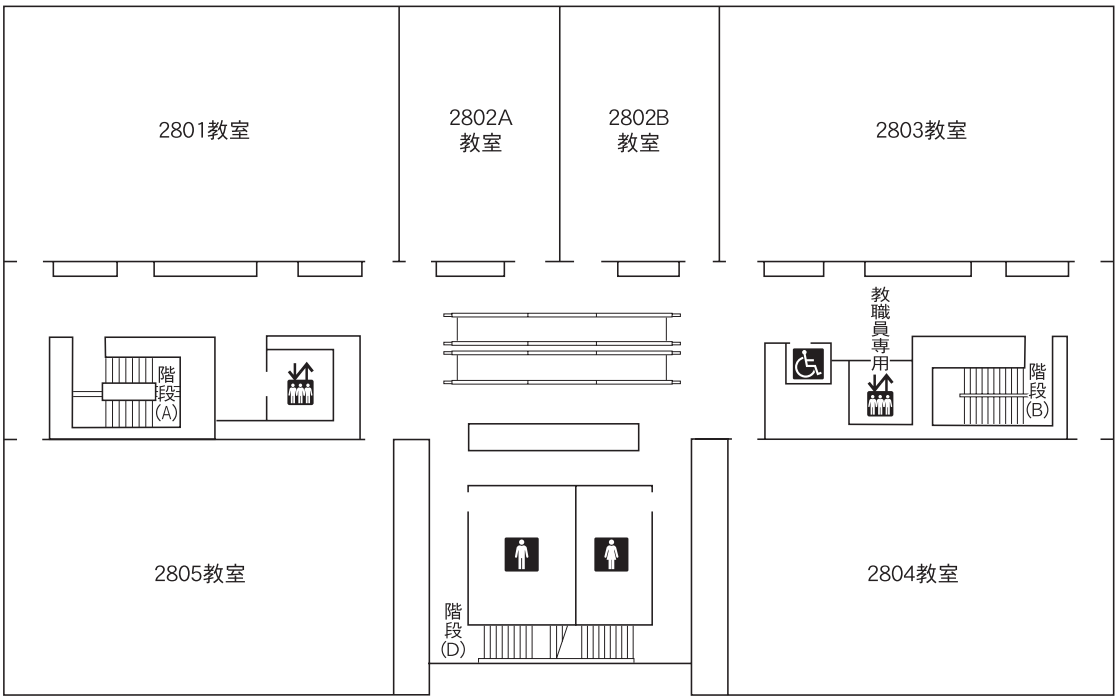

2601教室
2602教室
2603教室
教職員専用
階段(A)
階段(B)
2605教室
2604教室
階段(D)

6 階

〔2 号館〕

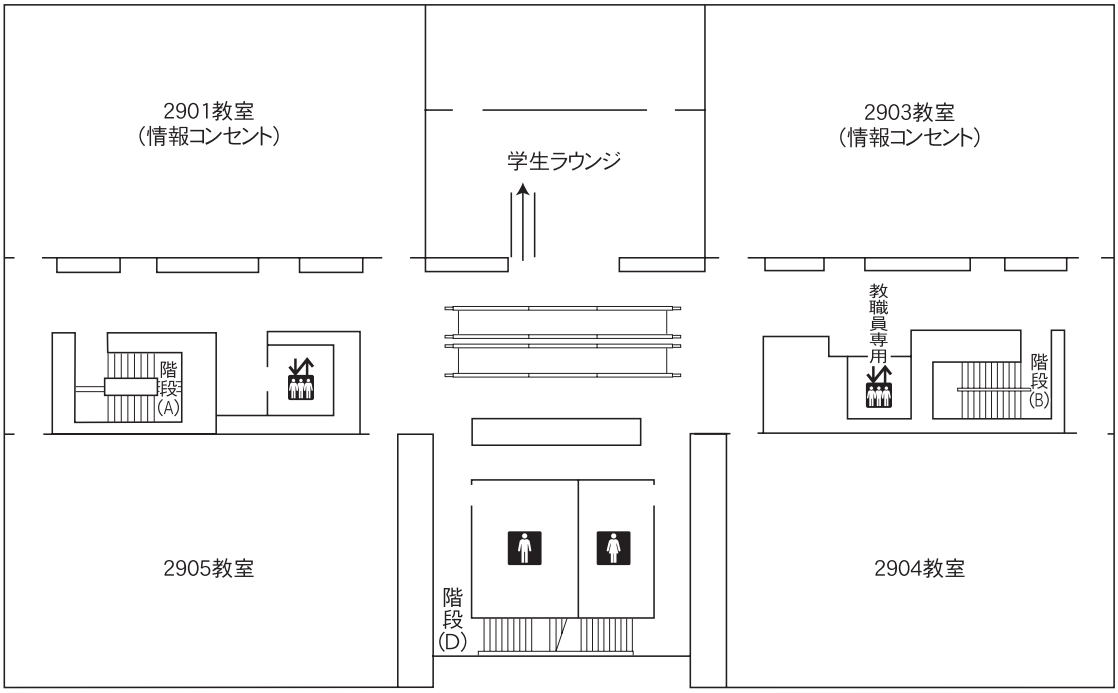

2701教室
2702教室
2703教室
教職員専用
階段(A)
階段(B)
2705教室
2704教室
階段(D)

7 階

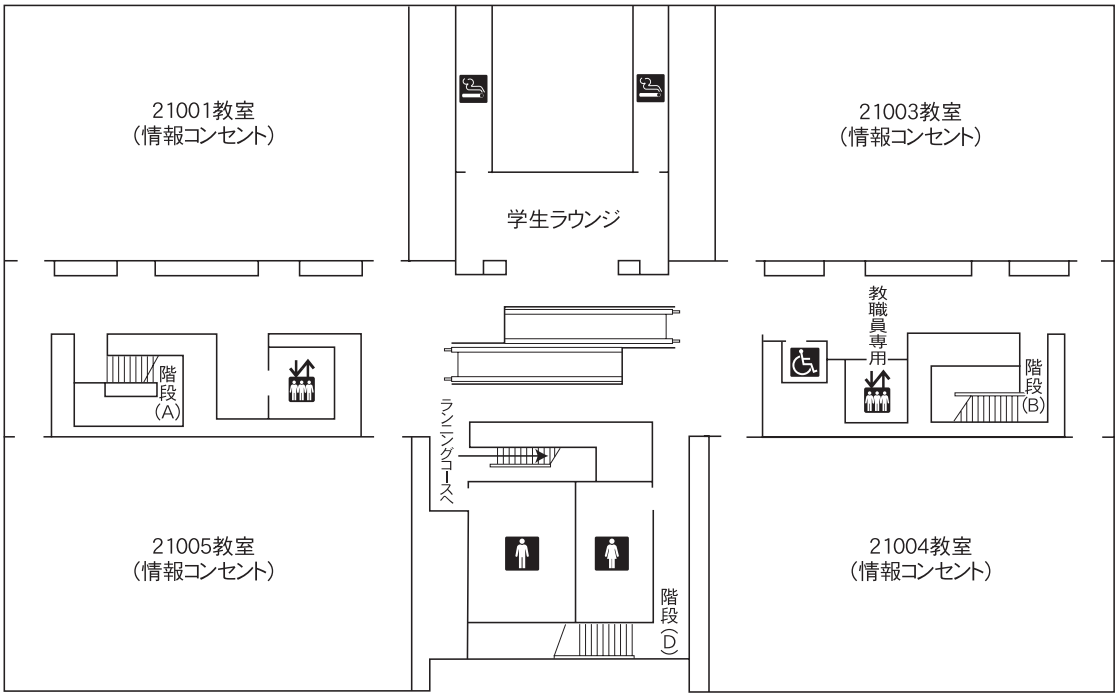

2801教室
2802A教室
2802B教室
2803教室
教職員専用
階段(A)
階段(B)
2805教室
2804教室
階段(D)

8 階

〔2 号館〕

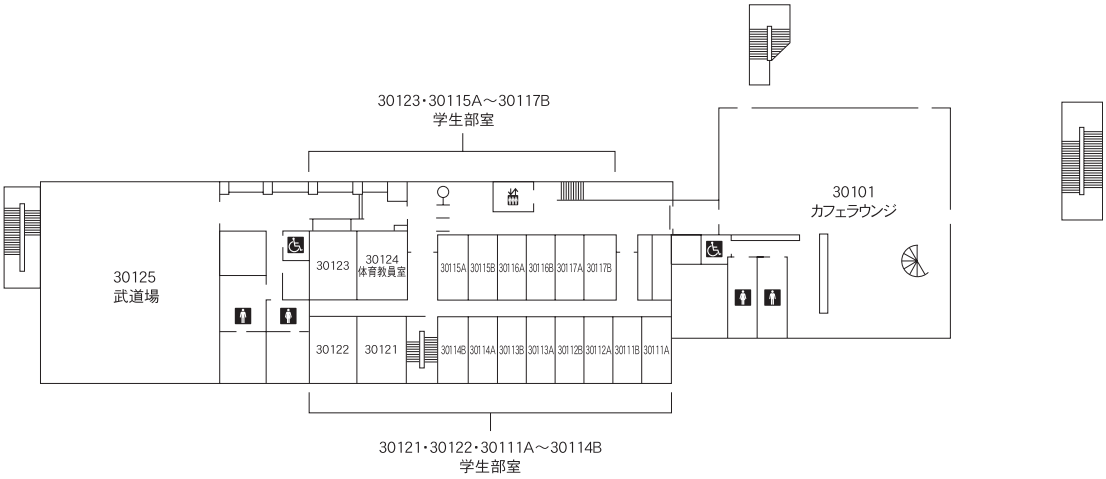

2901教室
（情報コンセント）
学生ラウンジ
2903教室
（情報コンセント）
教職員専用
階段(A)
階段(B)
2905教室
2904教室
階段(D)

9 階

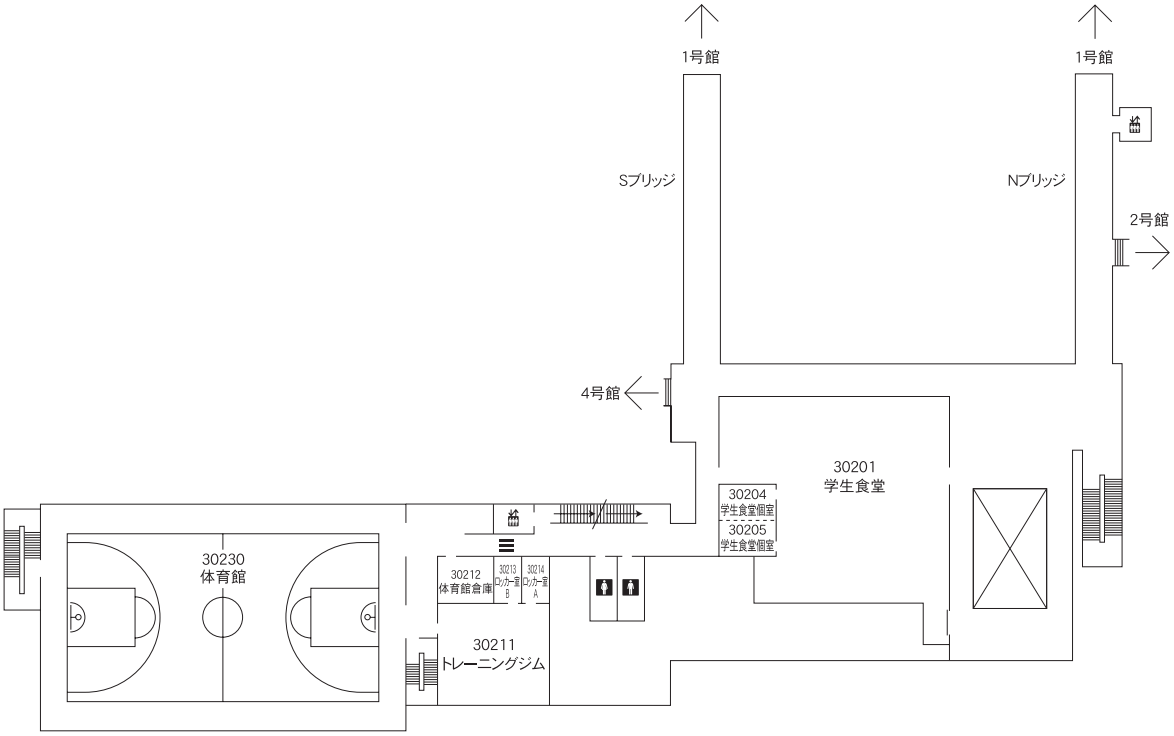

21001教室
（情報コンセント）
学生ラウンジ
21003教室
（情報コンセント）
教職員専用
階段(A)
階段(B)
ランニングコースへ
21005教室
（情報コンセント）
21004教室
（情報コンセント）
階段(D)

10 階

〔3 号館〕

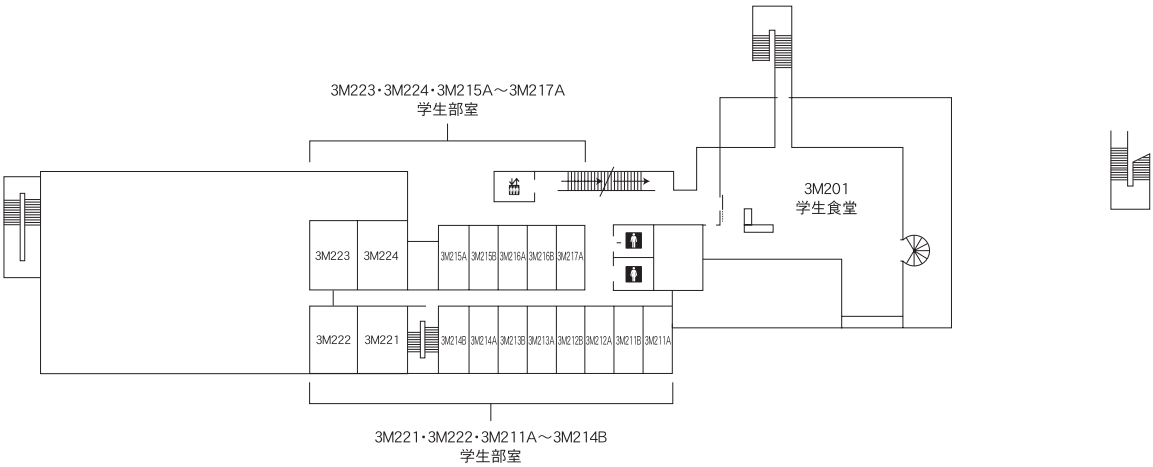

30123・30115A～30117B
学生部室
30125
武道場
30123
30124
体育教員室
30115A
30115B
30116A
30116B
30117A
30117B
30122
30121
30114B
30114A
30113B
30113A
30112B
30112A
30111B
30111A
30101
カフェラウンジ
30121・30122・30111A～30114B
学生部室

1 階

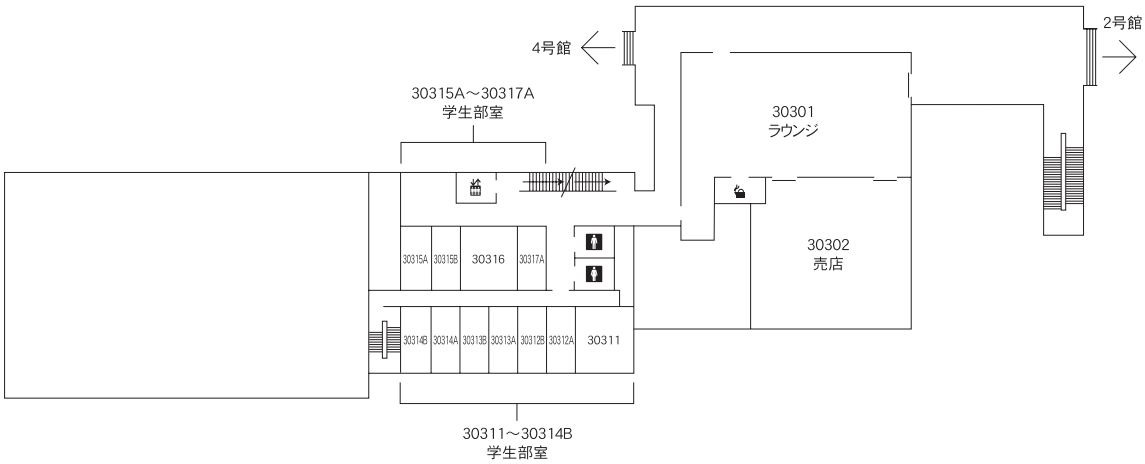

1号館
1号館
Sブリッジ
Nブリッジ
2号館
4号館
30201
学生食堂
30204
学生食堂個室
30205
学生食堂個室
30230
体育館
30212
体育館倉庫
30213
ロッカー室B
30214
ロッカー室A
30211
トレーニングジム

2 階

〔3 号館〕

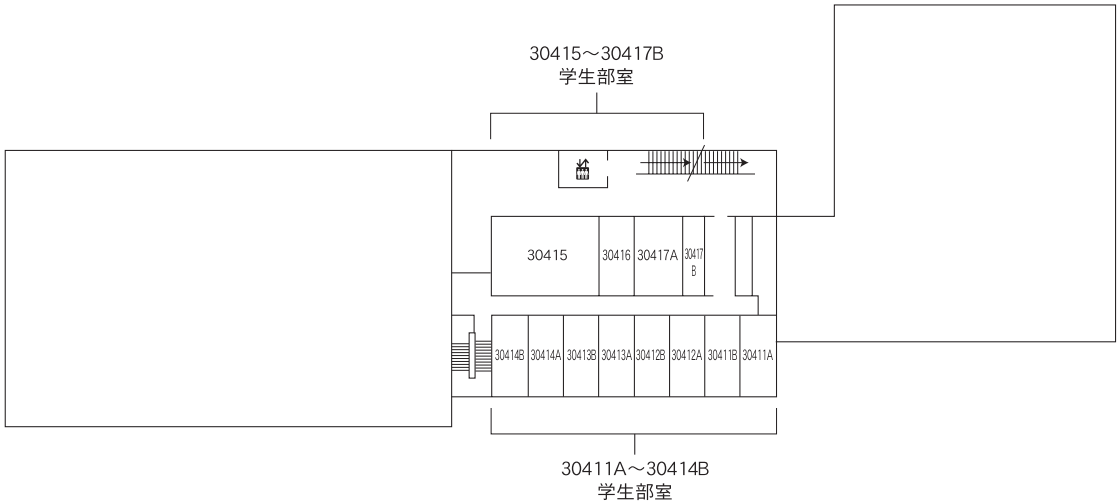

3M223・3M224・3M215A～3M217A
学生部室
3M201
学生食堂
3M223
3M224
3M215A
3M215B
3M216A
3M216B
3M217A
3M222
3M221
3M214B
3M214A
3M213B
3M213A
3M212B
3M212A
3M211B
3M211A
3M221・3M222・3M211A～3M214B
学生部室

M2 階


4号館
2号館
30315A～30317A
学生部室
30301
ラウンジ
30302
売店
30315A
30315B
30316
30317A
30314B
30314A
30313B
30313A
30312B
30312A
30311
30311～30314B
学生部室

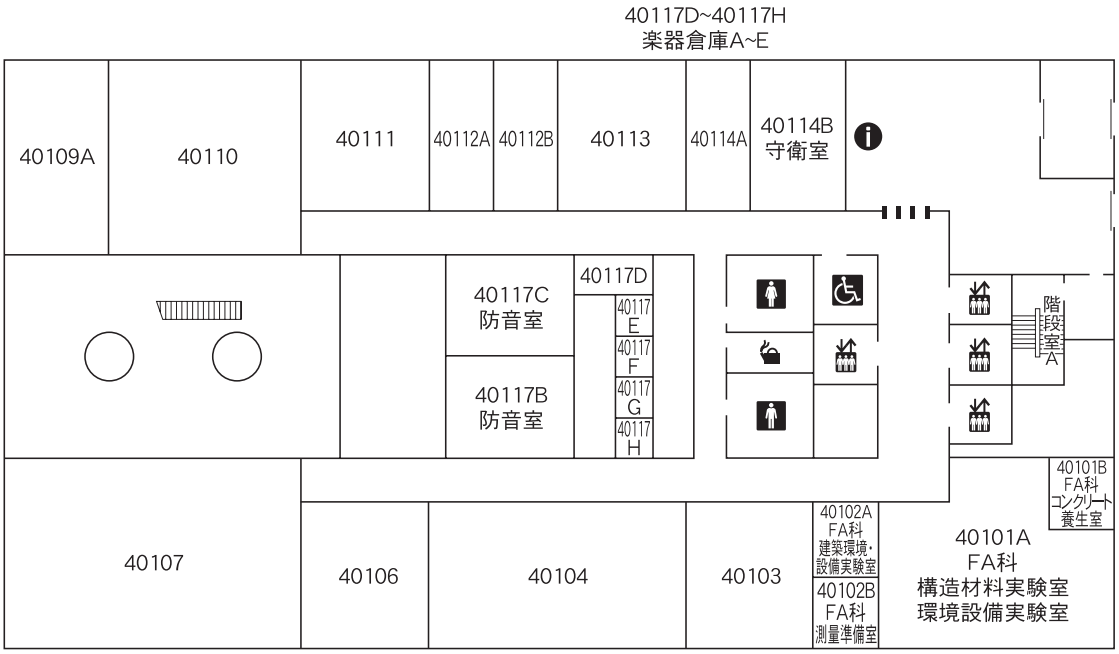
3 階

〔3 号館〕

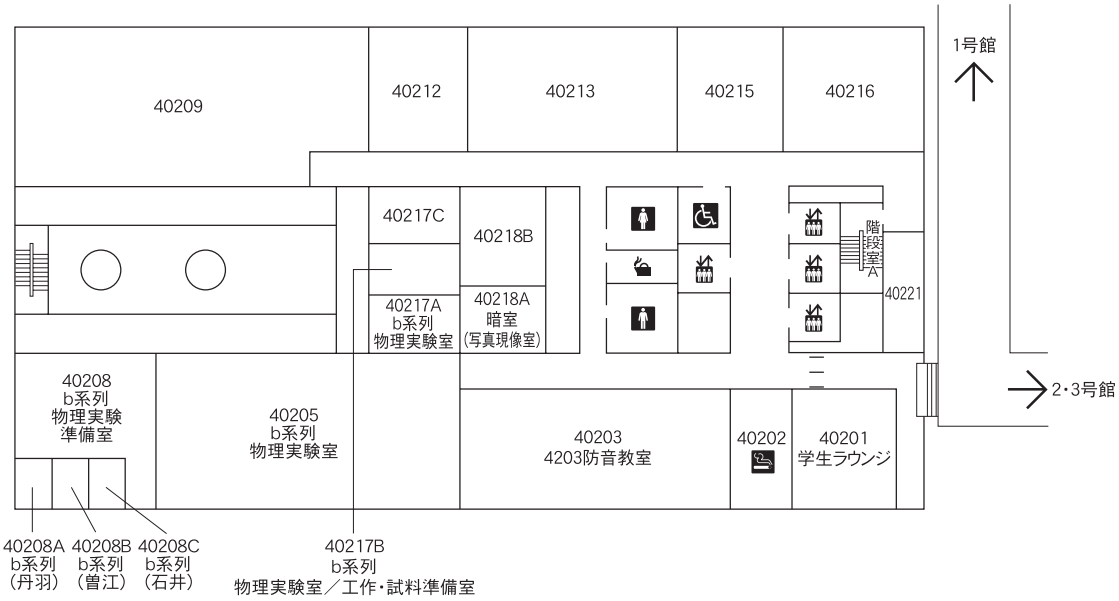

30415～30417B
学生部室
30415
30416
30417A
30417
B
30414B
30414A
30413B
30413A
30412B
30412A
30411B
30411A
30411A～30414B
学生部室

4 階

〔4 号館〕

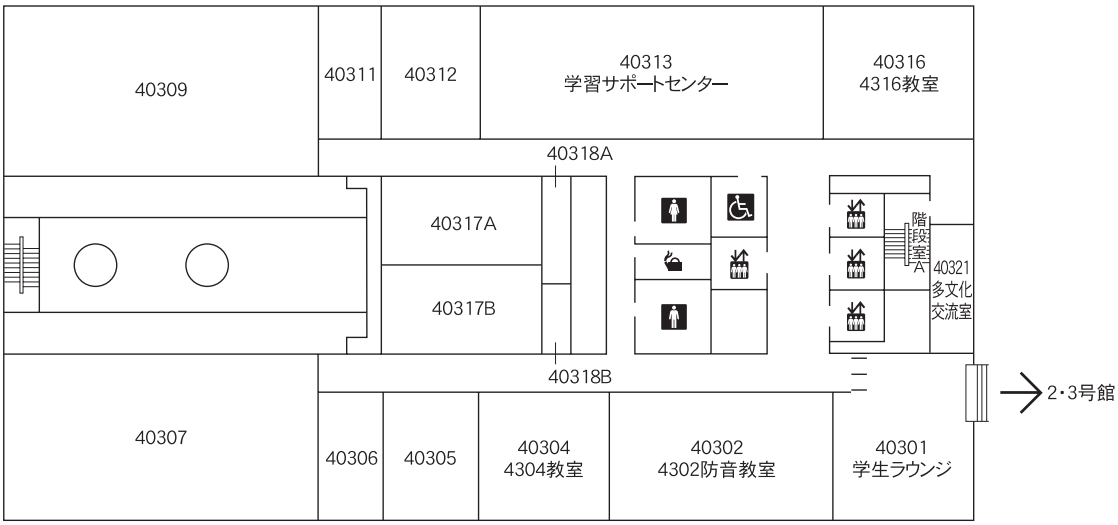

40117D~40117H
楽器倉庫A~E
40109A
40110
40111
40112A
40112B
40113
40114A
40114B
守衛室
40117C
防音室
40117D
40117
E
40117
F
40117
G
40117
H
40117B
防音室
階段室A
40101B
FA科
コンクリート
養生室
40107
40106
40104
40103
40102A
FA科
建築環境・
設備実験室
40102B
FA科
測量準備室
40101A
FA科
構造材料実験室
環境設備実験室

1階

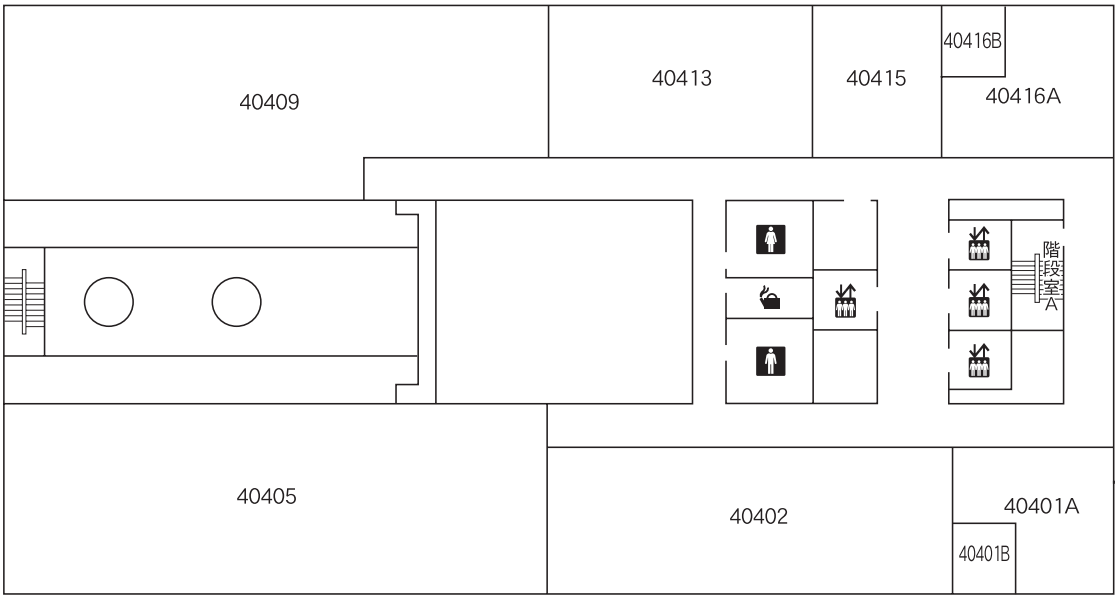

40209
40212
40213
40215
40216
1号館
40217C
40218B
40217A
b系列
物理実験室
40218A
暗室
(写真現像室)
階段室A
40221
2・3号館
40208
b系列
物理実験
準備室
40205
b系列
物理実験室
40203
4203防音教室
40202
40201
学生ラウンジ
40208A
b系列
(丹羽)
40208B
b系列
(曽江)
40208C
b系列
(石井)
40217B
b系列
物理実験室／工作・試料準備室

2階

〔4 号館〕

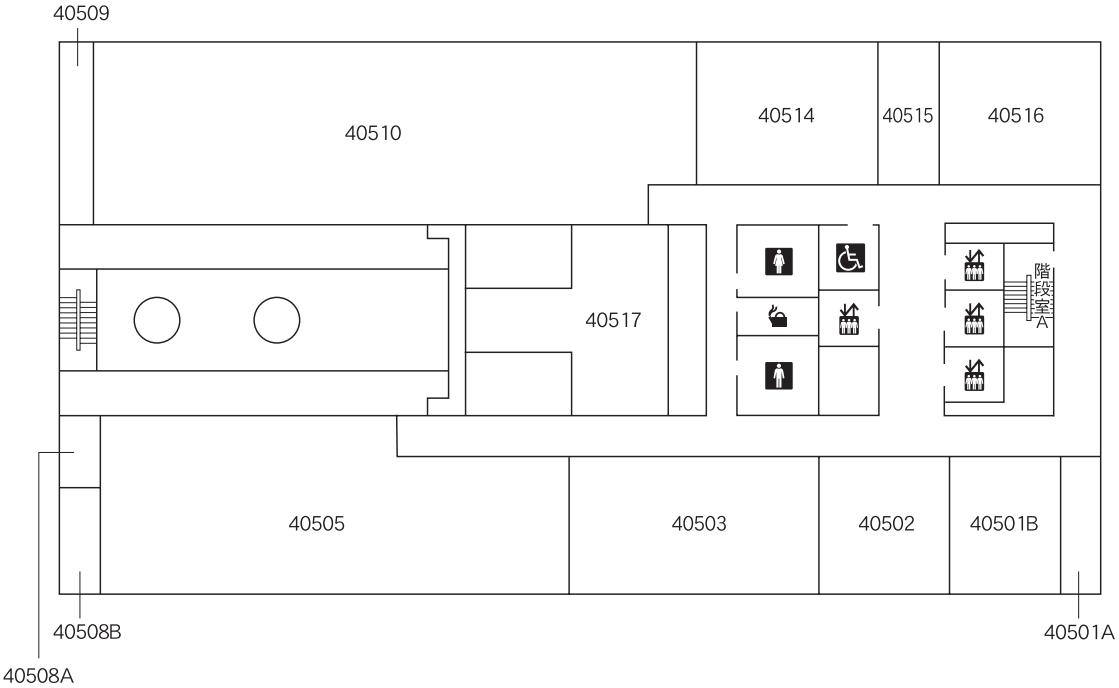

40309
40311
40312
40313
学習サポートセンター
40316
4316教室
40318A
40317A
40317B
階段室A
40321
多文化交流室
40318B
2・3号館
40307
40306
40305
40304
4304教室
40302
4302防音教室
40301
学生ラウンジ

3 階

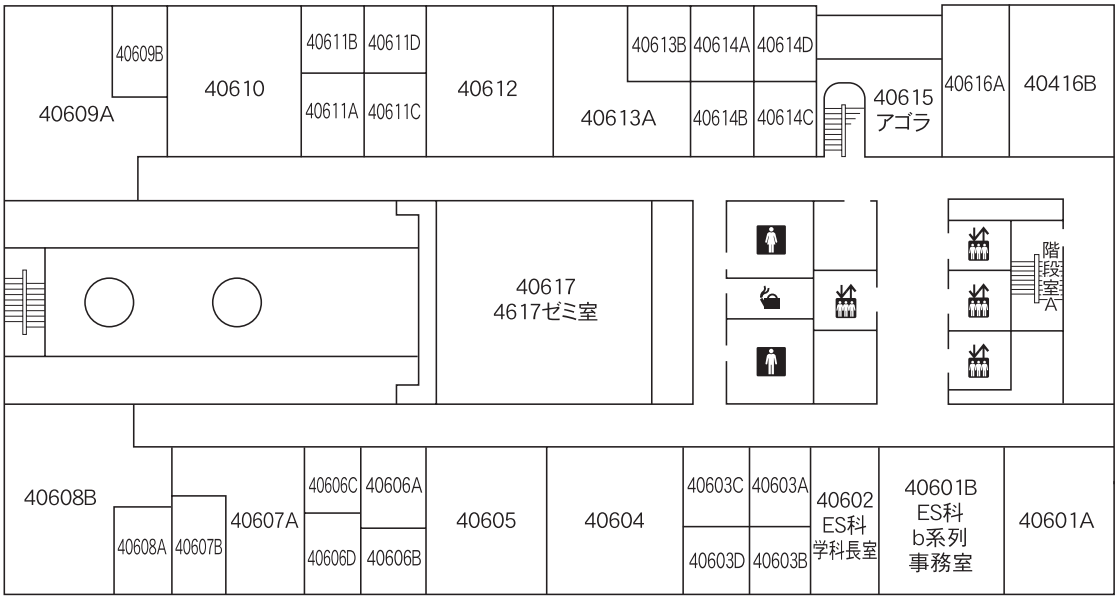

40409
40413
40415
40416B
40416A
階段室A
40405
40402
40401A
40401B

4 階

〔4 号館〕

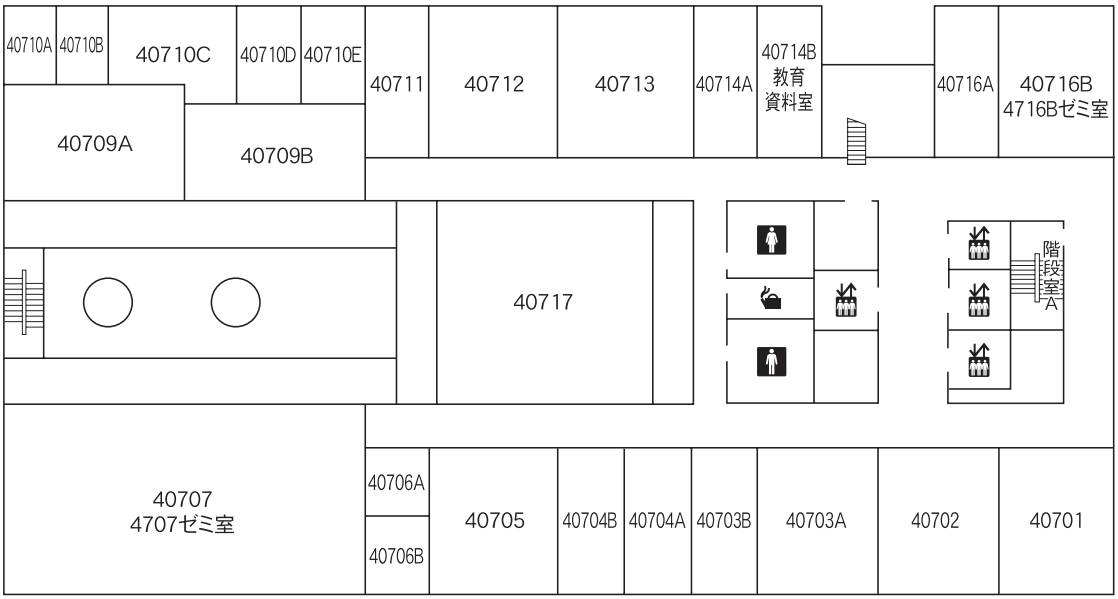

40509
40510
40514
40515
40516
40517
階段室A
40505
40503
40502
40501B
40508B
40501A
40508A

5 階

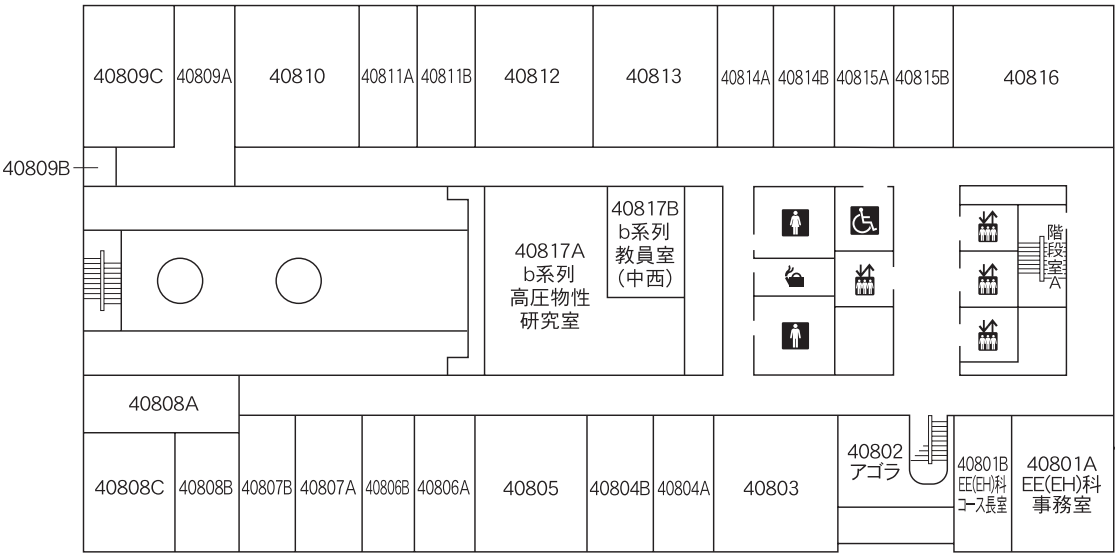

40609B
40609A
40610
40611B
40611D
40611A
40611C
40612
40613B
40614A
40614D
40613A
40614B
40614C
40615
アゴラ
40616A
40416B
40617
4617ゼミ室
階段室A
40608B
40608A
40607B
40607A
40606C
40606A
40606D
40606B
40605
40604
40603C
40603A
40603D
40603B
40602
ES科
学科長室
40601B
ES科
b系列
事務室
40601A

6 階

〔4 号館〕

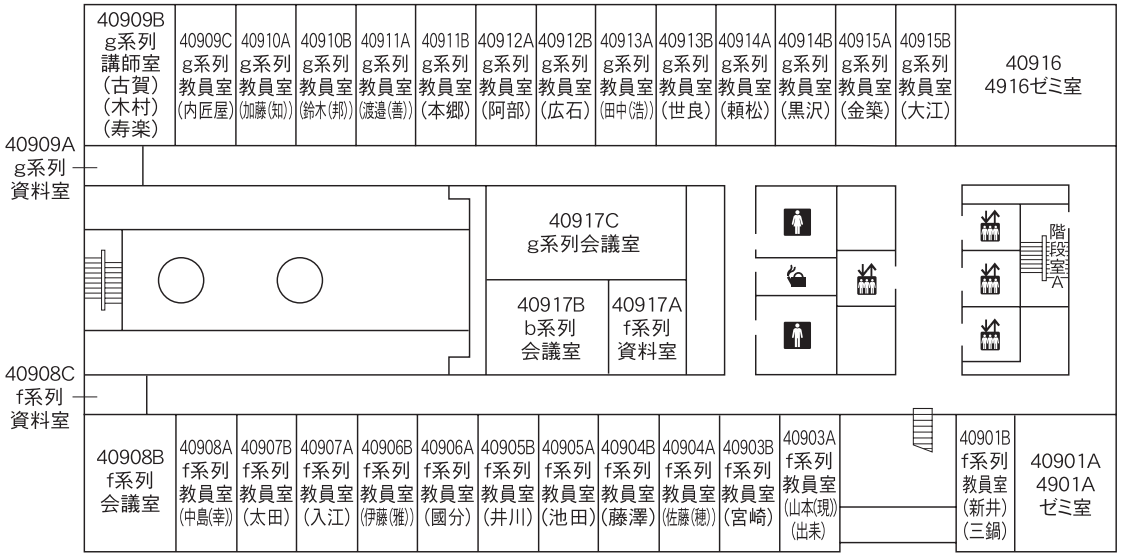

40710A
40710B
40710C
40710D
40710E
40711
40712
40713
40714A
40714B
教育
資料室
40716A
40716B
4716Bゼミ室
40709A
40709B
40717
階段室A
40707
4707ゼミ室
40706A
40706B
40705
40704B
40704A
40703B
40703A
40702
40701

7 階

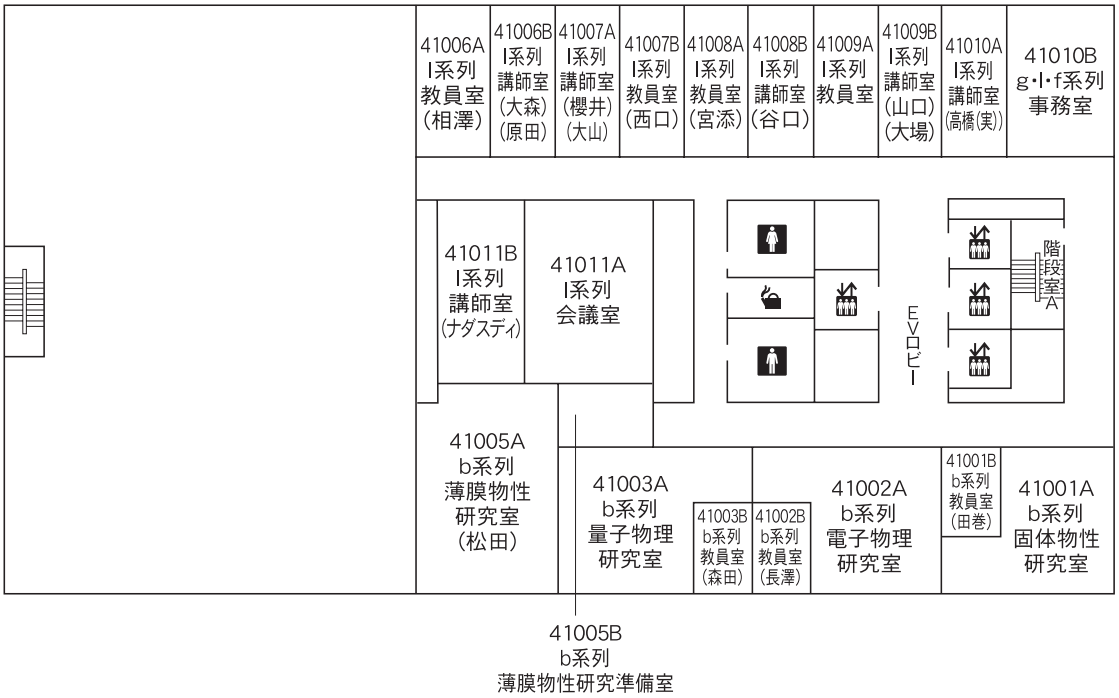

40809C
40809A
40810
40811A
40811B
40812
40813
40814A
40814B
40815A
40815B
40816
40809B
40817A
b系列
高圧物性
研究室
40817B
b系列
教員室
(中西)
階段室A
40808A
40808C
40808B
40807B
40807A
40806B
40806A
40805
40804B
40804A
40803
40802
アゴラ
40801B
EE(EH)科
コース長室
40801A
EE(EH)科
事務室

8 階

〔4 号館〕

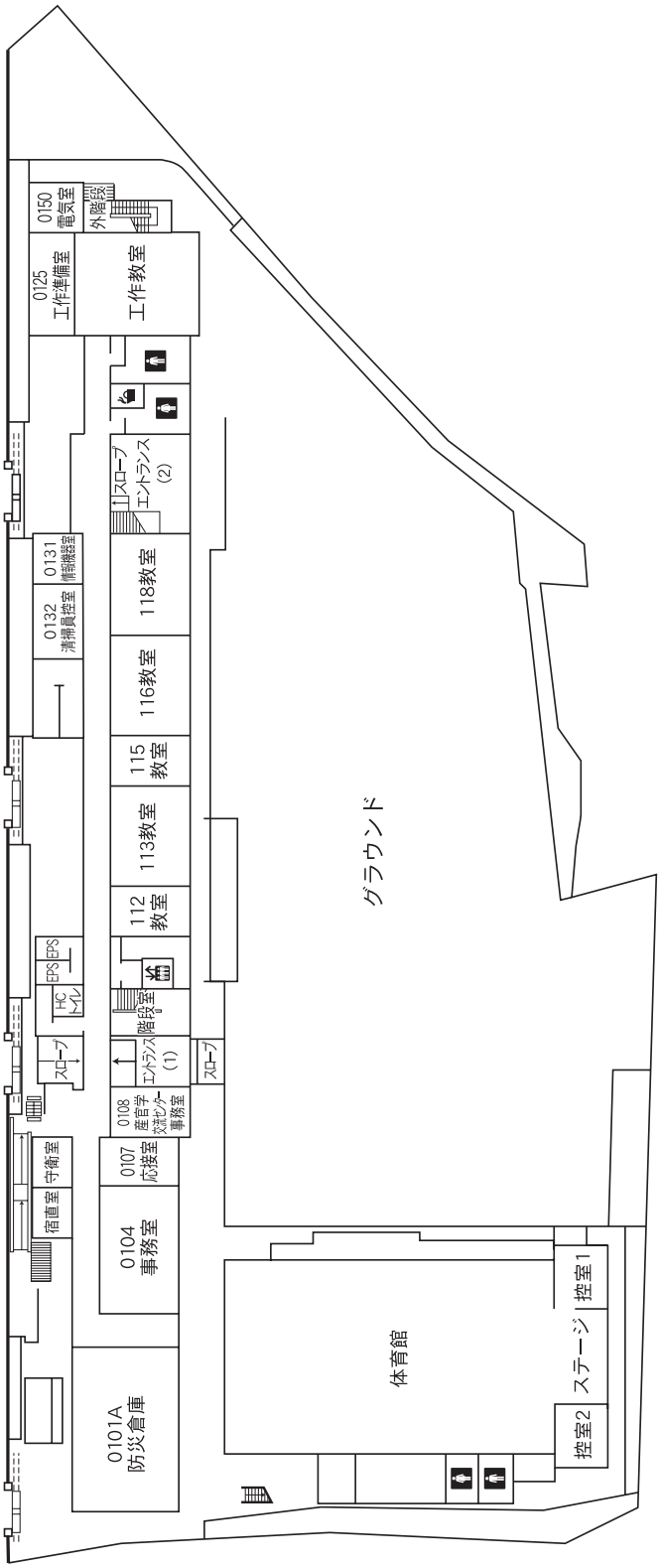

40909B g系列 講師室 (古賀) (木村) (寿楽)
40909C g系列 教員室 (内匠屋)
40910A g系列 教員室 (加藤(知))
40910B g系列 教員室 (鈴木(邦))
40911A g系列 教員室 (渡邉(善))
40911B g系列 教員室 (本郷)
40912A g系列 教員室 (阿部)
40912B g系列 教員室 (広石)
40913A g系列 教員室 (田中(浩))
40913B g系列 教員室 (世良)
40914A g系列 教員室 (頼松)
40914B g系列 教員室 (黒沢)
40915A g系列 教員室 (金築)
40915B g系列 教員室 (大江)
40916 4916ゼミ室
40909A g系列 資料室
40917C g系列会議室
40917B b系列 会議室
40917A f系列 資料室
階段室A
40908C f系列 資料室
40908B f系列 会議室
40908A f系列 教員室 (中島(幸))
40907B f系列 教員室 (太田)
40907A f系列 教員室 (入江)
40906B f系列 教員室 (伊藤(雅))
40906A f系列 教員室 (國分)
40905B f系列 教員室 (井川)
40905A f系列 教員室 (池田)
40904B f系列 教員室 (藤澤)
40904A f系列 教員室 (佐藤(穂))
40903B f系列 教員室 (宮崎)
40903A f系列 教員室 (山本(現)) (出禾)
40901B f系列 教員室 (新井) (三鍋)
40901A 4901A ゼミ室

9 階


41006A I系列 教員室 (相澤)
41006B I系列 講師室 (大森) (原田)
41007A I系列 講師室 (櫻井) (大山)
41007B I系列 教員室 (西口)
41008A I系列 教員室 (宮添)
41008B I系列 講師室 (谷口)
41009A I系列 教員室
41009B I系列 講師室 (山口) (大場)
41010A I系列 講師室 (高橋(実))
41010B g・I・f系列 事務室
41011B I系列 講師室 (ナダスディ)
41011A I系列 会議室
階段室A
EVロビー
41005A b系列 薄膜物性 研究室 (松田)
41003A b系列 量子物理 研究室
41003B b系列 教員室 (森田)
41002B b系列 教員室 (長澤)
41002A b系列 電子物理 研究室
41001B b系列 教員室 (田巻)
41001A b系列 固体物性 研究室
41005B b系列 薄膜物性研究準備室

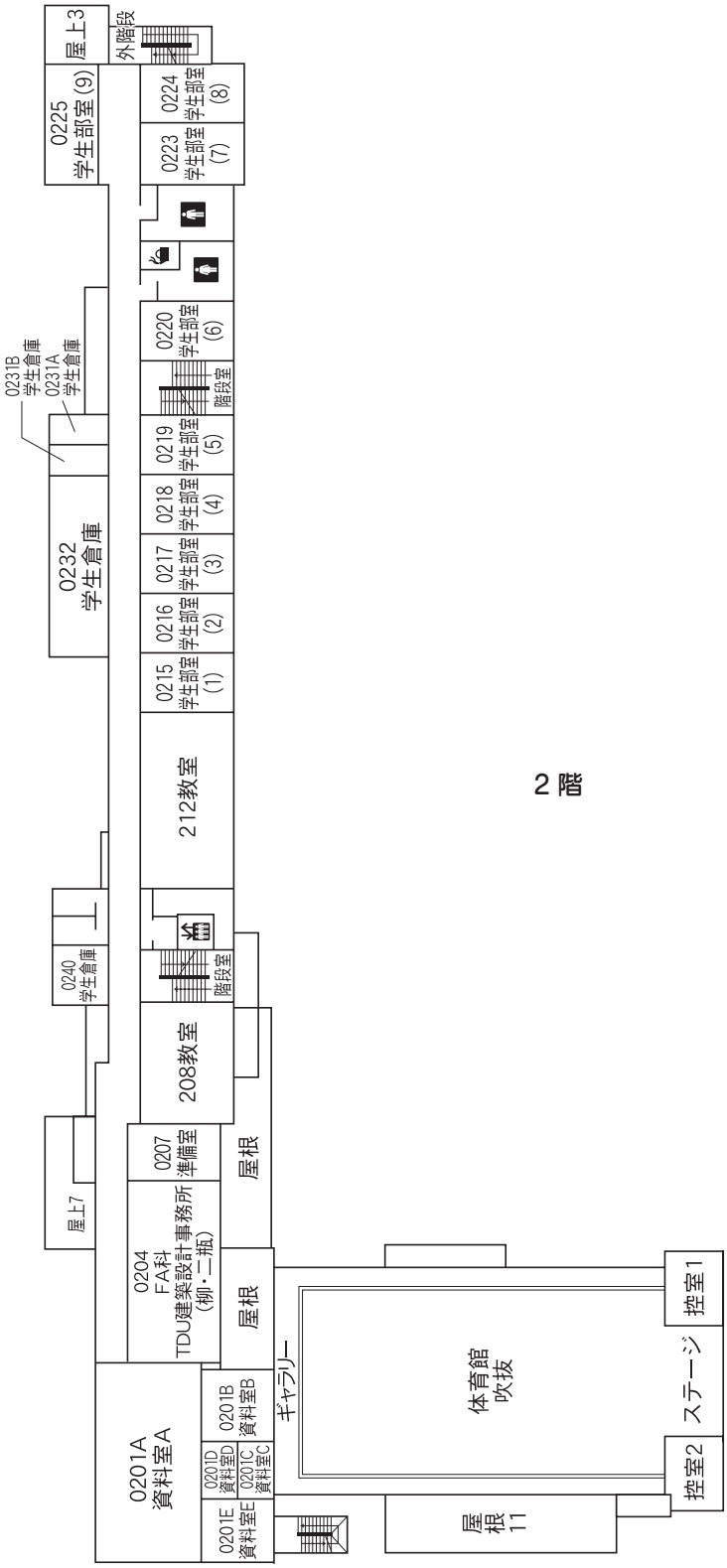
10 階

〔千住アネックス〕


0150
電気室
外階段
0125
工作準備室
工作教室
スロープ
エントランス
(2)
0131
情報機器室
0132
清掃員控室
118教室
116教室
115
教室
113教室
112
教室
EPS
EPS
HC
トイレ
階段室
スロープ
エントランス
(1)
スロープ
0108
産官学
交流センター
事務室
0107
応接室
守衛室
宿直室
0104
事務室
グラウンド
体育館
控室1
ステージ
控室2
0101A
防災倉庫

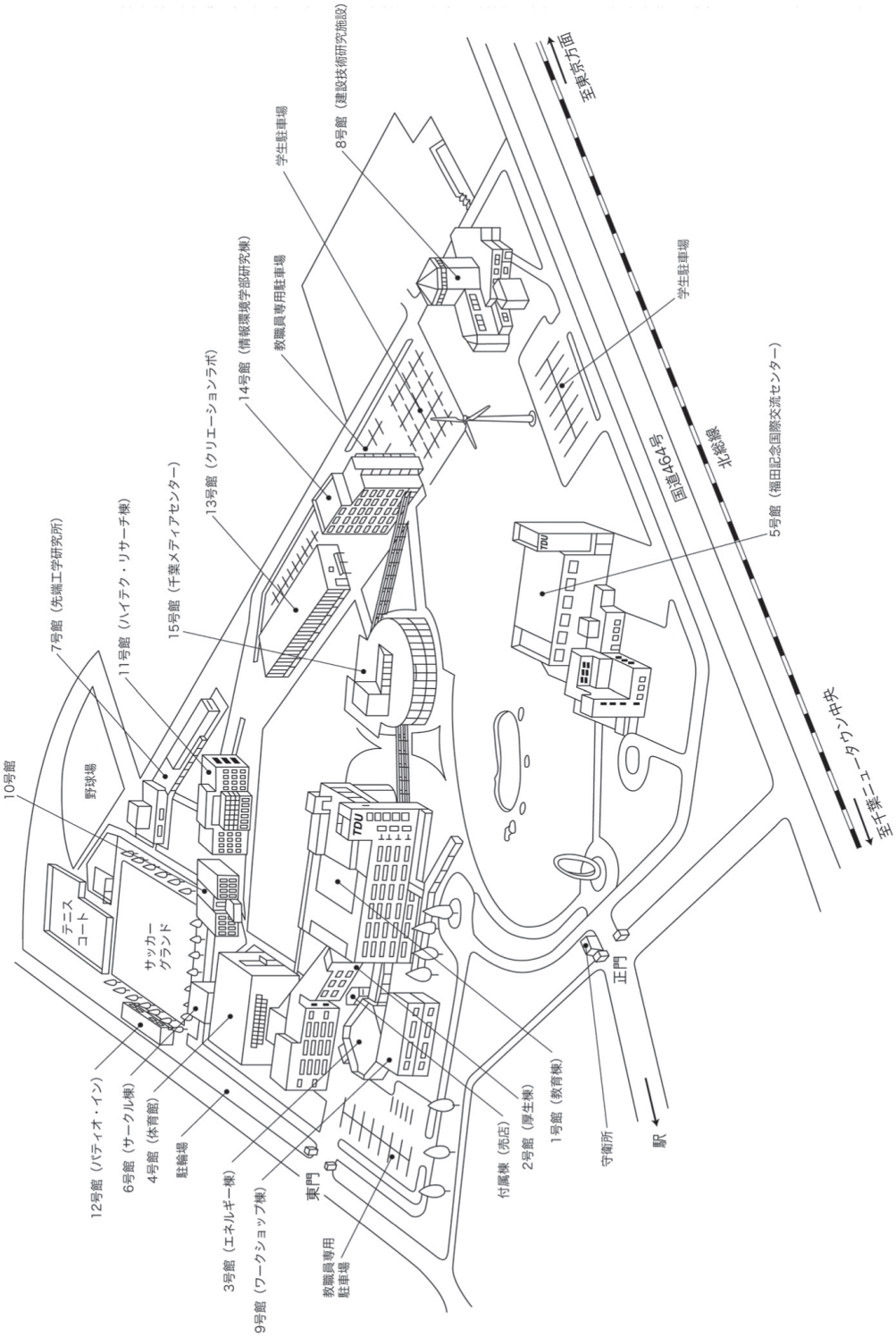
1階

〔千住アネックス〕


屋上3
外階段
0225
学生部室(9)
0224
学生部室
(8)
0223
学生部室
(7)
0220
学生部室
(6)
階段室
0219
学生部室
(5)
0218
学生部室
(4)
0217
学生部室
(3)
0216
学生部室
(2)
0215
学生部室
(1)
0231B
学生倉庫
0231A
学生倉庫
0232
学生倉庫
212教室
0240
学生倉庫
階段室
208教室
0207
準備室
屋上7
0204
FA科
TDU建築設計事務所
(柳・二瓶)
屋根
屋根
ギャラリー
0201A
資料室A
0201B
資料室B
0201D
資料室D
0201C
資料室C
0201E
資料室E
体育館
吹抜
控室1
ステージ
控室2
屋根
11

2 階

千葉ニュータウンキャンパス案内図



大学キャンパス所在地

東京千住キャンパス

〔大学（未来科学部、工学部、工学部第二部）・大学院（未来科学研究科、工学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒 120-8551　東京都足立区千住旭町 5 番

工学部・未来科学部事務部（教務担当）	03-5284-5333
学生支援センター（学生厚生担当）	03-5284-5340
学生支援センター（キャリア支援・就職担当）	03-5284-5344
総合メディアセンター（図書）	03-5284-5377
総合メディアセンター（コンピュータ）	03-5284-5372
経理部（会計担当）	03-5284-5131

千葉ニュータウンキャンパス

〔大学（情報環境学部）・大学院（情報環境学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒 270-1382　千葉県印西市武西学園台 2 － 1200

TEL：0476-46-4111

埼玉鳩山キャンパス

〔大学（理工学部）・大学院（理工学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒 350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂

TEL：049-296-0042

本冊子は新入生のみに配布されます。

修了するまで大切に取扱いください。

未来科学研究科

TDU